千葉県文化財センター調査報告第415集

野田市南下ヶ村遺跡

―― 主要地方道我孫子関宿線埋蔵文化財調査報告書 ――

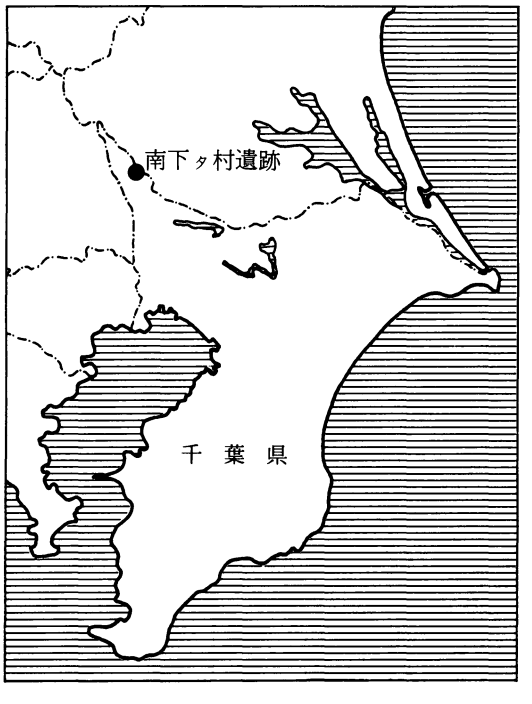
平成13年3月

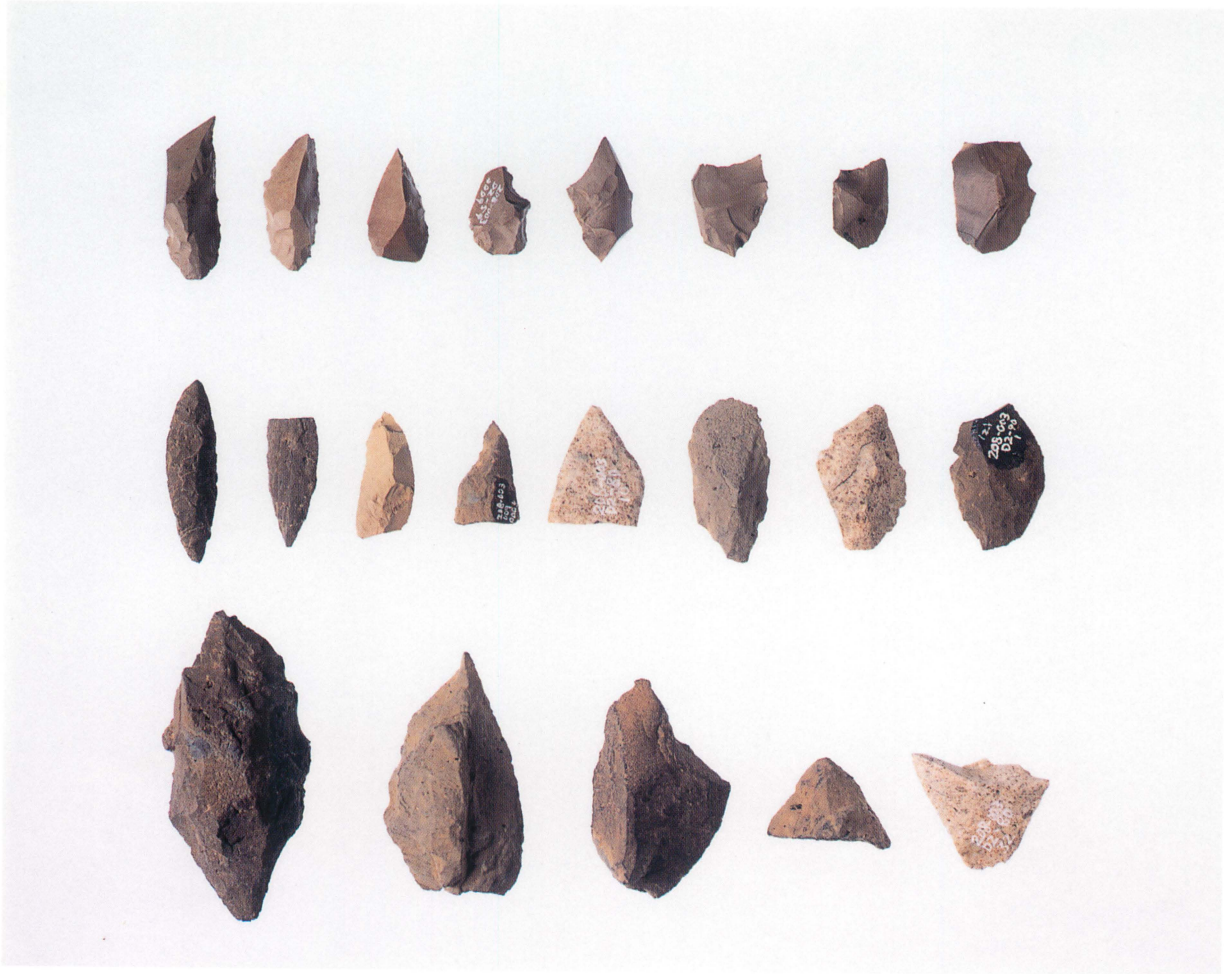
千　葉　県　土　木　部

財団法人　千葉県文化財センター

野田市南下ヶ村遺跡

―― 主要地方道我孫子関宿線埋蔵文化財調査報告書 ――





旧石器時代石器群

序　　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告第415集として，千葉県土木部の主要地方道我孫子関宿線建設に伴って実施した野田市南下ヵ村遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，尖頭器やナイフ形石器などの旧石器や古墳時代の住居跡などがみつかり，この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。この報告書が，学術資料として，また文化財の保護，普及の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成13年３月30日

財団法人千葉県文化財センター

理事長　中　村　好　成

凡　　例

1　本書は，千葉県土木部による主要地方道我孫子関宿線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は，千葉県野田市目吹1690-1ほかに所在する南下ヶ村遺跡（遺跡コード208-003）である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，千葉県の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者，実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆は，副所長　川島利道が行った。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁生涯学習部文化課，千葉県土木部東葛飾土木事務所，野田市教育委員会の御指導，御協力を得た。

7　本書で使用した地形図は下記のとおりである。

第１図　参謀本部陸軍測量図　1/20,000 地形図　野田町

第６図　国土地理院発行　　1/25,000 地形図　守谷（N1-54-25-1-1）

野田市（N1-54-25-1-3）

8　図版１に使用した周辺地形航空写真は，京葉測量株式会社による昭和44年撮影のものを使用した。

9　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。

10　挿図に使用したスクリーントーン及び記号の用例は，その都度示した。

11　本書で使用した遺構番号の一部については，調査時に付した番号を下記のように変更した。

調　査　時	報　告　書	調　査　時	報　告　書
００９	抹　消	ＳＤ００２	０１３
ＳＤ００１	０１２	ＳＫ００１	００９

本 文 目 次

第１章　はじめに …… 1
　第１節　調査の概要 …… 1
　　1　調査の経緯と経過 …… 1
　　2　調査の方法 …… 3
　第２節　遺跡の位置と環境 …… 3
　　1　遺跡周辺の地理的環境 …… 3
　　2　周辺遺跡 …… 4
第２章　検出した遺構と遺物 …… 8
　第１節　旧石器時代 …… 8
　　1　第１文化層 …… 8
　　2　第２文化層 …… 21
　第２節　縄文時代 …… 42
　　1　遺　物 …… 42
　第３節　古墳時代 …… 42
　　1　遺構・遺物 …… 42
　第４節　中近世 …… 52
　　1　遺構・遺物 …… 52
第３章　まとめ …… 59
　第１節　旧石器時代 …… 59
　第２節　古墳時代 …… 60
　第３節　中　世 …… 60
報告書抄録 …… 巻末

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧 …… 7
第２表　文化層と石器組成 …… 9
第３表　第１文化層石器組成表 …… 9
第４表　第１文化層石器属性表 …… 10
第５表　第１礫群構成礫属性表 …… 11
第６表　第１礫群構成礫母岩別一覧 …… 14
第７表　第２文化層石器組成表 …… 21
第８表　第２文化層石器属性表 …… 23
第９表　第２文化層礫属性表 …… 30
第10表　貝層ブロック内容物組成(1) …… 63
第11表　貝層ブロック内容物組成(2) …… 63
第12表　貝層ブロック軟体動物出土量（ｇ） …… 63

図 版 目 次

巻頭図版　旧石器時代石器群
図版１　南下タ村遺跡と周辺の地形
図版２　調査前遺跡近景
　　平成９年度調査区（北から）
　　平成９年度調査区（東から）
図版３　上層確認調査
　　００３全景
　　００３遺物出土状況
図版４　００４全景
　　００４遺物出土状況
　　００４焼土と炭化材
図版５　００５全景
　　００６全景
　　００６遺物出土状況
図版６　００７貝層出土状況(1)
　　００７貝層出土状況(2)
　　００８全景
図版７　第１ブロック遺物出土状況
　　第２ブロック遺物出土状況
　　土層断面
図版８　第１文化層出土石器(1)
図版９　第１文化層出土石器(2)
図版10　第１文化層出土石器(3)
図版11　第１文化層出土石器(4)
　　第１礫群構成礫(1)
図版12　第２文化層出土石器(1)
図版13　第２文化層出土石器(2)
図版14　第２文化層出土石器(3)
図版15　第２文化層出土石器(4)
図版16　第２文化層出土石器(5)
図版17　第２文化層出土石器(6)
図版18　縄文時代遺物(1)
図版19　縄文時代遺物(2)
図版20　古墳時代遺物(1)
図版21　古墳時代遺物(2)
図版22　古墳時代遺物(3)
図版23　中近世遺物(1)
図版24　中近世遺物(2)
図版25　地下式坑出土貝類

挿 図 目 次

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　調査区位置図 …… 5
第３図　上層遺構分布図 …… 5
第４図　下層遺構分布図 …… 5
第５図　土層柱状図 …… 5
第６図　周辺の遺跡分布 …… 6
第７図　第１ブロック分布図 …… 12
第８図　第１ブロック石器分布図 …… 13
第９図　第１礫群分布図 …… 14
第10図　第１文化層剥片長幅分布図 …… 15
第11図　第１文化層打角分布図 …… 15
第12図　第１文化層石器石材別重量比 …… 15
第13図　第１礫群構成礫重量別個数 …… 15
第14図　第１礫群構成礫石材別重量比 …… 15
第15図　第１礫群構成礫遺存状況 …… 15
第16図　第１文化層出土石器(1) …… 16
第17図　第１文化層出土石器(2) …… 17
第18図　第１文化層出土石器(3) …… 18
第19図　第１文化層石器接合図(1) …… 19
第20図　第１文化層石器接合図(2) …… 20
第21図　第２ブロック分布図 …… 27
第22図　第２文化層剥片長幅分布図 …… 28
第23図　第２文化層打角分布 …… 28
第24図　第２文化層石器石材別重量比 …… 28
第25図　第２文化層出土石器(1) …… 29
第26図　第２文化層出土石器(2) …… 30
第27図　第２文化層出土石器(3) …… 31
第28図　第２文化層出土石器(4) …… 32
第29図　第２文化層出土石器(5) …… 33
第30図　第２文化層出土石器(6) …… 34
第31図　第２文化層出土石器(7) …… 35
第32図　第２文化層出土石器(8) …… 36
第33図　第２文化層石器接合図(1) …… 37
第34図　第２文化層石器接合図(2) …… 38
第35図　第２文化層石器接合図(3) …… 39
第36図　第２文化層石器接合図(4) …… 40
第37図　第２文化層石器接合図(5) …… 41
第38図　縄文時代出土遺物 …… 43
第39図　００３ …… 44
第40図　００４ …… 45
第41図　００４遺物分布図 …… 45
第42図　００４焼土及び炭化物分布図 …… 46
第43図　古墳時代出土遺物(1) …… 47
第44図　古墳時代出土遺物(2) …… 48
第45図　００６ …… 49
第46図　００６遺物分布図 …… 50
第47図　古墳時代出土遺物(3) …… 51
第48図　００５ …… 54
第49図　００７・００８・００９ …… 55
第50図　００１・００２ …… 56
第51図　０１０・０１１・０１２・０１３ …… 57
第52図　中近世出土遺物 …… 58
第53図　旧石器時代石器群 …… 60
第54図　古墳時代前期土器 …… 62

第1章　はじめに

第1節　調査の概要

1　調査の経緯と経過

国道6号線の我孫子市根戸から利根川に沿って関宿町桐ヶ作に至る県道を主要地方道我孫子関宿線と呼称するが，野田市目吹付近が未整備であったため，千葉県はこの区間の整備を計画した。この道路整備事業に当たって，千葉県土木部道路建設課は，千葉県教育委員会に対し，事業予定地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会を提出した。これに対して千葉県教育委員会から，事業地内に遺跡が所在する旨の回答が出された。その後，遺跡の取り扱いについて，千葉県教育委員会と千葉県土木部との協議が重ねられ，その結果，発掘による記録保存の措置を講ずることで協議が整った。

発掘調査は財団法人千葉県文化財センターが実施することとなり，千葉県との委託契約を締結し，平成9年度と平成10年度の2回にわたって実施した。

整理作業は，発掘が終了した翌年の平成11年度に遺物の水洗・注記から挿図・図版作成まで実施し，平成12年度に原稿執筆を実施して報告書の印刷・刊行に至った。

なお，各年度の実施期間，担当者，作業内容は以下のとおりである。

平成9年度（発掘調査）

期　　間　平成10年2月2日～3月30日
調査部長　西山太郎，北部調査事務所長　折原　繁
担　　当　主任技師　沖松信隆，技師　大内千年
作業内容　上層確認調査　240㎡/2,400㎡　上層本調査　917㎡
　　下層確認調査　96㎡/2,400㎡　下層本調査　215㎡

平成10年度（発掘調査）

期　　間　平成10年5月6日～6月30日
調査部長　沼澤　豊，西部調査事務所長　鈴木定明
担　　当　研究員，白鳥　章
作業内容　上層確認調査　220㎡/2,200㎡
　　下層確認調査　176㎡/2,200㎡

平成11年度（整理作業）

期　　間　平成11年6月1日～6月30日
　　平成11年10月1日～12月28日
　　平成12年3月1日～3月30日
調査部長　沼澤　豊，西部調査事務所長　及川淳一

第１図　遺跡位置図

担　　当　副所長　川島利道

作業内容　遺物の水洗・注記，図面・写真等記録類の整理，遺物の分類・選別，復元，実測，挿図・図面作成

平成12年度（整理作業）

期　　間　平成10年８月１日～10月31日

調査部長　沼澤　豊，西部調査事務所長　及川淳一

担　　当　副所長　川島利道

作業内容　原稿執筆

2　調査の方法

調査は，調査区全体に公共座標に基づき40ｍメッシュを組み，西からＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ，北から１・２・３と記号を付し，それを組み合わせた40ｍ×40ｍを大グリッドとしてＡ１区，Ｅ３区等とした（第２図・第３図)。また，この大グリッドをさらに４ｍ×４ｍの100個に分割し，西から00・01・・・09，北から00・10・・・90と記号を付し，これを小グリッドとしてＡ１－00，Ｅ３－99等とした。

上層調査は，２ｍ幅のトレンチにより遺構・遺物の分布状況を確認した後，表土除去後本調査を実施した。下層調査は，２ｍ×２ｍのグリッドにより遺物の出土状況を確認の後，遺物の集中地点について本調査を実施した。

その結果，第１次調査では，上層から古墳時代の竪穴住居跡３軒，中世の地下式坑２基，中近世の井戸状遺構１基，溝状遺構４条，下層からは石器集中地点（ブロック）を２ヶ所検出した。また，第２次調査では，中近世の井戸状遺構１基，溝状遺構２条を検出した（第３図・第４図)。遺物としては，尖頭器石器群，ナイフ形石器群，古墳時代前期土師器，中世陶器・土器等が出土した。

第２節　遺跡の位置と環境

1　遺跡周辺の地理的環境

第１図は明治13年頃の地形図であるが，遺跡の北側には利根川とその両岸に数ヶ所の湿地が存在していたことがわかる。江戸時代に河川の付け替えや新流路の掘削により，現在の東京湾へ流れていた利根川の流路を銚子を経て直接太平洋へ流れるようにした。そのためこのあたりの景観は変貌し，第１図からさらには第６図のように，この付近の流路は次第に利根川に収斂されていったのである。これに対して，江戸時代以前はもっと沼沢地が広がる景観を呈していたと考えられ，そのような広大な沼沢地を望む場所に本遺跡が立地していたことになる。

遺跡付近は現在北側が大きく削平されているが，もとは北側の低地に少し張り出した地形で，標高は約15～16ｍである。

遺跡の土層については第５図に示したが，その概要を以下に説明する。

Ⅰ層　黒褐色土層　　表土腐食土層で，調査区のほとんどで畑の耕作土となっている。

Ⅱ層　暗褐色土層　　縄文時代以降の土層であるが，上部は大半がⅠ層に取り込まれているため，残存しているⅡ層のほとんどは縄文時代のものと考えられる。

Ⅲ層　黄褐色土層　　ソフトローム層と呼ばれる立川ローム層最上層

Ⅳ層　黄褐色土層　　本来は立川ローム層最上部のハードローム層であるが，ソフト化が進み大半がⅢ層に取り込まれたため，ほとんどのところで確認できない。

Ⅴ層　暗黄褐色土層　立川ローム層第1黒色帯であるが，ソフト化が進みⅢ層に取り込まれているところが多い。

Ⅵ層　黄褐色土層　　姶良丹沢（ＡＴ）火山灰を含み，火山ガラスと思われる白色粒子が多い。ソフト化がかなり進んでいる。

Ⅶ層　暗黄褐色土層　立川ローム層第2黒色帯の上部に相当し，黒みがあまり強くない。Ⅵ層からⅨ層への漸移層とも言える。

Ⅷ層　黄褐色土層　　立川ローム層第2黒色帯の上部と下部の間にある間層に相当するが確認できなかった。

Ⅸ層　暗黄褐色土層　立川ローム層第2黒色帯の下部に相当し，赤色スコリアを含み，黒み，粘性とも強い。ａ～ｃに分層されることもあるが，ここでは分けられなかった。

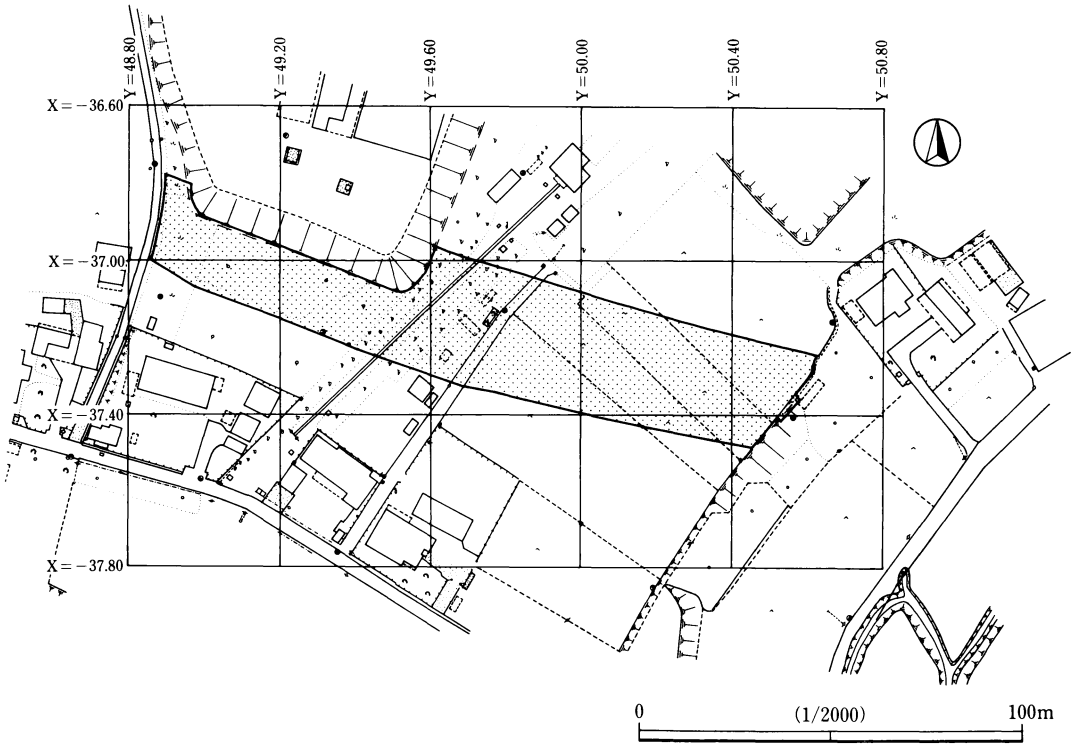
Ⅹ層　黄褐色土層　　立川ローム層最下部層と思われ，スコリアを少量含み明るい。

Ⅺ層　黄褐色土層　　武蔵野ローム層最上部層と思われ，やや暗く軟質である。

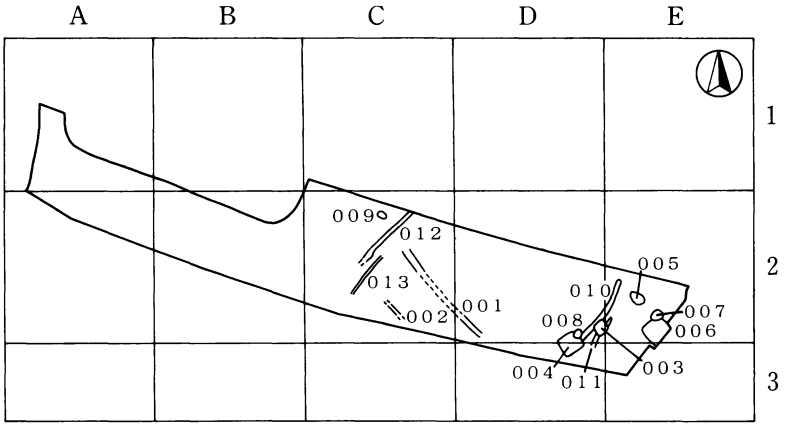
2　周辺遺跡（第6図，第1表）

本遺跡近くにはゴルフ場が二つもあり，そのためか付近に確認されている遺跡は少ない[1]。時代順に概観すれば，旧石器時代の遺物が確認されている遺跡は少なく，本遺跡のほかは上原遺跡，上灰毛遺跡，二ツ塚古墳群で石器が出土しており，上原遺跡からは礫群が検出されている。縄文時代になるとほとんどの遺跡から土器片が出土し，特に前期の遺跡が顕著である。貝塚も数ヶ所で確認されており，近くの目吹新立貝塚は，昭和35年の調査で前期の集落跡が検出されている。弥生時代の遺跡として確認されたのは数ヶ所に止まるが，次の古墳時代になると遺跡数が急増し，特に本遺跡のように前期の集落跡が多数確認されている。これに対して，古墳の数は多いとはいえず，古墳群も数ヶ所で確認されているのみである。奈良・平安時代の遺跡も僅少である。また，中近世になると，城跡や寺院跡が散見される。本遺跡のすぐ近くにも詳細は不明であるが，目吹城跡の伝承地がある。この地域の近世遺跡の特徴として，あるいは下総台地の特徴ともいえるが，牧の遺跡としての野馬土手・野馬堀の存在がある。野馬土手の多くは削平されて消滅してしまったが，遺存している場合は低い土手状の高まりとして見ることができる。また，野馬堀は埋め立てられて不明なことも多いが浅い溝状なものとして観察されることもある。

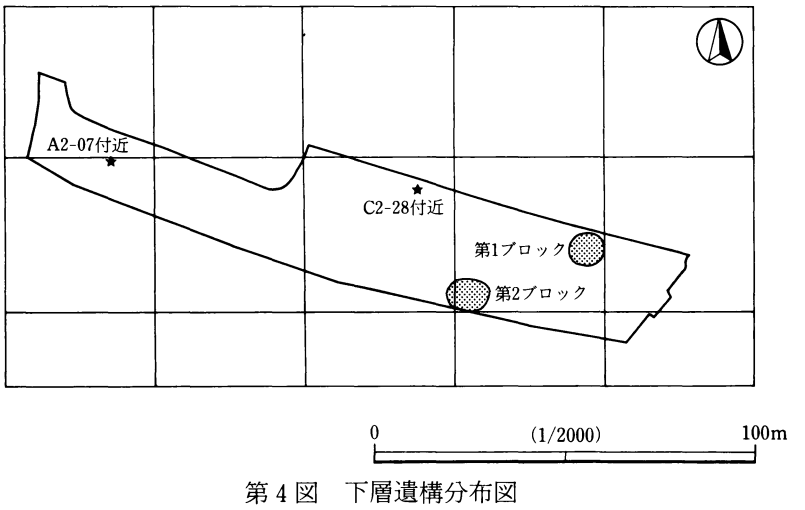
注1　財団法人千葉県文化財センター　1997『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)―東葛飾・印旛地区（改訂版）―』千葉県文化財センター調査報告第316集



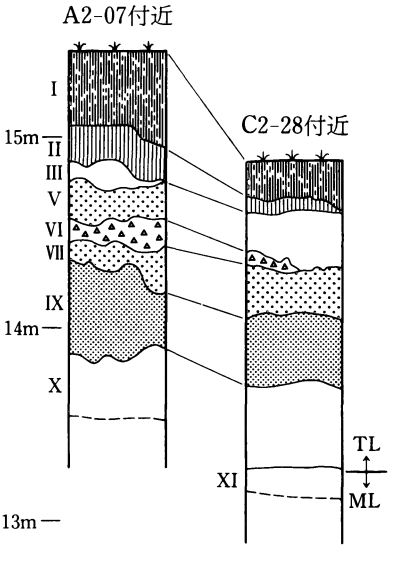
第2図　調査区位置図



第3図　上層遺構分布図



第4図　下層遺構分布図



第5図　土層柱状図

船形中二区
船形上
船形
船形五区
船形中一区
清掃工場
莚打
目吹大橋
岩井市
矢作
矢作新田
目吹六区
船形下
蕃昌
野田ゴルフ場
目吹五区
目吹
目吹四区
目吹三区
目吹二区
目吹一区
高根
金杉
吉春
柳沢
鶴奉
宮崎
横内
野田
中根
矢殿井
紫ゴルフ場
鹿野
木野崎
梅郷団地
梅郷ゴルフ場
堤根
花
桜台
大和
川崎重工工場
今上上
野田市
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
45
46
47
48
49
51
52
53
54
55
56
57
59
60
61
62
63
64
67
68

第6図　周辺の遺跡分

第1表　周辺遺跡一覧

番号	遺　跡　名	時　期	遺　構　・　遺　物	備　考
1	南下夕村	旧石器・縄文・古墳（前）・中世	旧石器・土師器・陶器・石臼	本報告書
2	目吹城跡	中近世		
3	観蔵院跡	中近世		
4	正明寺跡	中近世	板碑（貞和5年）	明治初年廃寺
5	西浦貝塚	縄文	縄文土器	
6	船形館跡	中世	土塁	
7	谷津第1	縄文	縄文土器	
8	谷津第5	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
9	吉春	中世	墓跡・板碑・瀬戸・常滑	
10	鳥居崎	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
11	西宮野	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
12	溜井	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
13	栗向	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
14	根田	古墳	土師器	H5調査
15	向原第1	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
16	向原第2	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
17	大塚山古墳群	縄文・古墳	縄文土器・土師器	H5調査
18	下畔ヶ谷	縄文（中）	住居跡・縄文土器	H4.5調査
19	横市前塚群	近世	塚	S62調査
20	横市前野馬土堤	近世	野馬土手・野馬堀	H1調査
21	上花輪貝塚	縄文	縄文土器	
22	明浄寺貝塚	縄文	地点貝塚・縄文土器	
23	桜台	縄文（早）・古墳（前）	住居跡・縄文土器・土師器	S43.54H2.3.4.5調査
24	中根八幡前	縄文（前）・弥生（後）	住居跡・縄文土器・弥生土器	市指定史跡S26.62調査
25	三丁歩	古墳（早・前）	土師器	S56調査
26	三丁歩Ⅱ	縄文・近世	土坑・縄文土器・野馬土手・野馬堀	S57H1.2調査
27	上原	旧石器・縄文（早）・近世	礫群・旧石器・炉穴・縄文土器・野馬堀	S56H3.6.7調査
28	堤根古墳	古墳	円墳（塚）	H10調査
29	門倉古墳	古墳	埴輪	
30	桜台（高崎家裏）古墳	古墳	円墳	
31	桜台高崎家前	古墳（前）	方形周溝墓・土師器	
32	北大和田	奈良・平安	住居跡・土師器・須恵器	S58調査
33	上野馬込	縄文（前）・古墳（前）・近世	住居跡・縄文土器・土師器・野馬土手・野馬堀	S48.56H3.4.5調査
34	北大和田Ⅱ	古墳（前）・近世	住居跡・土師器・野馬土手・野馬堀	S62H7.10調査
35	花井新田野馬土堤	近世	野馬土手・野馬堀	H8調査
36	花井野馬土堤	近世	野馬土手・野馬堀	H6調査
37	東大和田	奈良・平安	住居跡・墓跡	
38	山崎上宿	古墳（前）	住居跡・土師器	S60調査
39	中地野馬土堤	近世	野馬土手・野馬堀	H2調査
40	上高根	古墳	土師器	
41	高根	古墳	土師器	
42	菩提	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
43	木野崎城跡	中近世	水堀	
44	木野崎新町	古墳（前）	住居跡・土師器	S38調査
45	南大山	奈良・平安	住居跡	H1調査
46	目吹新立貝塚	縄文（前）	住居跡・縄文土器	S35調査
47	大畑古墳	古墳	円墳	
48	大畑	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
49	木野崎病院裏	縄文	縄文土器	
50	新田	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
51	下鹿野	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
52	鹿野第1	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
53	鹿野第2	縄文	縄文土器	
54	台側第1	縄文	縄文土器	
55	大殿井中坪	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
56	真福寺跡	中近世		
57	瀬戸下側	縄文・古墳	縄文土器・石器	
58	台側第2	縄文	縄文土器・土師器	
59	大殿井下原	縄文	縄文土器	
60	向根第2	縄文・弥生	縄文土器・弥生土器	
61	向根第1	縄文・古墳	縄文土器・土師器	
62	下山	縄文（早・前）	住居跡・縄文土器	H3調査
63	二ッ塚殿谷	縄文・古墳	環濠集落・方形周溝墓・土師器	S34調査
64	上灰毛	旧石器・縄文（早・前）・弥生・古墳（中）・奈良・平安・中世	住居跡・土坑・旧石器・縄文土器・弥生土器・土師器・石製模造品	S54調査
65	三ッ堀	縄文（前）・古墳（前～後）	住居跡・縄文土器・土師器	S36.56調査
66	二ッ塚古墳群	旧石器・縄文・古墳（前～後）・奈良・平安・中近世	古墳・住居跡・旧石器・縄文土器・土師器・板碑	S53H3.4調査
67	道下	縄文	縄文土器	
68	二ッ塚毛蔵坊	縄文（後）	縄文土器	S52調査

第２章　検出した遺構と遺物

第１節　旧石器時代

旧石器時代の調査では，調査区東側において立川ローム層上部から２枚の文化層が確認された。第１文化層の層位はⅣ～Ⅴ層で，遺物集中地点を１ヶ所含む。第２文化層の層位はⅢ層上部でやはり遺物集中地点を１ヶ所含む。

１　第１文化層（遺構：第７～15図，図版７　遺物：第16～37図，図版８～11，第２～５表）

分　布

D2-68付近から検出された石器集中地点を第１ブロックとし，分布範囲は南北は7.0ｍ×東西は9.0ｍである。また，石器の分布と重なるように多量の破砕礫が検出され，これを第１礫群とする。第１ブロック及び第１礫群のほか若干のブロック外の石器を含め，第１文化層とする。検出層位は，Ⅲ層下部付近を中心とし，Ⅳ層，Ⅴ層，あるいはⅥ層のソフト化を考慮すれば，本来の層位はハードローム層上部のⅣ～Ⅴ層にあったと考えられる。レベル的には30～40㎝の幅をもって検出された。

器　種

石器の組成は，ナイフ形石器が９点，彫器が１点，二次加工ある剥片が５点，剥片が29点，砕片が７点，石核が２点，石器合計は53点である。さらに礫の69点を加えると総計は122点である。

ナイフ形石器

16図の１～３はよく似たナイフ形石器で，一側縁を除き他の大部分に背面中央近くまで及ぶ調整加工を施しており，角錐状石器に近い形状をしている。３点とも厚みのある素材を用いて急傾斜の調整加工を施している点は似るが，素材の用い方はやや異なり，２と３が打面方向を先端部側にしているのに対して，１だけが基部側にしている。４は微細な調整加工を施したナイフ形石器である。背面右側縁の形状はやや抉入状を呈する。５～８は一部に微細な調整加工を施しており，ナイフ形石器としてとらえた。４点とも幅広の剥片を横位置に用いており，素材の用い方としては１～４とは異なる。石材は１～８まで全て珪質頁岩を用いている。

彫　器

17図の６は黒曜石を用いた彫器である。幅広の剥片の先端部に剥離を加え刃部を作り出している。

二次加工ある剥片

17図の１と３は末端部，４は両側縁に微細な剥離のある剥片である。石材は３点とも珪質頁岩を用いている。

剥　片

17図の２・７・８は珪質頁岩を用いた剥片である。２は背面に多数の剥離痕がある幅広の剥片であり，石核調整剥片の可能性がある。17図５は透明に近い黒曜石を用いた剥片である。18図１・２は安山岩を用いた剥片である。２点とも剥片の形状は幅広で厚みがある。

石　核

18図の３と４は安山岩を用いた石核である。３は上下及び左の三方向から剥片剥離が行われており，石

第2表　文化層と石器組成

器種	第1文化層		第2文化層		総数
	第1ブロック	ブロック外	第2ブロック	ブロック外	
尖頭器	0	0	16	1	17
ナイフ形石器	9	0	0	0	9
スクレイパー	0	0	1	0	1
彫器	1	0	0	0	1
二次加工ある剥片	5	0	4	0	9
剥片	27	2	201	1	231
砕片	7	0	58	0	65
石核	2	0	2	0	4
石器総数	51	2	282	2	337
	53		284		
礫	69	0	4	1	74
	69		5		
総数	120	2	280	9	411
	122		289		

第3表　第1文化層石器組成表

母岩	ナイフ形石器	彫器	二次加工ある剥片	剥片	砕片	石核	総数	組成比（%）
安山岩①				3	2		5	9.4
安山岩②				2			2	3.8
安山岩③				1	1	1	3	5.7
安山岩④						1	1	1.9
珪質頁岩①	5		5	10	1		21	39.6
珪質頁岩②	4			5	1		10	18.9
珪質頁岩③				1			1	1.9
頁岩①				2			2	3.8
黒曜石①		1		5	2		8	15.0
総数	9	1	5	29	7	2	53	100.0
組成比（%）	17.0	1.9	9.4	54.7	13.2	3.8	100.0	

核を90度ほど回転させて打面を転移させながら剥片剥離を行っている。4は3とは異なり同一の打面を用いてほぼ三方向に対して剥片剥離を行っている。

接合

19図の1と2は共に珪質頁岩を用いた剥片2点の接合状況である。1は1bの剥離後同一の打面からやや方向を変えて1aを剥離している。2は剥片を剥離した時に打点付近で二つに割れて2aと2bになったものである。20図1は安山岩を用いた石核と剥片各1点の接合状況である。1aの石核の突き出た所を除去して石核を整えるために1bの石核調整剥片が剥離されている。

石材

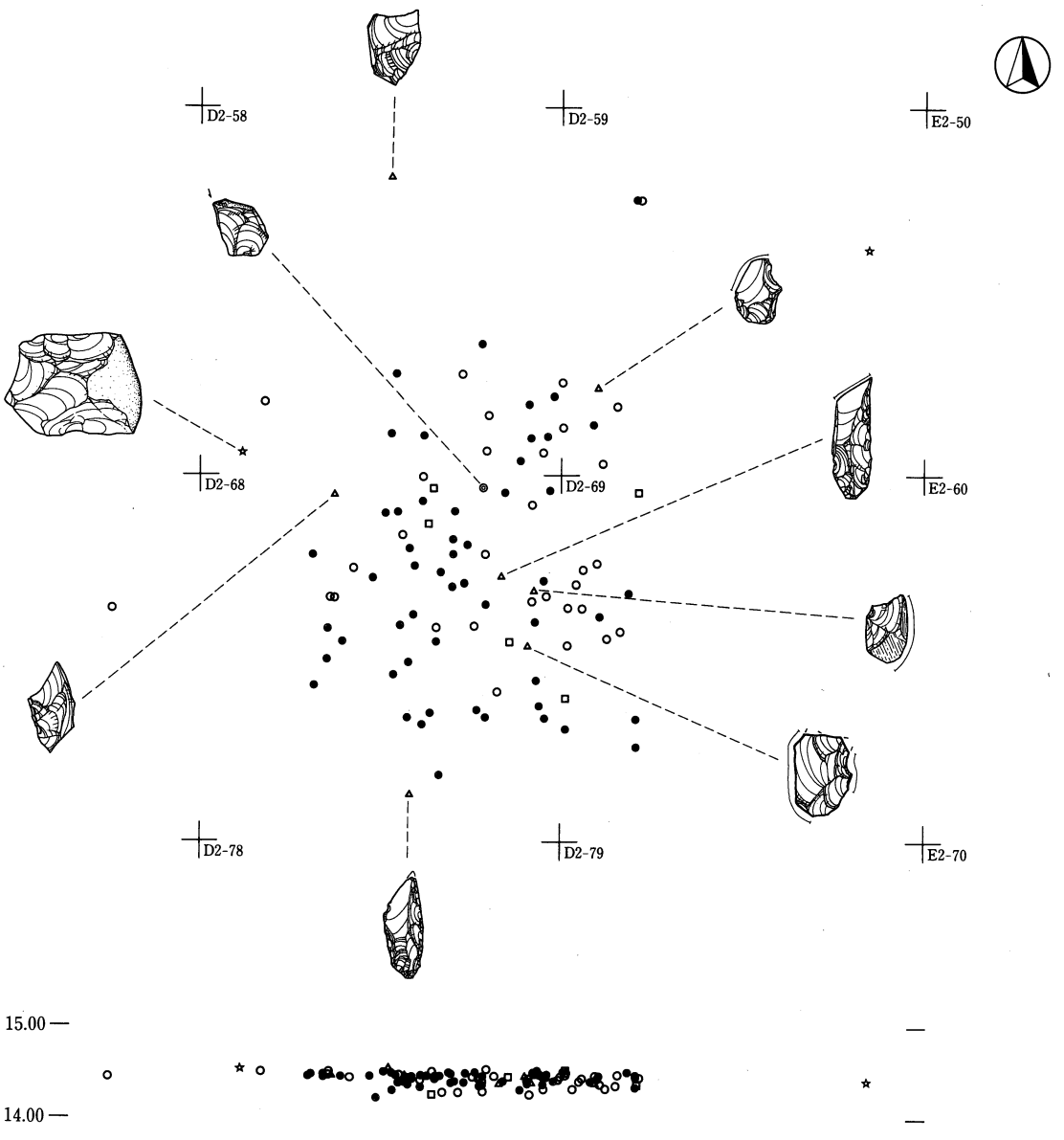
第1文化層で用いられている石器石材を母岩別に分類すると全部で9種類（第3表）あるが，安山岩が4種類と一番多い。次に多いのが珪質頁岩の3種類で，頁岩と黒曜石は各1種類である。また，石材別の重量比（第12図）は，安山岩が50%以上を占め，珪質頁岩も30%を超えてる。この2種類でほぼ90%にな

第4表　第1文化層石器属性表

No	ブロック	登録番号	器　種	石　材	挿図番号	長×幅×厚（mm）	重量（g）	打角（°）
1	第1ブロック	D2-58-6	砕片	安山岩①		(12)×(15)×3	(0.5)	
2	第1ブロック	D2-58-7	剥片	安山岩①		(13)×(19)×(7)	(1.7)	
3	第1ブロック	D2-58-9	剥片	珪質頁岩①		18×20×5	0.7	110
4	第1ブロック	D2-58-13	砕片	安山岩①		(7)×(12)×(5)	(0.3)	
5	第1ブロック	D2-58-16	剥片	珪質頁岩③	17-2	34×44×11	16.5	110
6	第1ブロック	D2-58-17	石核	安山岩③	18-3	38×50×25	47.1	
7	第1ブロック	D2-58-18	ナイフ形石器	珪質頁岩②	16-5	26×20×7	3.3	125
8	第1ブロック	D2-59-4	石核	安山岩④	18-4	28×41×32	40.5	
9	第1ブロック	D2-59-5-2	剥片	珪質頁岩②		14×16×4	0.7	120
10	第1ブロック	D2-59-7	剥片	珪質頁岩①	19-1b	(20)×(17)×(3)	(0.9)	
11	第1ブロック	D2-59-8	剥片	珪質頁岩②		16×13×3	0.5	110
12	第1ブロック	D2-59-9	ナイフ形石器	珪質頁岩②	16-4	(24)×17×8	(2.3)	
13	第1ブロック	D2-59-11	剥片	頁岩①		13×20×6	1.1	100
14	第1ブロック	D2-59-13	砕片	黒曜石①		4×9×2	0.1	
15	第1ブロック	D2-67-1	剥片	珪質頁岩①		11×14×3	0.4	110
16	第1ブロック	D2-68-1	ナイフ形石器	珪質頁岩①		20×15×4	0.7	110
17	第1ブロック	D2-68-4	剥片	黒曜石①	17-5	40×19×9	7.1	120
18	第1ブロック	D2-68-6	彫器	黒曜石①	17-6	20×24×6	2.5	130
19	第1ブロック	D2-68-7	剥片	安山岩①		17×16×4	0.7	120
20	第1ブロック	D2-68-8	ナイフ形石器	珪質頁岩②	16-6	30×17×10	3.5	130
21	第1ブロック	D2-68-9-2	砕片	山岩③		14×17×3	0.4	
22	第1ブロック	D2-68-13	二次加工ある剥片	珪質頁岩①	17-3	36×21×7	3.7	100
23	第1ブロック	D2-68-15	二次加工ある剥片	珪質頁岩①		11×16×3	0.3	105
24	第1ブロック	D2-68-19	剥片	黒曜石①		16×19×11	1.6	
25	第1ブロック	D2-68-20	ナイフ形石器	珪質頁岩①	16-1	44×15×11	6.5	
26	第1ブロック	D2-68-21	ナイフ形石器	珪質頁岩①	16-7	25×16×7	2.2	120
27	第1ブロック	D2-68-23	砕片	黒曜石①		14×4×2	0.1	
28	第1ブロック	D2-68-24	剥片	安山岩②	18-1	26×35×11	6.6	
29	第1ブロック	D2-68-26	ナイフ形石器	珪質頁岩①	16-8	(30)×22×9	(4.8)	140
30	第1ブロック	D2-68-27	二次加工ある剥片	珪質頁岩①	17-1	20×25×9	2.9	120
31	第1ブロック	D2-68-29	剥片	安山岩②		25×12×6	1.7	
32	第1ブロック	D2-68-36	剥片	珪質頁岩②	17-7	23×13×8	1.8	
33	第1ブロック	D2-68-38-1	剥片	黒曜石①		19×22×13	3.8	
34	第1ブロック	D2-68-38-2	剥片	珪質頁岩①		10×16×3	0.2	100
35	第1ブロック	D2-68-42	剥片	珪質頁岩①		16×18×5	1.1	120
36	第1ブロック	D2-68-54	ナイフ形石器	珪質頁岩②	16-2	(37)×15×11	(4.6)	
37	第1ブロック	D2-68-58	剥片	珪質頁岩①	17-8	28×13×10	2.1	
38	第1ブロック	D2-68-64-1	剥片	黒曜石①		11×17×12	0.8	100
39	第1ブロック	D2-68-64-2	剥片	黒曜石①		24×12×7	1.3	100
40	第1ブロック	D2-68-66-1	ナイフ形石器	珪質頁岩①	16-3	30×16×9	3.2	
41	第1ブロック	D2-69-2	砕片	珪質頁岩①		20×20×5	0.6	
42	第1ブロック	D2-69-3	二次加工ある剥片	珪質頁岩①②	17-4	24×18×8	2.7	130
43	第1ブロック	D2-69-6	剥片	珪質頁岩②		11×13×4	0.6	120
44	第1ブロック	D2-69-7	剥片	珪質頁岩②		10×13×4	0.5	120
45	第1ブロック	D2-69-8	砕片	珪質頁岩①		17×12×3	0.4	
46	第1ブロック	D2-69-10	剥片	珪質頁岩①	19-2a	13×20×6	1.3	120
47	第1ブロック	D2-69-12	剥片	珪質頁岩①		13×15×4	0.5	120
48	第1ブロック	D2-69-13	剥片	珪質頁岩①		17×15×4	0.8	105
49	第1ブロック	D2-69-14	剥片	安山岩①	18-2	46×32×13	12.4	
50	第1ブロック	D2-69-15	二次加工ある剥片	珪質頁岩①		17×16×3	0.5	115
51	第1ブロック	D2-69-19	剥片	珪質頁岩①	19-2b	(22)×12×3	(0.7)	120
52	ブロック外	005-37	剥片	珪質頁岩①		18×10×2	0.6	
53	ブロック外	005-46	剥片	安山岩③	20-1b	29×23×11	4.6	120

第5表　第1礫群構成礫属性表

No	登録番号	石材	長×幅×厚（mm）	重量（g）	遺存状況	ヒビ	黒色付着物
1	D2-58-2	砂岩③	40×11×12	7.6	1/4		
2	D2-58-3	砂岩③	49×23×20	18.2	1/4		
3	D2-58-4	チャート②	21×21×20	10.9	1/4	○	
4	D2-58-5	安山岩①	36×31×23	21.3	1/4		
5	D2-58-8	安山岩①	34×25×19	12.1	1/4		
6	D2-58-10	石英斑岩②	17×14×3	0.7	1/4		
7	D2-58-12	石英斑岩④	18×13×7	1.3	1/4		
8	D2-58-14	石英斑岩④	26×18×12	4.5	1/4		
9	D2-58-15	チャート①	15×14×10	1.9	1/4		
10	D2-59-5-1	砂岩⑦	14×13×10	2.0	1/4		
11	D2-59-12	安山岩②	25×19×10	3.6	1/4		
12	D2-68-3	チャート②	14×11×9	1.0	1/4		
13	D2-68-5	砂岩⑦	26×19×9	8.7	1/4		
14	D2-68-9-1	チャート①	13×11×8	1.5	1/4		
15	D2-68-10	砂岩③	22×13×9	2.2	1/4		
16	D2-68-11	砂岩③	27×17×13	5.6	1/4		○
17	D2-68-12	チャート①	8×6×5	0.2	1/4		
18	D2-68-14	チャート②	16×9×9	1.4	1/4		
19	D2-68-16	チャート①	16×7×7	0.4	1/4		
20	D2-68-17	砂岩⑦	40×30×8	13.5	1/4		
21	D2-68-22	石英斑岩①	32×19×15	7.4	1/4		○
22	D2-68-25	チャート①	16×13×7	1.1	1/4		
23	D2-68-28	チャート②	13×9×5	0.6	1/4		
24	D2-68-30	石英斑岩②	38×22×18	15.1	1/4		
25	D2-68-31	チャート①	23×19×12	3.8	1/4		
26	D2-68-32	チャート①	21×16×10	3.5	1/4		
27	D2-68-33	チャート②	27×25×10	9.5	1/4		
28	D2-68-34	砂岩①	28×13×12	5.1	1/4		
29	D2-68-35	チャート①	15×14×11	1.9	1/4		
30	D2-68-37	チャート①	17×9×6	1.0	1/4		
31	D2-68-40	チャート①	9×6×4	0.2	1/4		
32	D2-68-41	チャート②	39×27×18	17.0	1/4	○	
33	D2-68-43	砂岩⑥	40×38×24	38.2	1/4		
34	D2-68-45	チャート①	17×12×11	2.8	1/4		
35	D2-68-46	石英斑岩①	18×13×11	1.6	1/4		
36	D2-68-47	チャート②	19×17×15	5.7	1/4	○	
37	D2-68-48	石英斑岩⑤	75×42×38	148.0	3/4	○	
38	D2-68-49	チャート②	14×9×6	0.7	1/4		
39	D2-68-50	チャート③	115×85×44	515.0	3/4	○	○
40	D2-68-51	砂岩④	17×11×9	2.6	1/4		
41	D2-68-52	チャート①	15×7×6	0.4	1/4		
42	D2-68-53	チャート②	11×7×5	0.4	1/4		
43	D2-68-55	砂岩⑥	27×24×17	14.6	1/4		
44	D2-68-56	石英斑岩③	33×28×22	19.6	1/4		○
45	D2-68-57	チャート①	19×19×9	3.7	1/4		
46	D2-68-59	砂岩⑤	10×9×9	0.8	1/4		
47	D2-68-60	石英斑岩③	23×18×9	4.1	1/4		
48	D2-68-61	砂岩⑤	20×13×8	2.2	1/4		
49	D2-68-62	チャート②	35×17×12	8.5	1/4		○
50	D2-68-63	石英斑岩②	52×27×23	23.9	1/4		
51	D2-68-65-1	砂岩③	42×39×23	48.3	1/4		
52	D2-68-65-2	砂岩③	28×28×17	11.1	1/4		
53	D2-68-65-3	砂岩③	50×29×13	15.2	1/4		
54	D2-68-65-4	砂岩⑦	42×26×10	11.7	1/4		○
55	D2-68-65-5	砂岩②	28×24×23	13.0	1/4		
56	D2-68-65-6	チャート①	23×22×15	8.5	1/4	○	
57	D2-68-65-7	石英斑岩②	21×19×16	5.7	1/4		
58	D2-68-65-8	チャート②	18×18×15	6.3	1/4	○	
59	D2-68-65-9	チャート②	22×14×8	2.5	1/4		
60	D2-68-65-10	石英斑岩③	22×15×8	2.6	1/4		
61	D2-68-65-11	チャート①	13×10×6	0.6	1/4		
62	D2-68-65-12	チャート①	12×11×4	0.6	1/4		
63	D2-68-65-13	砂岩④	16×8×7	0.9	1/4		
64	D2-68-66-2	チャート①	20×20×17	7.0	1/4		
65	D2-69-9	砂岩⑤	11×10×7	0.8	1/4		
66	D2-69-11	チャート①	14×12×8	1.1	1/4		
67	D2-69-16	チャート①	25×21×9	5.3	1/4		
68	D2-69-17	砂岩⑤	18×16×9	2.1	1/4		
69	D2-69-18	砂岩⑤	18×10×8	1.3	1/4		

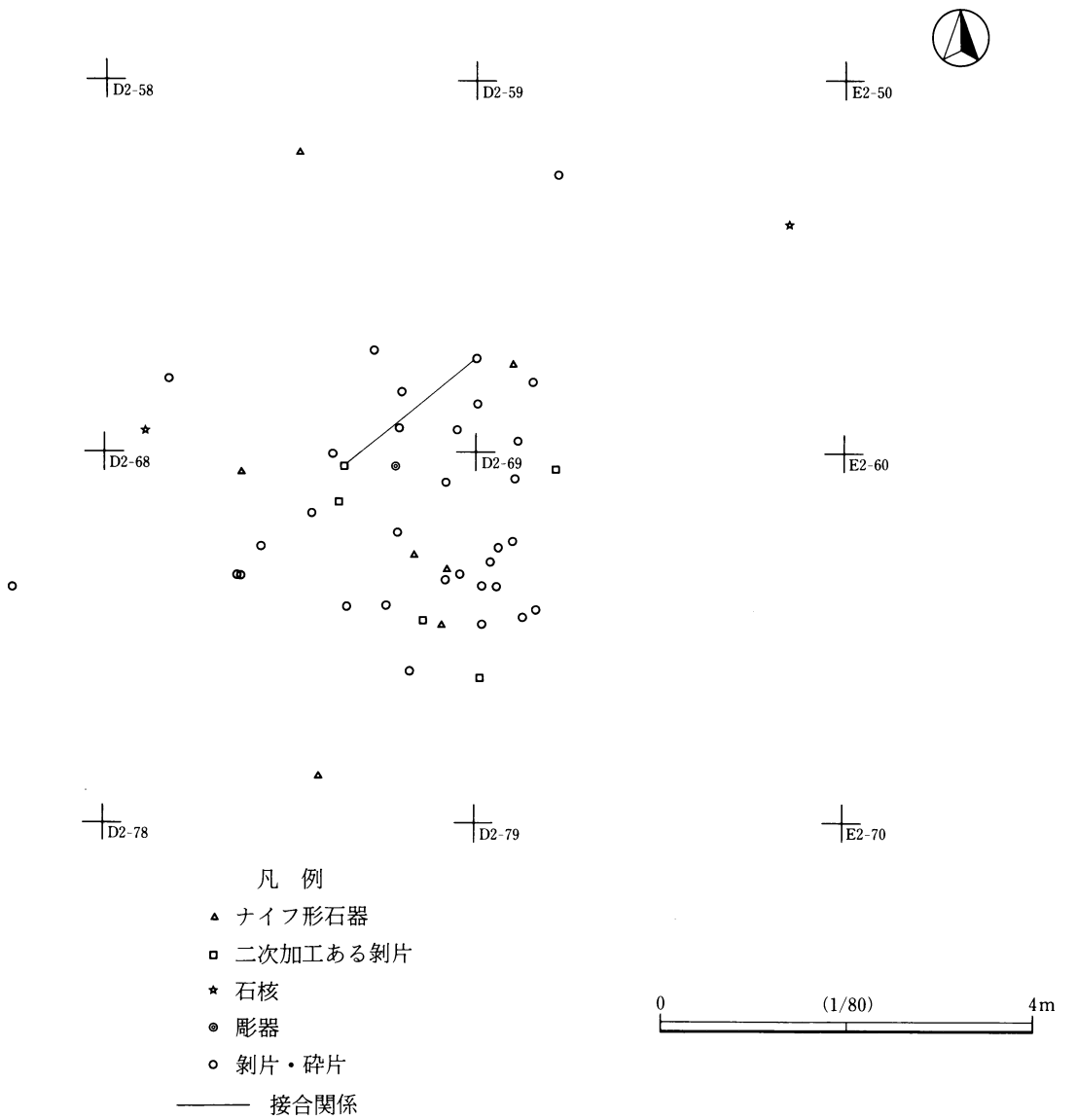


凡　例

- △ ナイフ形石器
- □ 二次加工ある剥片
- ★ 石核
- ◉ 彫器
- ○ 剥片・砕片
- ● 礫

0　(1/80)　4m

第７図　第１ブロック分布図

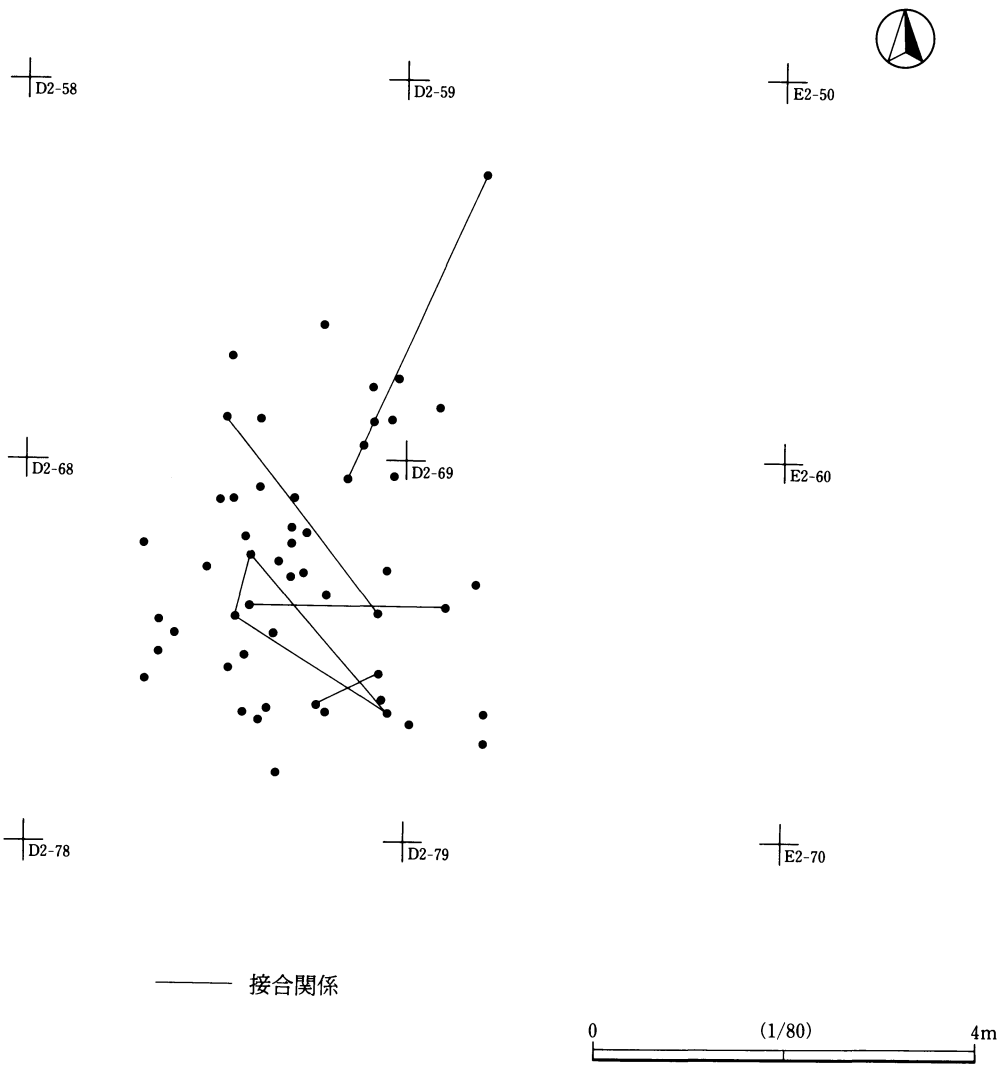


第８図　第１ブロック石器分布図

り，黒曜石と頁岩は僅少である。ナイフ形石器や二次加工ある剥片は全て２種類の珪質頁岩から作られており，他の石材では彫器に用いられた黒曜石があるのみで，安山岩を用いた製品は見当たらない。これに対して石核は２点あるがいずれも安山岩を用いており，珪質頁岩等他の石材を用いたものは見当たらない。

礫　群

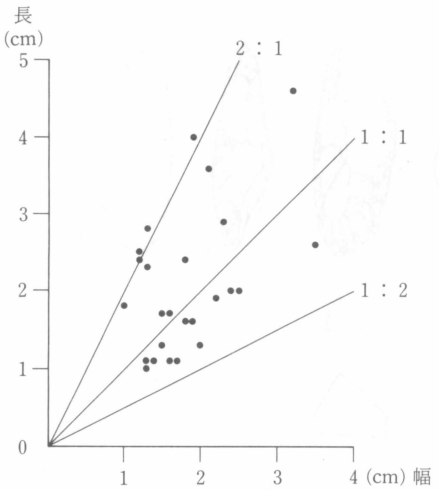
第１礫群の分布は，南北は7.0ｍ×東西は4.0ｍの範囲であり，礫群構成礫の総数は69点である。礫群構成礫の遺存状況（第15図）は，１/４以下が95％以上である。礫群構成礫の重量別個数（第13図）は，10ｇ以下が70％以上である。このことから第１礫群を構成する礫は，そのほとんどが小さく砕けていることがわかる。石材別の重量比（第14図）は，チャートが約半分を占め，以下石英斑岩，砂岩，安山岩となる。これを母岩別に分類すると全部で17種類になり，内訳は砂岩が７種類，石英斑岩が５種類，チャートが２種類，安山岩が２種類である。なお，赤化等焼けていると思われるものは多いが，ヒビ割れやタール状等の黒色付着物のあるものは少ない。また，接合するものが少ないため，礫の原形を窺わせるものも少ない。



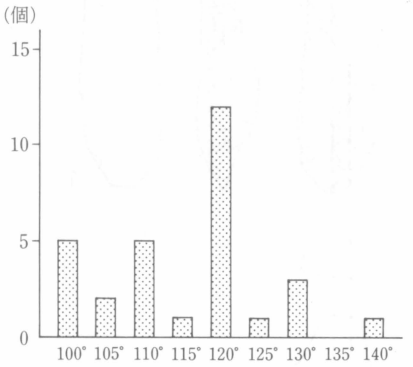
第9図　第1礫群分布図

第6表　第1礫群構成礫母岩別一覧

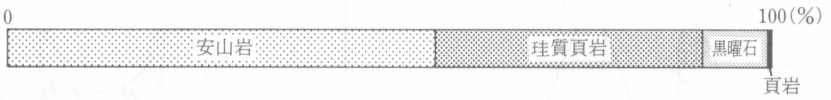
母岩	数量	重量（g）	重量比（%）
砂岩①	1	5.1	0.5
砂岩②	1	13.0	1.2
砂岩③	7	108.2	9.6
砂岩④	2	3.5	0.3
砂岩⑤	5	7.2	0.6
砂岩⑥	2	52.8	4.7
砂岩⑦	4	35.9	3.2
石英斑岩①	2	9.0	0.8
石英斑岩②	4	45.4	4.1
石英斑岩③	3	26.3	2.3
石英斑岩④	2	5.8	0.5
石英斑岩⑤	1	148.0	13.2
チャート①	19	45.0	4.0
チャート②	12	64.5	5.8
チャート③	1	515.0	45.9
安山岩①	2	33.4	3.0
安山岩②	1	3.6	0.3
合計	69	1121.7	100.0



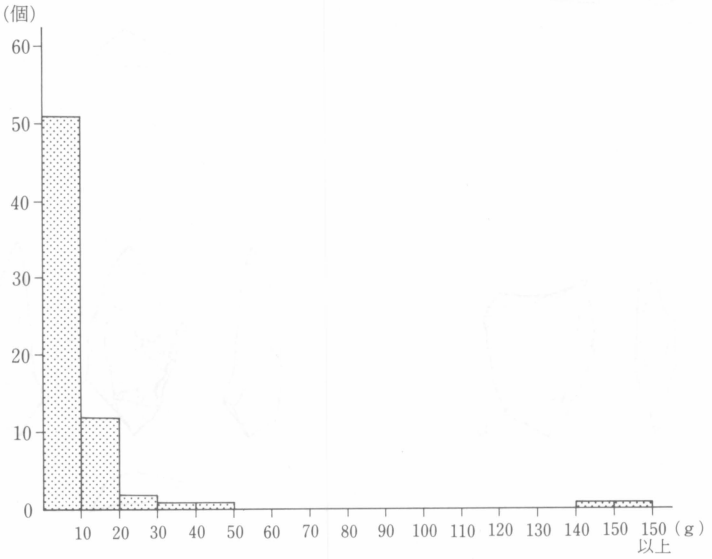
第10図　第１文化層剝片長幅分布図



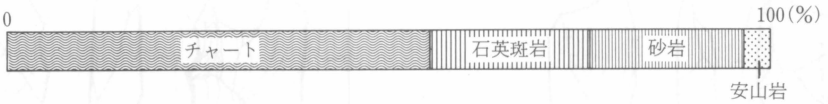
第11図　第１文化層打角分布



第12図　第１文化層石器石材別重量比

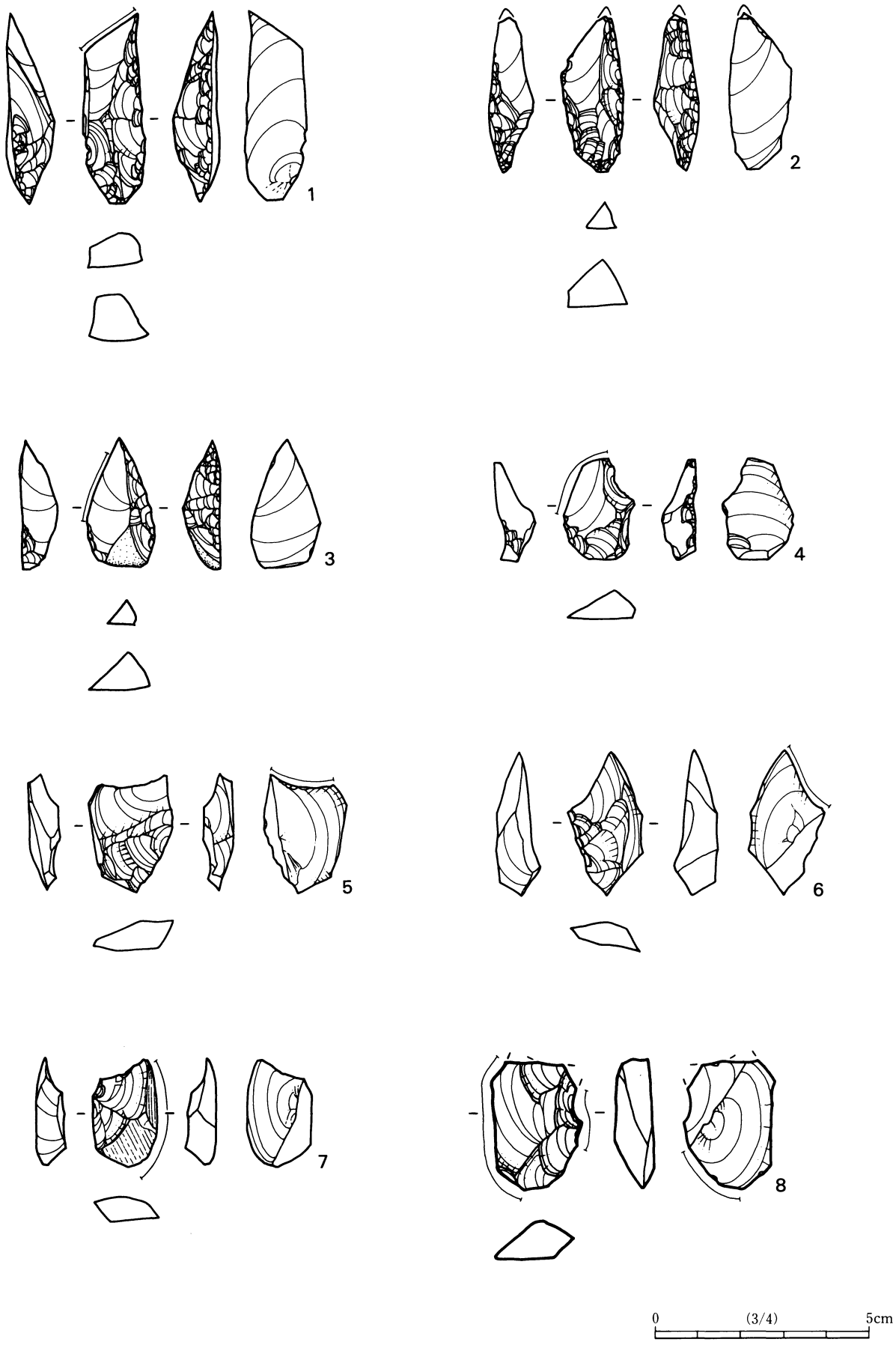


第13図　第１礫群構成礫重量別個数

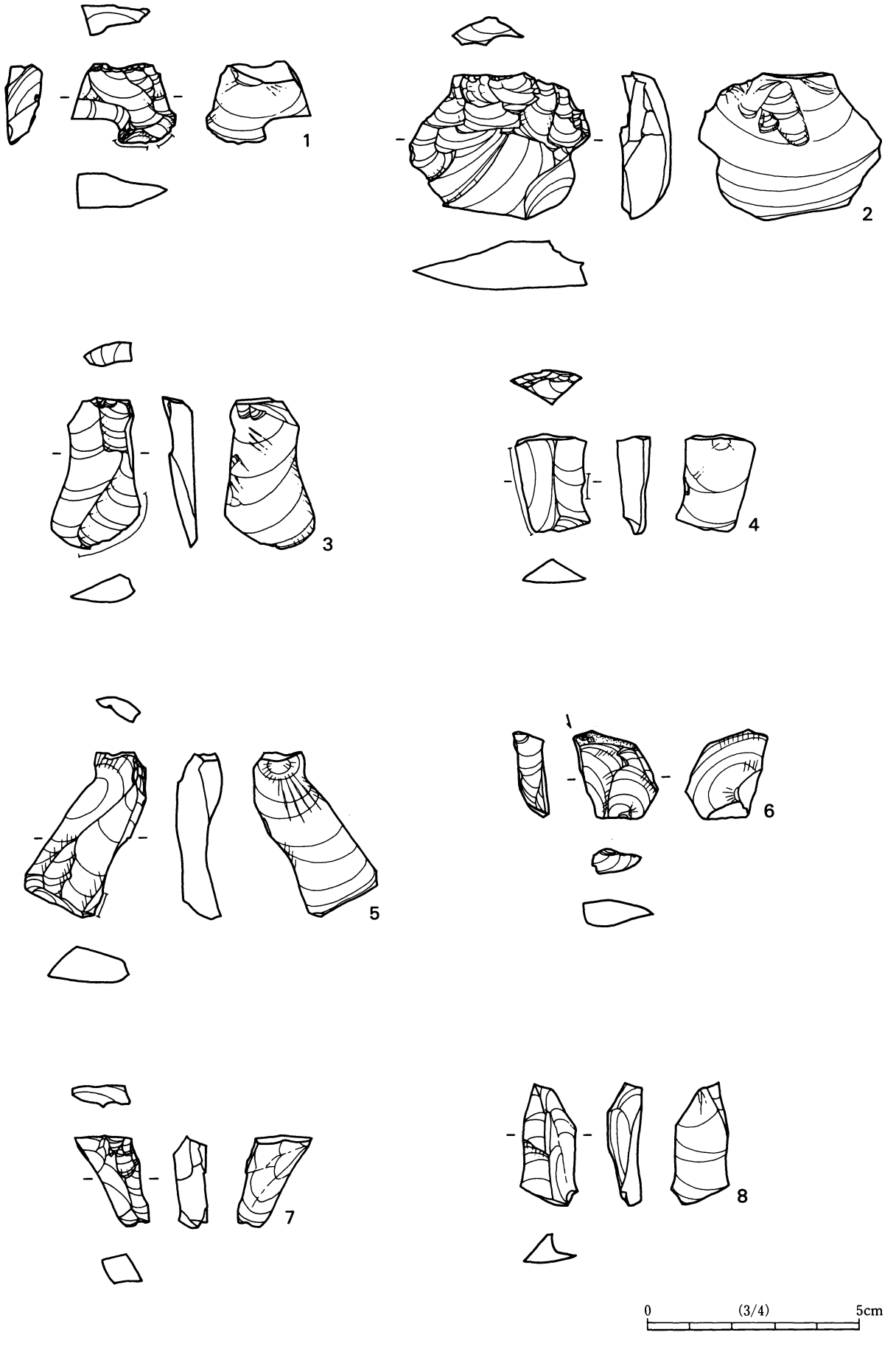


第14図　第１礫群構成礫石材別重量比

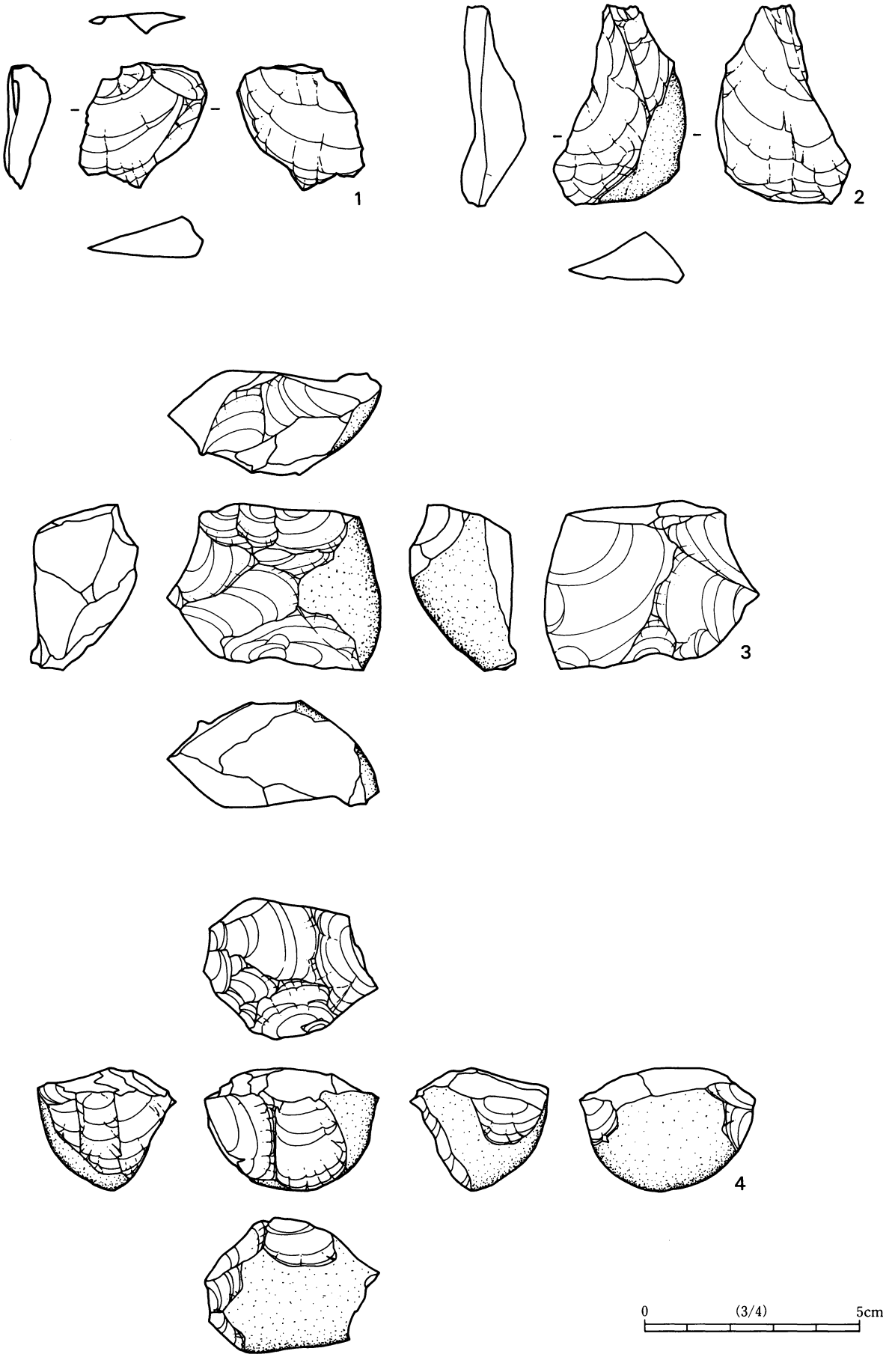
第15図　第１礫群構成礫遺存状況



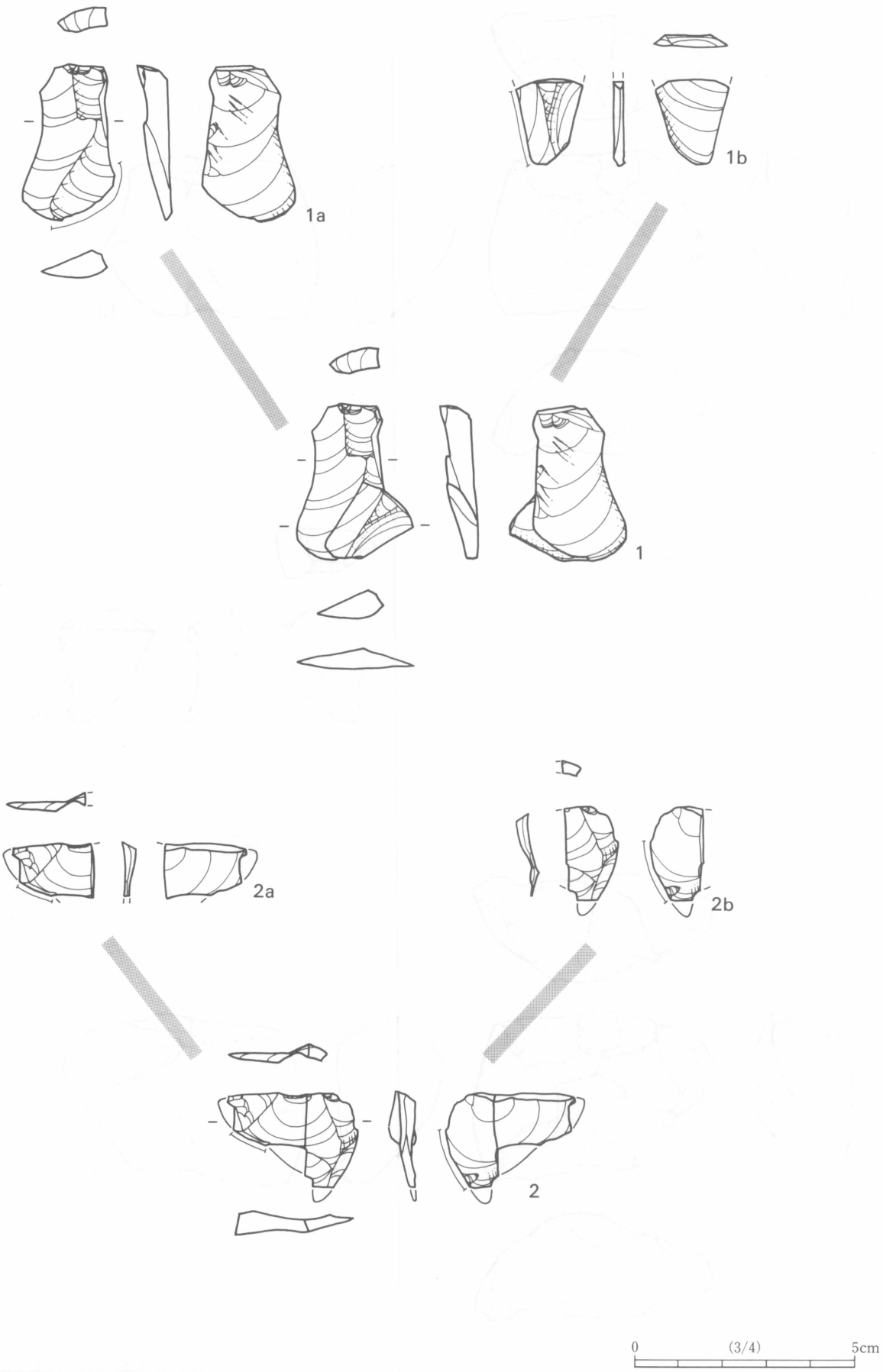
第16図　第１文化層出土石器（１）



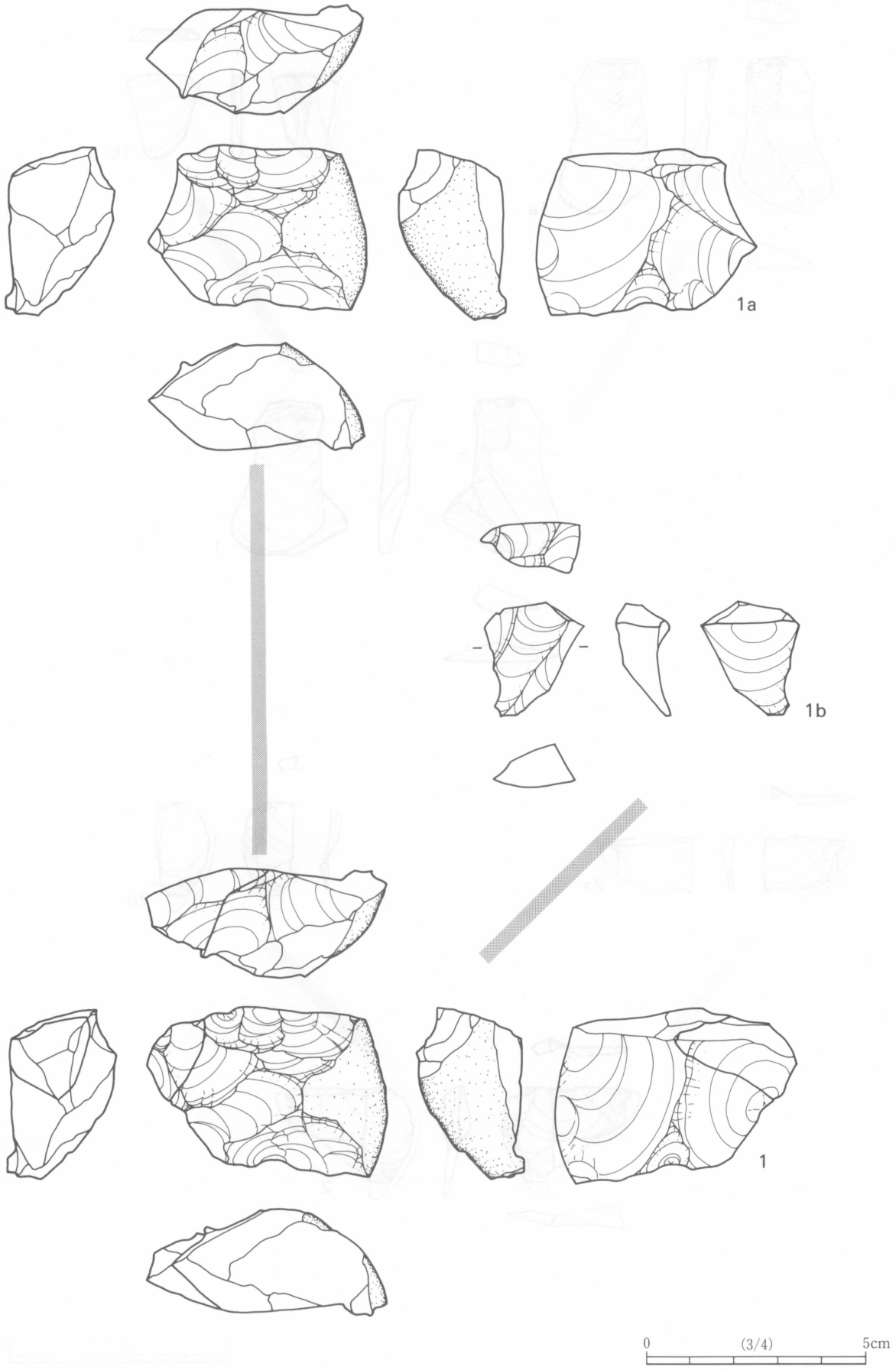
第17図　第１文化層出土石器（２）



第18図　第１文化層出土石器（３）



第19図　第１文化層石器接合図（１）



第20図　第１文化層石器接合図（２）

2　第２文化層（遺構：第21～24図，図版７　遺物：第25～37図，図版12～17，第７～９表）

分　布

D2-98付近から検出された石器集中地点を第２ブロックとする。分布は南北は7.0ｍ×東西は10.0ｍに及び，石器集中地点としては規模が大きいほうである。この他ブロック外の若干の石器と礫があり，これを含めて第２文化層とする。検出層位はⅢ層上部付近を中心とし，レベル的には40～60㎝の幅をもって検出された。なお，第２ブロックの石器群に伴出した礫は少ない。また，21図の第２ブロック分布図の中で，D2-90グリッドとD2-91グリッドの境界付近に遺物の空白部分があるのは，攪乱が入っていたためである。

器　種

石器の組成は，未製品も含めて尖頭器が17点，スクレイパーが１点，二次加工ある剥片が４点，剥片が202点，砕片が58点，石核が２点，石器合計は284点である。さらに礫の５点を加えると総計は289点である。

尖頭器

25図の１は両面調整石器，２は片面調整石器で，ともに安山岩を用いた尖頭器の未製品である。２は基部が欠損している。26図の１・２・５は安山岩を用いた両面加工の尖頭器である。１は小型で完形，２は先端部が半分ほど欠損している。５は先端部のみでほとんどを欠損している。３は周辺加工の小形で薄手の尖頭器である。頁岩を用いており基部を欠損している。４は周辺加工の尖頭器の未製品である。凝灰岩を用いており基部を半分ほど欠損している。６は安山岩を用いた尖頭器の未製品としてとらえた。剥片の頭部付近に両側縁から調整加工を施して尖頭器の基部を作り出そうとしている。27図の１と５は凝灰岩，２・３・４は安山岩を用いた尖頭器の未製品である。２は先端部が欠損している。４は先端部のみでほと

第７表　第２文化層石器組成表

	尖頭器	スクレイパー	二次加工ある剥片	剥　片	砕　片	石　核	総　数	組成比（%）
安山岩①	6	1	1	27	4		39	13.7
安山岩②	1			20	7		28	9.9
安山岩③	4			19	2		25	8.8
安山岩④				9	10		19	6.7
安山岩⑤				10	9		19	6.7
安山岩⑥				13	4	1	18	6.3
安山岩⑦				12	3	1	16	5.6
安山岩⑧				6	5		11	3.9
安山岩⑨				9			9	3.2
安山岩⑩	1			6	3		10	3.5
安山岩⑪			2	2	1		5	1.8
安山岩⑫				4	2		6	2.1
安山岩⑬				4			4	1.4
安山岩⑭				3	1		4	1.4
安山岩⑮				3			3	1.1
安山岩⑯				3			3	1.1
安山岩⑰				3			3	1.1
安山岩⑱				1			1	0.3
安山岩⑲				1			1	0.3
安山岩⑳				3			3	1.1
メノウ(1)				1			1	0.3
メノウ(2)				2			2	0.7
頁岩(3)	1		1	13	2		17	6.0
凝灰岩(4)	4			28	5		37	13.0
総数	17	1	4	202	58	2	284	100.0
組成比（%）	6.0	0.4	1.4	71.1	20.4	0.7	100.0	

んどを欠損している。5は先端部側を半分ほど欠損している。

スクレイパー

28図の1は安山岩を用いたスクレイパーである。幅広の剥片の打面部に礫面側から調整加工を施して，湾曲した刃部を作り出している。

二次加工ある剥片

28図の3・4・5は安山岩を用いた二次加工ある剥片である。いずれも剥片の側縁に小剥離を加えている。29図の2は頁岩を用いた剥片で側縁に微細な剥離がある。6は剥片の切断面から小剥離が加えられてる。

剥　片

28図の6，29図の4は安山岩の縦長剥片である。6は両端が欠損しており，背面にも縦長剥片を剥離した痕が残っている。28図の2，29図の1は凝灰岩の縦長剥片である。28図の2は石核調整剥片の可能性がある。29図の1は2ヶ所に分かれて出土したものが接合している。打面調整のされていない剥片が多いなか，珍しく入念に調整されている。30図の1～3は石核調整剥片である。打面と剥離面，あるいは剥離面と剥離面が交差する石核の稜の部分について，剥片剥離とは90°ほど方向を変えて横方向から剥離することによって石核を整えたものであろう。29図の5，31図1～5，32図1・2は安山岩の幅広な剥片である。背面に礫面の残るものが多い。29図の5と31図の5は背面に調整痕がいくつか残る。31の図2は剥片の左右両端を折断している。

石　核

32図の3は安山岩の石核である。分厚い剥片を利用しているが，割れてしまったのか良好な剥片は取られていないようである。

接　合

33図の1は安山岩を用いた尖頭器の未製品1aと調整剥片1bの接合状況である。34図の1と2はともに凝灰岩を用いており，1は折断された縦長剥片，2は剥片2点の接合状況である。35図の1は安山岩を用いた剥片2点の接合状況である。同一打面から同一方向に連続した剥離が行われている。2は頁岩を用いた剥片3点の接合状況である。2aだけ剥離方向がかなりずれており，打面を転移しながら剥片剥離を行っていると考えられる。36図と37図は安山岩を用いた剥片4点とスクレイパー1点の接合状況である。1aと1cの打面方向が同一であり打面は概ね固定されていたと考えられる。

石　材

第2文化層で用いられている石材を母岩別に分類すると全部で24種類になり，安山岩が20種類でほとんどを占める。その他の石材はメノウが2種類，頁岩と凝灰岩が各1種類である。石材別の重量比（第24図）は安山岩が90％以上である。その他の凝灰岩や頁岩，あるいはメノウは僅少である。尖頭器は安山岩ばかりではなく凝灰岩や頁岩でも作られているが，石核は安山岩の2点のみである。

第8表　第2文化層石器属性表(1)

No	ブロック	登録番号	器種	石材	挿図番号	長×幅×厚（mm）	重量（g）	打角（°）
1	第2ブロック	D2-80-2	剥片	安山岩⑥		11×18×2	0.5	
2	第2ブロック	D2-80-3	剥片	安山岩⑤		(22)×39×8	(4.3)	90
3	第2ブロック	D2-80-4	尖頭器未製品	安山岩⑩		(25)×(39)×6	5.9	
4	第2ブロック	D2-80-5	剥片	安山岩⑥		15×18×4	0.9	110
5	第2ブロック	D2-80-6	剥片	凝灰岩①		9×16×3	0.2	
6	第2ブロック	D2-80-7	剥片	安山岩①		41×28×8	8.8	100
7	第2ブロック	D2-80-8	剥片	メノウ②		12×7×4	0.2	125
8	第2ブロック	D2-80-10	尖頭器	凝灰岩①	26-4	(32)×24×5	3.7	
9	第2ブロック	D2-80-11	剥片	安山岩⑳		(54)×(33)×7	11.4	
10	第2ブロック	D2-80-12	剥片	安山岩③		12×17×5	0.7	100
11	第2ブロック	D2-80-13	剥片	安山岩⑭	30-3	59×34×21	37.0	110
12	第2ブロック	D2-80-14	剥片	安山岩①	30-1	93×31×21	61.1	100
13	第2ブロック	D2-80-15	剥片	凝灰岩①	29-1a	(33)×(32)×9	7.8	105
14	第2ブロック	D2-80-16	剥片	安山岩⑥		(19)×(27)×4	1.7	
15	第2ブロック	D2-80-17	スクレイパー	安山岩①	28-1	36×49×18	18.5	
16	第2ブロック	D2-80-19	砕片	安山岩⑦		(16)×(14)×4	0.8	
17	第2ブロック	D2-80-20	剥片	安山岩①		(12)×(20)×6	0.9	130
18	第2ブロック	D2-80-21	剥片	安山岩⑫		30×15×10	4.5	
19	第2ブロック	D2-80-22	剥片	安山岩⑥		(31)×30×8	5.1	105
20	第2ブロック	D2-80-25	剥片	安山岩⑪		19×17×5	1.1	110
21	第2ブロック	D2-80-30	砕片	安山岩⑩		(11)×(17)×4	0.8	
22	第2ブロック	D2-80-31	剥片	凝灰岩①		(22)×(17)×5	1.1	105
23	第2ブロック	D2-80-32	尖頭器未製品	凝灰岩①	27-5	(35)×(31)×9	6.3	
24	第2ブロック	D2-80-33	剥片	凝灰岩①		(27)×(26)×3	2.0	
25	第2ブロック	D2-80-34	剥片	安山岩⑳		40×42×14	18.7	115
26	第2ブロック	D2-80-35	剥片	安山岩③		33×41×7	5.7	
27	第2ブロック	D2-80-36-1	剥片	安山岩②		(33)×(32)×8	8.1	110
28	第2ブロック	D2-80-36-2	剥片	頁岩①		26×27×8	4.3	110
29	第2ブロック	D2-80-36-3	剥片	安山岩⑳		(33)×(34)×7	8.6	
30	第2ブロック	D2-80-36-4	剥片	安山岩⑥		24×22×4	1.6	
31	第2ブロック	D2-80-36-5	砕片	安山岩⑥		(14)×(23)×8	2.5	
32	第2ブロック	D2-80-36-6	剥片	安山岩⑥		(27)×(27)×5	3.0	100
33	第2ブロック	D2-80-36-7	砕片	安山岩⑥		(16)×(18)×5	0.9	
34	第2ブロック	D2-80-36-9	砕片	安山岩⑥		(10)×(13)×3	0.4	
35	第2ブロック	D2-80-36-10	剥片	凝灰岩①		(19)×(24)×3	0.8	
36	第2ブロック	D2-80-36-11	尖頭器未製品	凝灰岩①	27-1	(22)×38×8	5.7	
37	第2ブロック	D2-80-36-12	剥片	凝灰岩①		22×18×7	1.6	110
38	第2ブロック	D2-80-37	剥片	メノウ②		(19)×(22)×5	1.6	
39	第2ブロック	D2-80-39	剥片	凝灰岩①	34-2a	(28)×(21)×8	4.2	120
40	第2ブロック	D2-80-40	砕片	凝灰岩①		10×19×3	0.4	
41	第2ブロック	D2-80-41	剥片	凝灰岩①	28-2	42×20×4	2.5	
42	第2ブロック	D2-80-43-1	剥片	安山岩⑬		20×17×3	0.7	
43	第2ブロック	D2-80-43-2	剥片	安山岩①		(26)×(32)×8	7.3	135
44	第2ブロック	D2-80-44	剥片	安山岩⑬		(30)×(28)×(6)	(3.6)	105
45	第2ブロック	D2-80-45	剥片	安山岩③	33-1b	9×24×3	0.5	110
46	第2ブロック	D2-80-46	剥片	安山岩①		(44)×36×8	14.5	95
47	第2ブロック	D2-80-47	剥片	安山岩⑦		50×40×16	30.5	105
48	第2ブロック	D2-80-48	剥片	凝灰岩①		(12)×17×4	0.7	
49	第2ブロック	D2-80-49	砕片	安山岩⑦		(15)×(16)×3	0.7	
50	第2ブロック	D2-80-50	剥片	凝灰岩①		12×15×3	0.3	
51	第2ブロック	D2-80-51	剥片	凝灰岩①		(27)×(18)×3	1.0	
52	第2ブロック	D2-80-52	砕片	凝灰岩①		(14)×(13)×2	0.3	
53	第2ブロック	D2-80-53	砕片	凝灰岩①		(13)×(11)×2	0.2	
54	第2ブロック	D2-80-54	剥片	安山岩⑩		16×21×5	1.4	110
55	第2ブロック	D2-80-55	剥片	安山岩⑫		15×20×6	1.4	
56	第2ブロック	D2-80-56	剥片	安山岩⑩		(15)×12×3	0.4	130
57	第2ブロック	D2-80-57	剥片	凝灰岩①		15×10×3	0.3	120
58	第2ブロック	D2-80-58	剥片	安山岩⑰		39×27×14	13.4	105
59	第2ブロック	D2-80-59	砕片	安山岩⑩		(11)×(12)×3	0.4	
60	第2ブロック	D2-80-60	剥片	凝灰岩①	34-2b	6×15×5	0.4	105
61	第2ブロック	D2-80-61	剥片	安山岩⑭		(14)×(25)×6	1.7	
62	第2ブロック	D2-80-62	剥片	安山岩⑦		(51)×25×9	12.0	
63	第2ブロック	D2-80-63	石核	安山岩⑦		47×32×16	23.3	120
64	第2ブロック	D2-80-64	剥片	安山岩⑦		(25)×(34)×11	7.1	
65	第2ブロック	D2-80-65	砕片	安山岩⑩		(14)×(17)×4	0.8	
66	第2ブロック	D2-80-66	剥片	凝灰岩①		(45)×36×10	13.5	
67	第2ブロック	D2-80-67	剥片	凝灰岩①		14×20×3	0.7	120
68	第2ブロック	D2-81-2-1	剥片	安山岩①		19×32×6	3.4	
69	第2ブロック	D2-81-2-2	尖頭器未製品	安山岩③	27-4	(24)×(32)×(12)	6.2	
70	第2ブロック	D2-81-2-3	剥片	安山岩③		(12)×(24)×5	1.3	
71	第2ブロック	D2-81-2-4	剥片	安山岩②		22×22×5	1.5	120

第8表　第2文化層石器属性表(2)

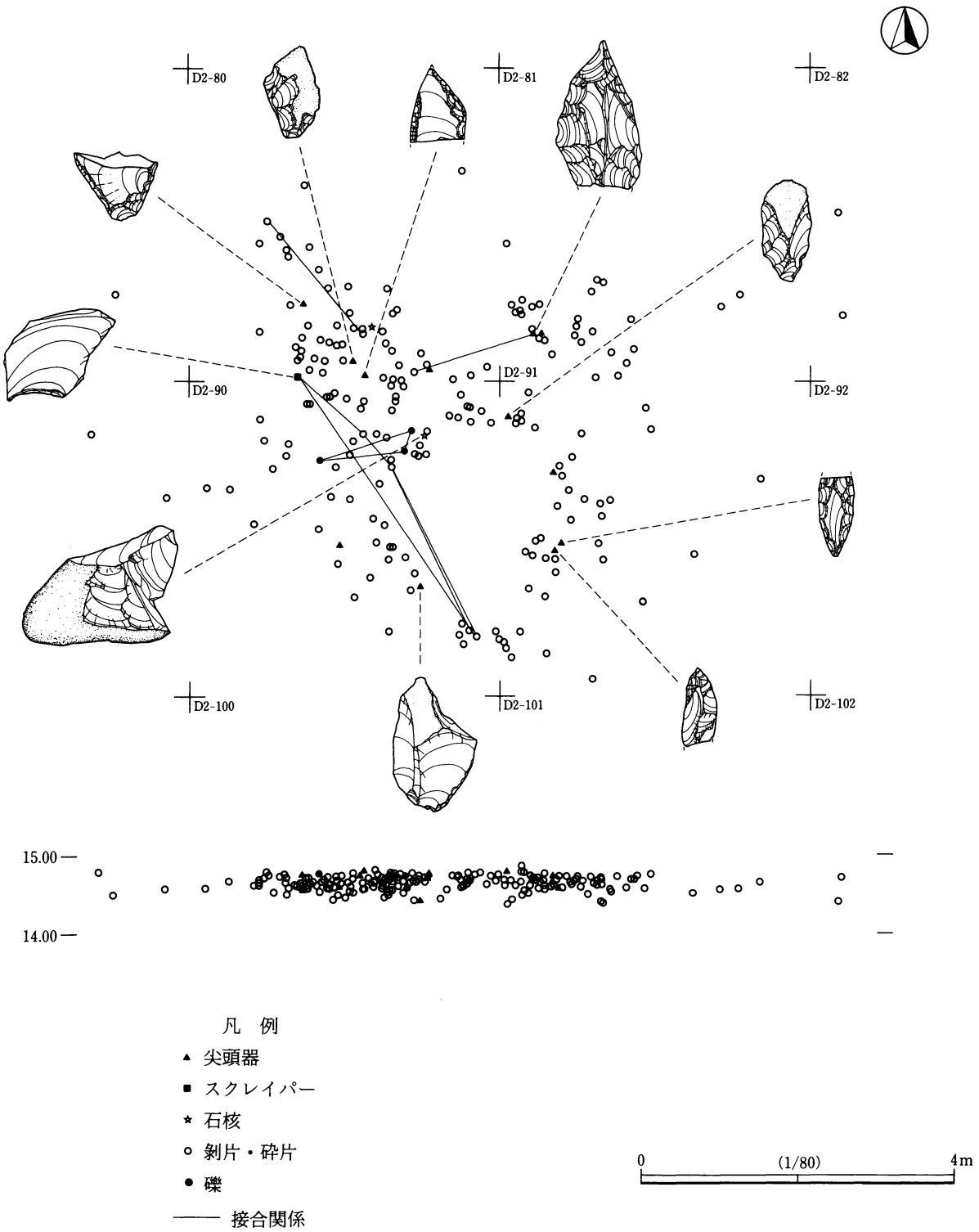
No	ブロック	登録番号	器種	石材	挿図番号	長×幅×厚（mm）	重量（g）	打角（°）
72	第2ブロック	D2-81-5	剥片	頁岩①		10×15×2	0.3	105
73	第2ブロック	D2-81-6	剥片	凝灰岩①		(12)×(21)×3	0.5	135
74	第2ブロック	D2-81-10	砕片	頁岩①		(11)×(13)×2	0.2	
75	第2ブロック	D2-81-11	砕片	安山岩④		9×18×3	0.3	
76	第2ブロック	D2-81-12	剥片	安山岩⑦		33×38×8	9.0	115
77	第2ブロック	D2-81-13	剥片	安山岩⑦	30-2	71×31×19	31.5	100
78	第2ブロック	D2-81-14	剥片	頁岩①		(12)×18×4	0.6	100
79	第2ブロック	D2-81-15	剥片	安山岩⑦		16×18×4	0.6	95
80	第2ブロック	D2-81-16	剥片	安山岩⑯		26×33×12	5.7	130
81	第2ブロック	D2-81-17	剥片	安山岩⑩		43×18×7	4.4	
82	第2ブロック	D2-81-18	二次加工ある剥片	安山岩⑪	28-5	42×48×15	35.6	
83	第2ブロック	D2-81-19	剥片	安山岩③		19×26×9	2.8	
84	第2ブロック	D2-81-20	砕片	安山岩⑧		11×15×2	0.3	
85	第2ブロック	D2-81-22	尖頭器未製品	安山岩③	25-2	(63)×36×18	34.9	
86	第2ブロック	D2-81-24	剥片	安山岩⑦		(19)×18×4	0.9	100
87	第2ブロック	D2-81-25	剥片	安山岩③	29-5	39×28×10	10.5	
88	第2ブロック	D2-81-26	剥片	安山岩⑥		30×32×7	5.2	120
89	第2ブロック	D2-81-27	剥片	安山岩⑤	28-6	(36)×(20)×8	6.5	
90	第2ブロック	D2-81-28	剥片	安山岩①		(19)×(26)×6	2.7	
91	第2ブロック	D2-81-29	剥片	頁岩①	b35-2	(27)×(25)×6	2.8	
92	第2ブロック	D2-81-31	剥片	安山岩⑩	31-1	49×48×15	38.7	
93	第2ブロック	D2-81-32	剥片	安山岩⑧		15×26×6	2.5	
94	第2ブロック	D2-81-33	剥片	安山岩⑦	29-4	(52)×34×12	19.9	95
95	第2ブロック	D2-81-34	剥片	安山岩③		17×11×3	0.5	
96	第2ブロック	D2-81-35	剥片	安山岩④		17×11×4	0.7	100
97	第2ブロック	D2-81-36	剥片	頁岩①		(9)×(24)×4	0.7	
98	第2ブロック	D2-81-37	砕片	安山岩③		(13)×(10)×3	0.3	
99	第2ブロック	D2-81-38	砕片	安山岩⑧		17×16×3	0.7	
100	第2ブロック	D2-81-40	尖頭器	安山岩③		(20)×(12)×6	1.3	
101	第2ブロック	D2-81-41	剥片	安山岩①		(24)×23×4	2.3	
102	第2ブロック	D2-81-42	剥片	安山岩⑩		29×22×5	2.0	
103	第2ブロック	D2-82-1	剥片	安山岩⑨		18×19×4	1.7	105
104	第2ブロック	D2-81-2	砕片	安山岩⑤		(13)×(22)×5	1.5	
105	第2ブロック	D2-90-1-1	剥片	安山岩⑰	32-2	54×54×24	51.3	135
106	第2ブロック	D2-90-1-2	尖頭器未製品	安山岩①	27-2	(38)×25×9	8.4	
107	第2ブロック	D2-90-1-3	剥片	安山岩⑧	32-1	50×39×18	36.1	115
108	第2ブロック	D2-90-1-4	剥片	安山岩⑥		(44)×27×17	15.4	110
109	第2ブロック	D2-90-1-5	二次加工ある剥片	安山岩①	28-3	50×36×12	17.0	115
110	第2ブロック	D2-90-1-6	剥片	安山岩⑥		29×36×13	10.0	110
111	第2ブロック	D2-90-1-7	剥片	安山岩⑥		(43)×30×12	13.3	110
112	第2ブロック	D2-90-1-8	剥片	安山岩①		32×34×4	3.4	100
113	第2ブロック	D2-90-1-9	剥片	安山岩①		34×38×7	5.8	105
114	第2ブロック	D2-90-1-10	剥片	安山岩①		(32)×(21)×4	2.4	
115	第2ブロック	D2-90-1-11	剥片	安山岩⑤		(22)×27×6	4.1	
116	第2ブロック	D2-90-1-12	剥片	安山岩②		16×23×6	1.8	
117	第2ブロック	D2-90-1-13	剥片	安山岩①		(15)×(35)×6	2.5	
118	第2ブロック	D2-90-1-14	剥片	安山岩⑥		16×23×6	1.6	130
119	第2ブロック	D2-90-1-15	剥片	安山岩⑨		17×19×6	1.2	120
120	第2ブロック	D2-90-1-16	剥片	安山岩①		(24)×19×4	1.7	
121	第2ブロック	D2-90-1-17	剥片	安山岩②		11×20×3	0.5	
122	第2ブロック	D2-90-1-18	剥片	安山岩②		(24)×18×6	2.7	
123	第2ブロック	D2-90-1-20	砕片	安山岩②		(13)×(23)×3	0.7	
124	第2ブロック	D2-90-1-21	剥片	安山岩②		(11)×(14)×2	0.4	
125	第2ブロック	D2-90-2-1	砕片	凝灰岩①		(18)×7×6	0.5	
126	第2ブロック	D2-90-2-2	砕片	凝灰岩①		6×7×1	0.1	
127	第2ブロック	D2-90-3	剥片	頁岩①		27×22×5	1.9	120
128	第2ブロック	D2-90-4	剥片	安山岩③		(28)×28×5	3.2	
129	第2ブロック	D2-90-5	剥片	安山岩②		(14)×26×4	1.2	
130	第2ブロック	D2-90-6	剥片	安山岩②		18×16×8	1.6	90
131	第2ブロック	D2-90-7	剥片	安山岩②		(19)×(22)×4	1.6	
132	第2ブロック	D2-90-8	剥片	安山岩④		23×30×6	3.3	130
133	第2ブロック	D2-90-9	石核	安山岩⑥	32-3	(78)×47×22	71.5	
134	第2ブロック	D2-90-10	砕片	安山岩②		14×10×4	0.5	
135	第2ブロック	D2-90-11	剥片	安山岩②		(13)×(25)×3	0.7	
136	第2ブロック	D2-90-15	剥片	安山岩⑩		(28)×18×7	66.5	120
137	第2ブロック	D2-90-16	剥片	安山岩①	a37-1	59×77×24	4.0	110
138	第2ブロック	D2-90-18	剥片	安山岩⑫		28×21×11	94.0	120
139	第2ブロック	D2-90-19	剥片	凝灰岩①		21×14×3	4.3	
140	第2ブロック	D2-90-20	剥片	安山岩②		(8)×(15)×4	0.7	
141	第2ブロック	D2-90-21	砕片	安山岩①		(14)×(14)×5	0.5	
142	第2ブロック	D2-90-22	剥片	安山岩①		(21)×31×6	1.1	

第8表　第2文化層石器属性表(3)

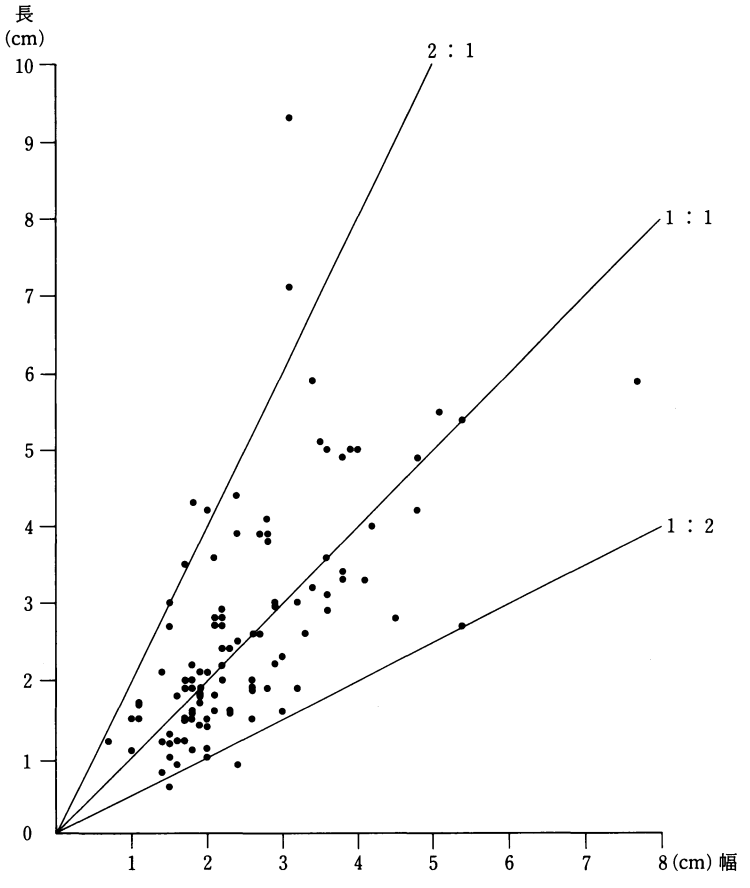
No	ブロック	登録番号	器種	石材	挿図番号	長×幅×厚（mm）	重量（g）	打角（°）
143	第2ブロック	D2-90-23	剥片	安山岩③	31-4	51×35×17	3.6	100
144	第2ブロック	D2-90-24	剥片	凝灰岩①		8×14×2	20.0	105
145	第2ブロック	D2-90-26	剥片	安山岩①	b37-1	38×28×11	0.2	95
146	第2ブロック	D2-90-27	剥片	安山岩⑨		(19)×20×3	9.6	95
147	第2ブロック	D2-90-28	砕片	安山岩②		(9)×9×3	1.3	
148	第2ブロック	D2-90-30	剥片	安山岩④		(9)×18×3	0.3	105
149	第2ブロック	D2-90-33-1	剥片	安山岩②		35×17×11	5.1	110
150	第2ブロック	D2-90-33-2	剥片	安山岩②		19×19×3	0.6	
151	第2ブロック	D2-90-34-1	二次加工ある剥片	頁岩①	29-2	(32)×25×6	3.7	110
152	第2ブロック	D2-90-34-2	二次加工ある剥片	安山岩⑪	29-6	31×36×11	10.2	95
153	第2ブロック	D2-90-36	剥片	凝灰岩①		15×17×3	0.6	
154	第2ブロック	D2-90-37	砕片	安山岩②		(9)×11×4	0.3	
155	第2ブロック	D2-90-38	剥片	凝灰岩①		27×15×4	1.0	
156	第2ブロック	D2-90-39	剥片	安山岩①		20×18×5	1.5	110
157	第2ブロック	D2-90-40	剥片	凝灰岩①	29-3	36×36×7	6.5	105
158	第2ブロック	D2-90-42	砕片	安山岩⑤		15×7×4	0.4	
159	第2ブロック	D2-90-43	剥片	安山岩⑫	28-4	(38)×(27)×7	8.8	115
160	第2ブロック	D2-90-44	砕片	安山岩⑭		15×9×5	0.6	
161	第2ブロック	D2-90-46	剥片	凝灰岩①		24×23×4	1.6	120
162	第2ブロック	D2-90-47	砕片	安山岩⑧		(9)×(11)×2	0.2	
163	第2ブロック	D2-90-48	尖頭器未製品	凝灰岩①		(10)×(26)×5	1.3	
164	第2ブロック	D2-90-49	砕片	安山岩⑧		13×15×3	0.4	
165	第2ブロック	D2-90-50	砕片	安山岩⑤		(14)×(25)×6	1.3	
166	第2ブロック	D2-90-51	剥片	安山岩⑰		(20)×(25)×10	3.7	
167	第2ブロック	D2-90-52	砕片	安山岩②		(7)×(15)×3	0.3	
168	第2ブロック	D2-90-53	砕片	安山岩⑫		(11)×(13)×3	0.4	
169	第2ブロック	D2-90-54-1	剥片	安山岩③		(17)×(19)×3	1.2	
170	第2ブロック	D2-90-54-2	剥片	安山岩⑤		(10)×(16)×3	0.4	120
171	第2ブロック	D2-90-55	剥片	安山岩②		(9)×(21)×5	0.7	
172	第2ブロック	D2-90-56	剥片	安山岩⑮		(15)×(24)×5	1.7	
173	第2ブロック	D2-90-57	尖頭器未製品	安山岩①	27-3	56×37×18	27.9	
174	第2ブロック	D2-90-58	剥片	安山岩⑤		(12)×(14)×3	0.7	110
175	第2ブロック	D2-90-59	剥片	安山岩⑧		18×19×6	2.0	90
176	第2ブロック	D2-90-60	剥片	安山岩④		(12)×(10)×3	0.3	120
177	第2ブロック	D2-90-61	剥片	安山岩④		16×30×7	2.6	100
178	第2ブロック	D2-90-62	剥片	安山岩①	37-1d	(16)×(37)×12	4.6	
179	第2ブロック	D2-90-63	剥片	安山岩⑤		(18)×(29)×8	3.2	
180	第2ブロック	D2-90-64	剥片	安山岩①	37-1e	(11)×(34)×9	3.0	
181	第2ブロック	D2-90-65	剥片	安山岩②		(16)×(23)×6	2.2	95
182	第2ブロック	D2-90-66	砕片	安山岩⑪		(17)×(20)×4	1.0	
183	第2ブロック	D2-90-67	剥片	安山岩②		(22)×(21)×4	1.7	
184	第2ブロック	D2-90-68	砕片	安山岩②		(13)×(13)×3	0.6	
185	第2ブロック	D2-90-69	砕片	安山岩①		8×13×3	0.2	
186	第2ブロック	D2-90-70	剥片	凝灰岩①		(12)×(14)×2	0.3	
187	第2ブロック	D2-90-71	剥片	安山岩④		(27)×(30)×5	4.9	
188	第2ブロック	D2-90-72	剥片	メノウ①		12×14×2	0.4	100
189	第2ブロック	D2-90-73	剥片	安山岩②		15×16×3	0.5	115
190	第2ブロック	D2-90-74	剥片	安山岩⑱		(17)×20×7	2.1	120
191	第2ブロック	D2-90-75	剥片	安山岩①		20×22×2	0.8	
192	第2ブロック	D2-90-76	剥片	安山岩③		15×17×4	0.7	
193	第2ブロック	D2-90-77	剥片	安山岩⑨		(35)×25×4	3.9	
194	第2ブロック	D2-90-79	剥片	凝灰岩①		16×18×8	1.1	
195	第2ブロック	D2-91-2-1	剥片	安山岩①		(39)×25×13	10.2	
196	第2ブロック	D2-91-2-2	剥片	安山岩①		39×24×11	9.6	105
197	第2ブロック	D2-91-2-3	剥片	安山岩⑥		44×24×10	8.2	120
198	第2ブロック	D2-91-2-4	剥片	安山岩②		25×24×4	1.5	
199	第2ブロック	D2-91-2-5	剥片	安山岩⑨		14×19×5	1.0	120
200	第2ブロック	D2-91-2-6	剥片	安山岩②		10×20×4	0.7	
201	第2ブロック	D2-91-2-7	剥片	安山岩④		(22)×(21)×3	1.5	95
202	第2ブロック	D2-91-4	剥片	安山岩⑭		(45)×24×10	8.5	
203	第2ブロック	D2-91-5	剥片	安山岩⑤		(25)×(23)×3	2.0	90
204	第2ブロック	D2-91-7	剥片	安山岩⑤		(14)×(17)×3	0.8	100
205	第2ブロック	D2-91-8	剥片	安山岩④		28×22×7	3.1	
206	第2ブロック	D2-91-9	尖頭器未製品	安山岩③	26-6	44×22×8	6.2	
207	第2ブロック	D2-91-10	剥片	安山岩①		(19×26)×4	2.0	
208	第2ブロック	D2-91-11	尖頭器未製品	安山岩①		44×27×5	6.8	100
209	第2ブロック	D2-91-12	剥片	安山岩③		(24)×16×3	1.0	
210	第2ブロック	D2-91-13	砕片	安山岩④		(14)×(23)×4	0.9	
211	第2ブロック	D2-91-14	砕片	安山岩⑤		(16)×(6)×3	0.2	
212	第2ブロック	D2-91-15	砕片	安山岩④		13×21×3	0.6	
213	第2ブロック	D2-91-16	砕片	安山岩③		(9)×(14)×(4)	0.4	

第8表　第2文化層石器属性表(4)

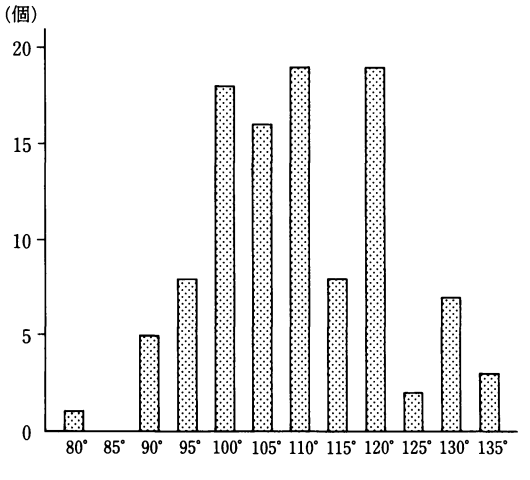
No	ブロック	登録番号	器種	石材	挿図番号	長×幅×厚（mm）	重量（g）	打角（°）
214	第2ブロック	D2-91-17	剥片	安山岩③		(21)×(22)×(5)	2.6	
215	第2ブロック	D2-91-18	剥片	安山岩⑧		(15)×25×9	3.7	
216	第2ブロック	D2-91-20	剥片	安山岩①		28×45×13	14.5	130
217	第2ブロック	D2-91-21	砕片	安山岩⑧		(10)×(11)×(3)	0.3	
218	第2ブロック	D2-91-22	剥片	安山岩①		(16)×(28)×(4)	1.7	
219	第2ブロック	D2-91-23	剥片	安山岩③		(26)×(32)×(7)	6.4	
220	第2ブロック	D2-91-24	尖頭器	安山岩①	26-2	(34)×15×(8)	4.2	
221	第2ブロック	D2-91-25	砕片	安山岩④		(9)×(12)×(4)	0.3	
222	第2ブロック	D2-91-26	剥片	安山岩①		27×54×9	13.1	
223	第2ブロック	D2-91-27	剥片	安山岩⑧		30×29×19	13.8	
224	第2ブロック	D2-91-28	剥片	安山岩⑬		(28)×(25)×(7)	4.5	
225	第2ブロック	D2-91-29	剥片	安山岩⑤		(37)×29×5	4.9	
226	第2ブロック	D2-91-30	砕片	安山岩①		6×5×1	0.1	
227	第2ブロック	D2-91-31	砕片	安山岩④		(12)×(19)×(4)	0.9	
228	第2ブロック	D2-91-32	砕片	安山岩①		(7)×(16)×(3)	0.4	
229	第2ブロック	D2-91-35	砕片	安山岩②		(3)×(16)×(2)	0.1	
230	第2ブロック	D2-91-36	剥片	安山岩⑯		20×26×6	2.7	110
231	第2ブロック	D2-91-37	剥片	安山岩⑨		(30)×(29)×(6)	6.4	
232	第2ブロック	D2-91-38	砕片	安山岩④		10×11×2	0.1	
233	第2ブロック	D2-91-39	尖頭器	頁岩①	26-3	(34)×15×5	2.2	
234	第2ブロック	D2-91-40	砕片	安山岩⑦		21×15×5	1.1	
235	第2ブロック	D2-91-41	砕片	安山岩④		15×22×3	0.7	
236	第2ブロック	D2-91-42	砕片	安山岩⑤		11×27×4	0.9	
237	第2ブロック	D2-91-43	剥片	頁岩①		19×26×7	2.4	
238	第2ブロック	D2-91-44	砕片	安山岩⑤		(18)×(13)×(6)	1.1	
239	第2ブロック	D2-91-45	剥片	安山岩⑤		27×21×3	2.2	90
240	第2ブロック	D2-91-46	砕片	安山岩⑤		14×10×3	0.3	
241	第2ブロック	D2-91-47	砕片	安山岩④		(20)×(10)×(3)	0.4	
242	第2ブロック	D2-91-48	剥片	頁岩①		(13)×(11)×(3)	0.4	
243	第2ブロック	D2-91-49	砕片	安山岩④		14×11×3	0.4	
244	第2ブロック	D2-91-50	剥片	凝灰岩①		(9)×(12)×(2)	0.1	
245	第2ブロック	D2-91-51	砕片	安山岩④		17×14×3	0.5	
246	第2ブロック	D2-91-52	砕片	安山岩⑥		(17)×15×3	0.6	
247	第2ブロック	C2-89-1	剥片	安山岩⑨		(21)×(25)×(5)	2.7	120
248	第2ブロック	C2-89-2	剥片	凝灰岩①	29-1b	(36)×(25)×(11)	5.8	
249	第2ブロック	C2-99-1	剥片	安山岩④		15×11×5	0.5	110
250	第2ブロック	C2-99-2	剥片	安山岩⑧		12×16×3	0.5	
251	第2ブロック	C2-99-3	剥片	安山岩⑦	35-1b	(26)×(29)×(6)	4.4	100
252	第2ブロック	001-3-1	剥片	安山岩⑦	31-5	(52)×(76)×23	82.0	120
253	第2ブロック	001-3-2	剥片	安山岩⑦	35-1a	55×51×13	32.0	115
254	第2ブロック	001-3-3	剥片	安山岩⑪		(35)×(33)×6	5.8	100
255	第2ブロック	001-3-4	剥片	安山岩⑨	31-2	(33)×(31)×8	7.4	130
256	第2ブロック	001-3-5	剥片	安山岩③		30×29×7	5.3	80
257	第2ブロック	001-3-6	剥片	安山岩⑨		(23)×(43)×10	7.5	120
258	第2ブロック	001-3-7	剥片	安山岩⑦		36×21×11	6.8	105
259	第2ブロック	001-3-8	剥片	安山岩⑯		(19)×(23)×7	3.6	
260	第2ブロック	001-3-9	剥片	安山岩①		22×29×6	2.3	
261	第2ブロック	001-3-10	剥片	安山岩⑮		(19)×(23)×5	1.8	
262	第2ブロック	001-3-11	剥片	安山岩⑥		19×18×3	0.8	
263	第2ブロック	001-3-12	砕片	安山岩⑤		16×20×2	0.5	
264	第2ブロック	001-3-13	砕片	安山岩⑫		(12)×(14)×3	0.5	
265	第2ブロック	001-3-14	剥片	安山岩⑮		26×26×5	1.7	
266	第2ブロック	001-3-15	剥片	頁岩①	35-2a	(30)×(18)×(5)	2.2	
267	第2ブロック	001-3-16	剥片	頁岩①		21×19×2	0.7	115
268	第2ブロック	001-3-17	剥片	頁岩①	35-2c	(31)×(32)×6	4.1	
269	第2ブロック	001-3-18	剥片	頁岩①		(15)×(15)×2	0.4	100
270	第2ブロック	001-3-19	剥片	安山岩③		(19)×(22)×6	2.3	105
271	第2ブロック	001-3-20	剥片	安山岩③		18×21×3	1.3	110
272	第2ブロック	001-3-21	剥片	安山岩③		(22)×(21)×5	1.6	
273	第2ブロック	001-3-22	剥片	安山岩③		(17)×(19)×4	0.9	
274	第2ブロック	001-3-23	尖頭器	安山岩①	26-1	48×14×8	5.1	
275	第2ブロック	001-3-24	剥片	凝灰岩①		21×20×4	1.3	
276	第2ブロック	001-3-25	剥片	凝灰岩①		(17)×(19)×3	0.9	
277	第2ブロック	D2-81-00-1	剥片	安山岩⑬		19×28×9	4.1	
278	第2ブロック	D2-81-00-2	砕片	頁岩①		(13)×(12)×(2)	0.3	
279	第2ブロック	D2-81-00-3	砕片	安山岩⑤		10×16×2	0.3	
280	第2ブロック	D2-81-00-4	剥片	安山岩②		(13)×(17)×(3)	0.7	
281	第2ブロック	D2-81-00-5	尖頭器	安山岩②	26-5	(28)×(17)×(9)	3.5	
282	第2ブロック	D2-81-00-6	剥片	頁岩①		11×10×2	0.1	100
283	ブロック外	E2-60-1	尖頭器未製品	安山岩①	25-1	82×38×22	63.5	
284	ブロック外	004-2	剥片	安山岩⑲	31-3	49×38×14	26.2	



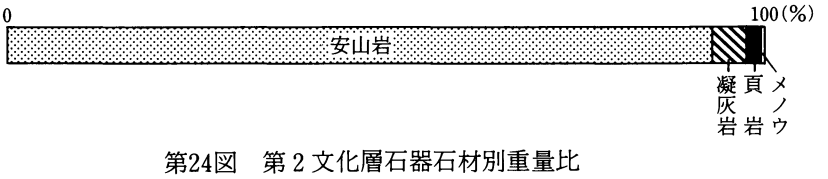
第21図　第２ブロック分布図



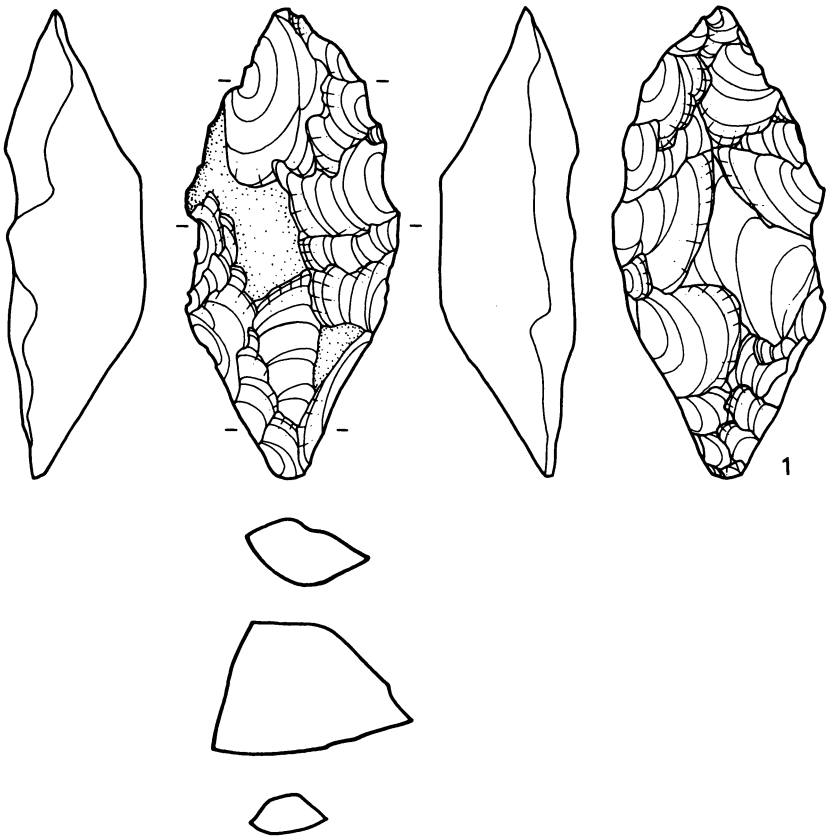
第22図　第２文化層剝片長幅分布図

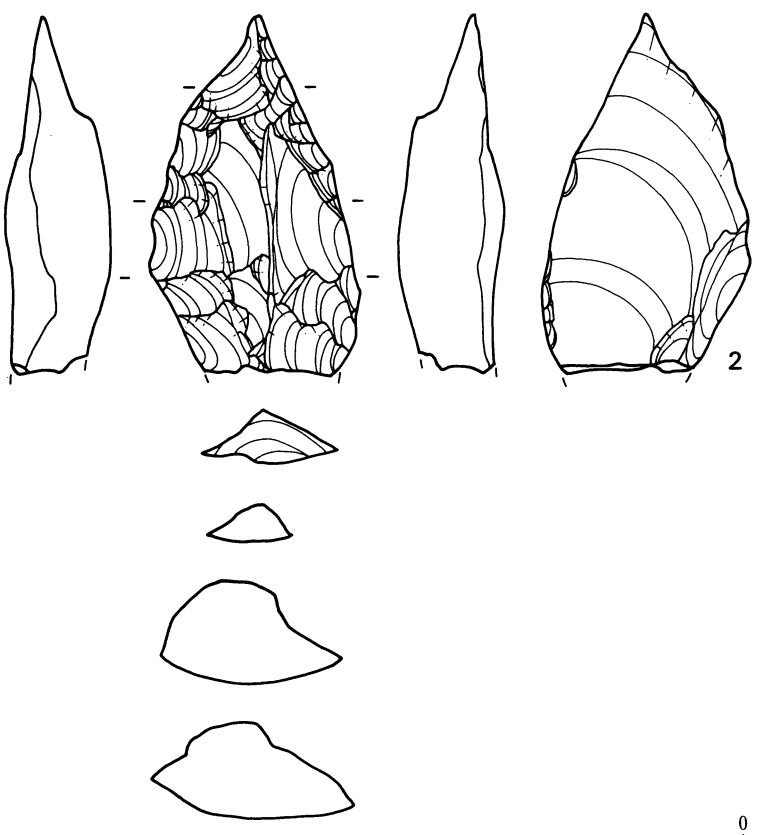


第23図　第２文化層打角分布



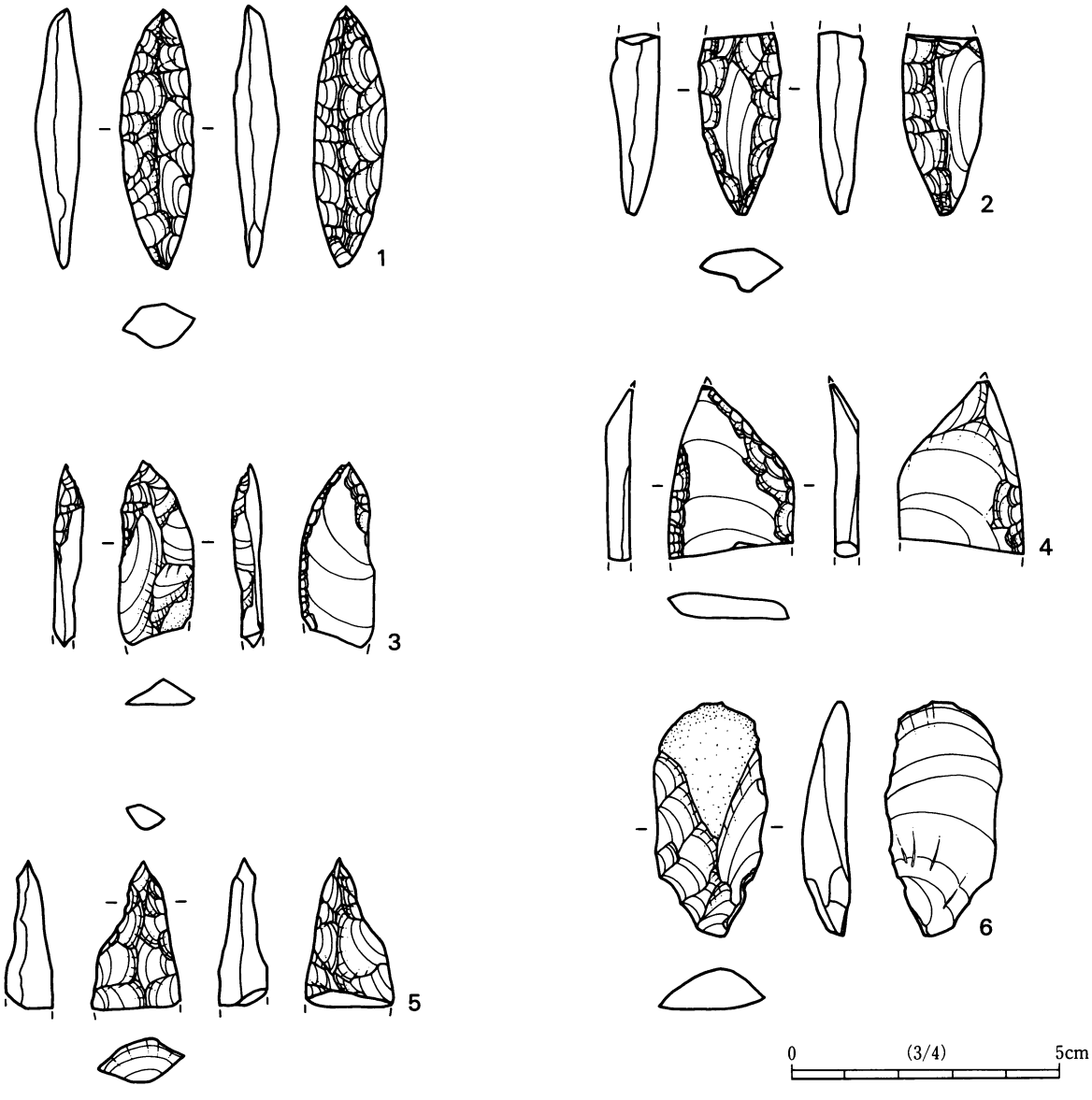
第24図　第２文化層石器石材別重量比





0 (3/4) 5cm

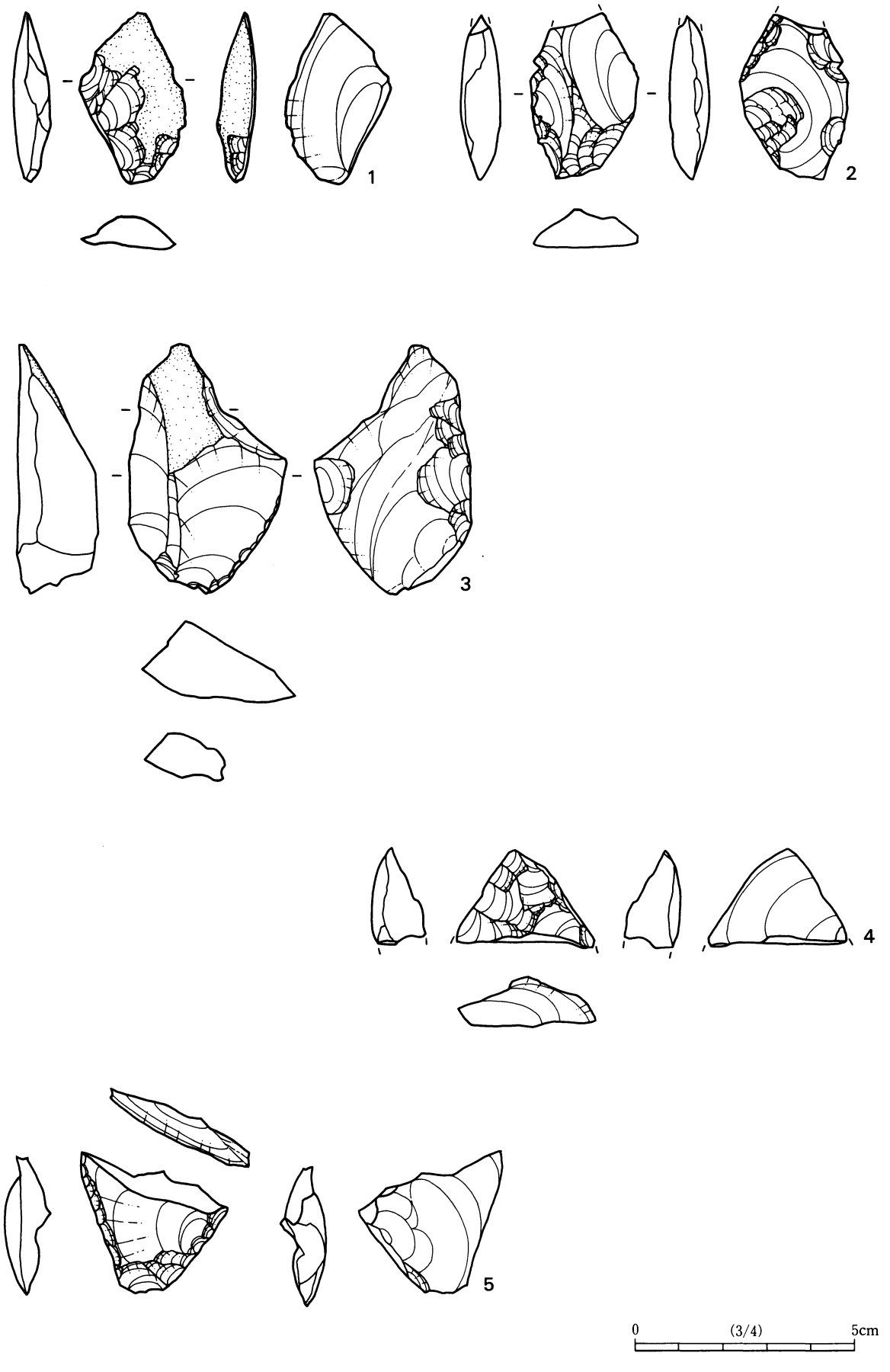
第25図　第２文化層出土石器（１）



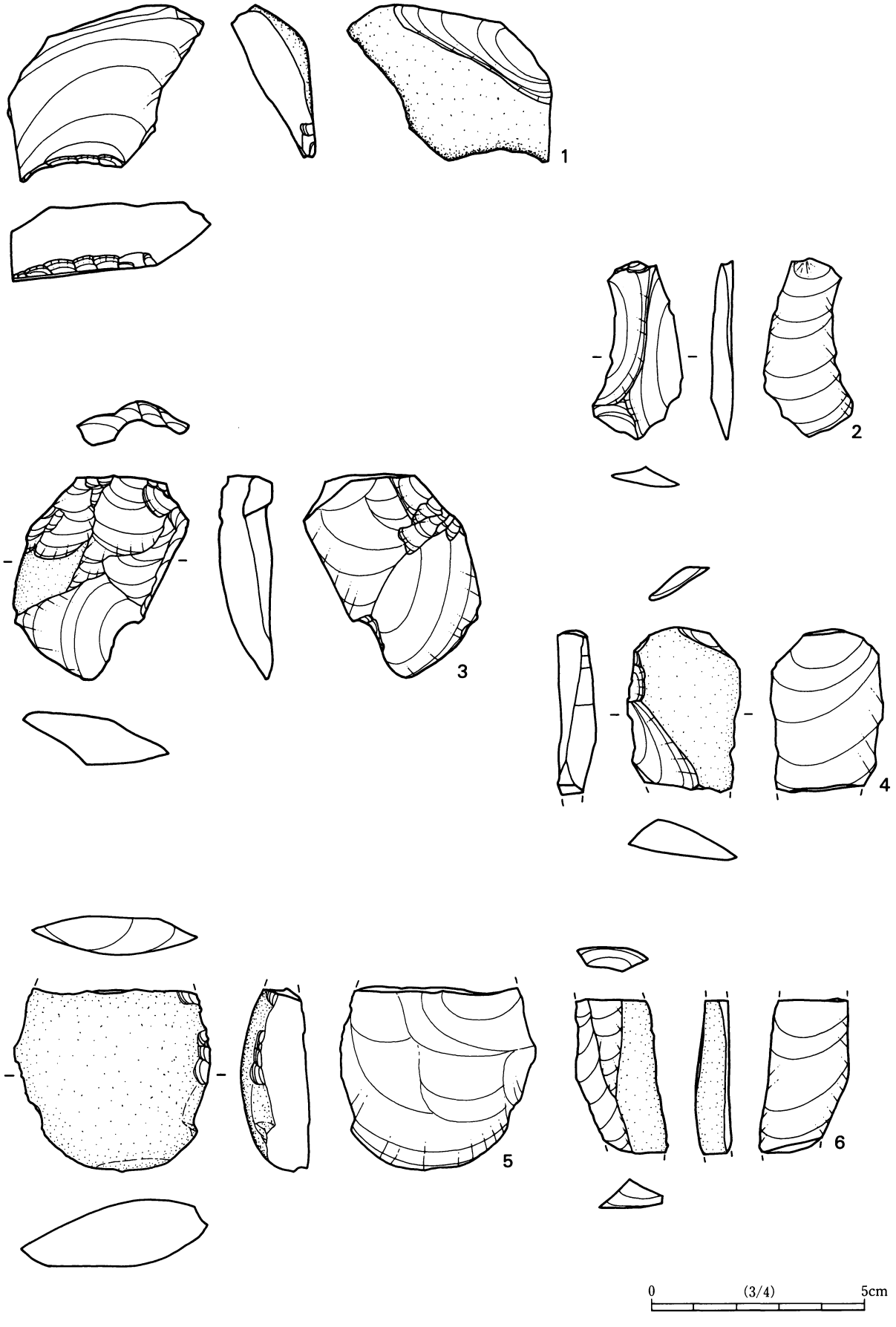
第26図　第２文化層出土石器（２）

第９表　第２文化層礫属性表

No	ブロック	登録番号	石材	長×幅×厚	重量（g）	遺存状況	備考
1	第２ブロック	D2-90-1-19	石英斑岩	20×16×9	3.3	1/4	
2	第２ブロック	D2-90-13	石英斑岩	47×40×33	66.5	1/4	┐
3	第２ブロック	D2-90-31	石英斑岩	40×22×19	19.3	1/4	├ 3点接合
4	第２ブロック	D2-90-78	石英斑岩	22×17×11	4.3	1/4	┘
5	ブロック外	004-153	チャート	13×13×9	1.2	1/4	

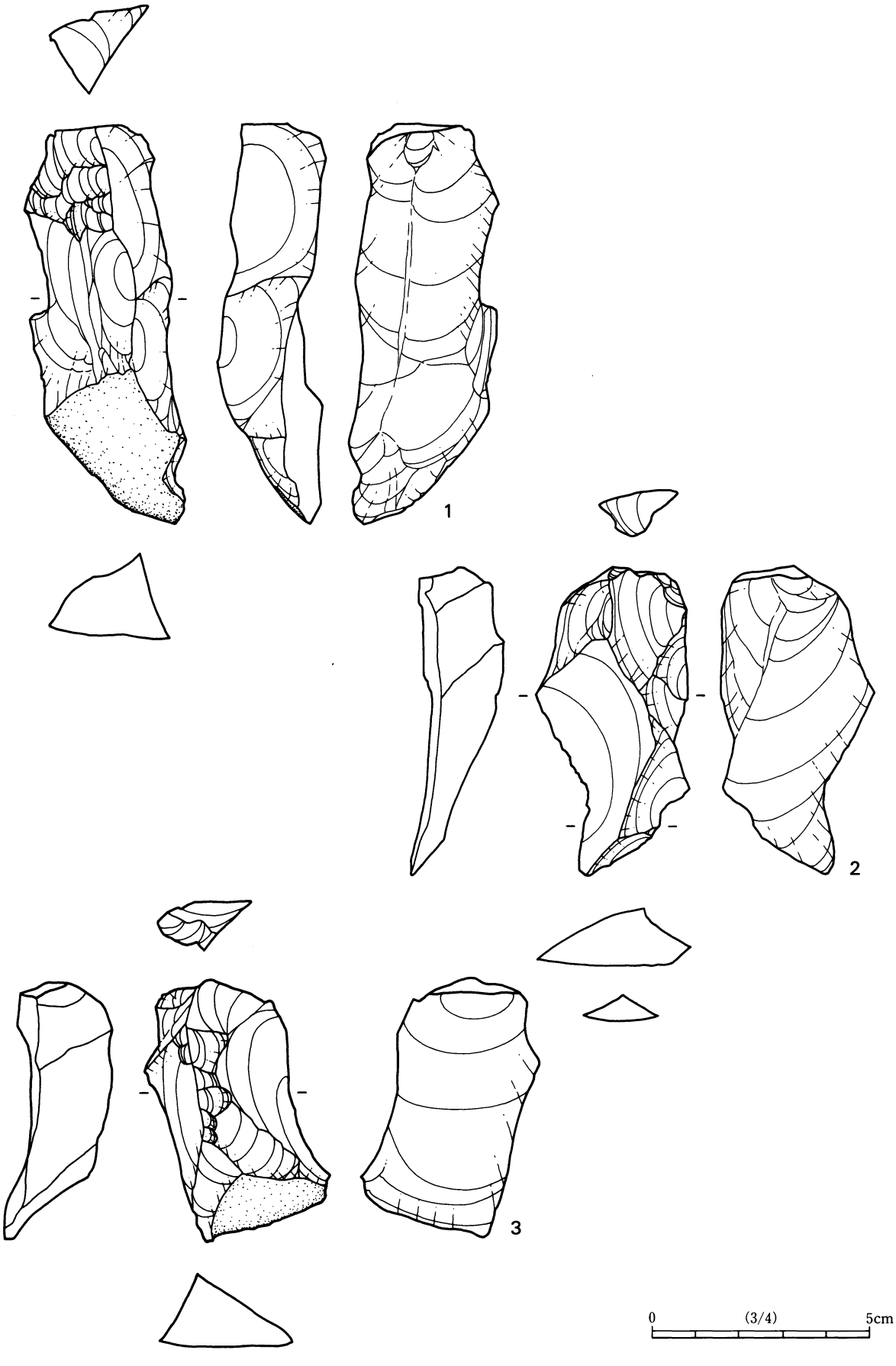


第27図　第２文化層出土石器（３）

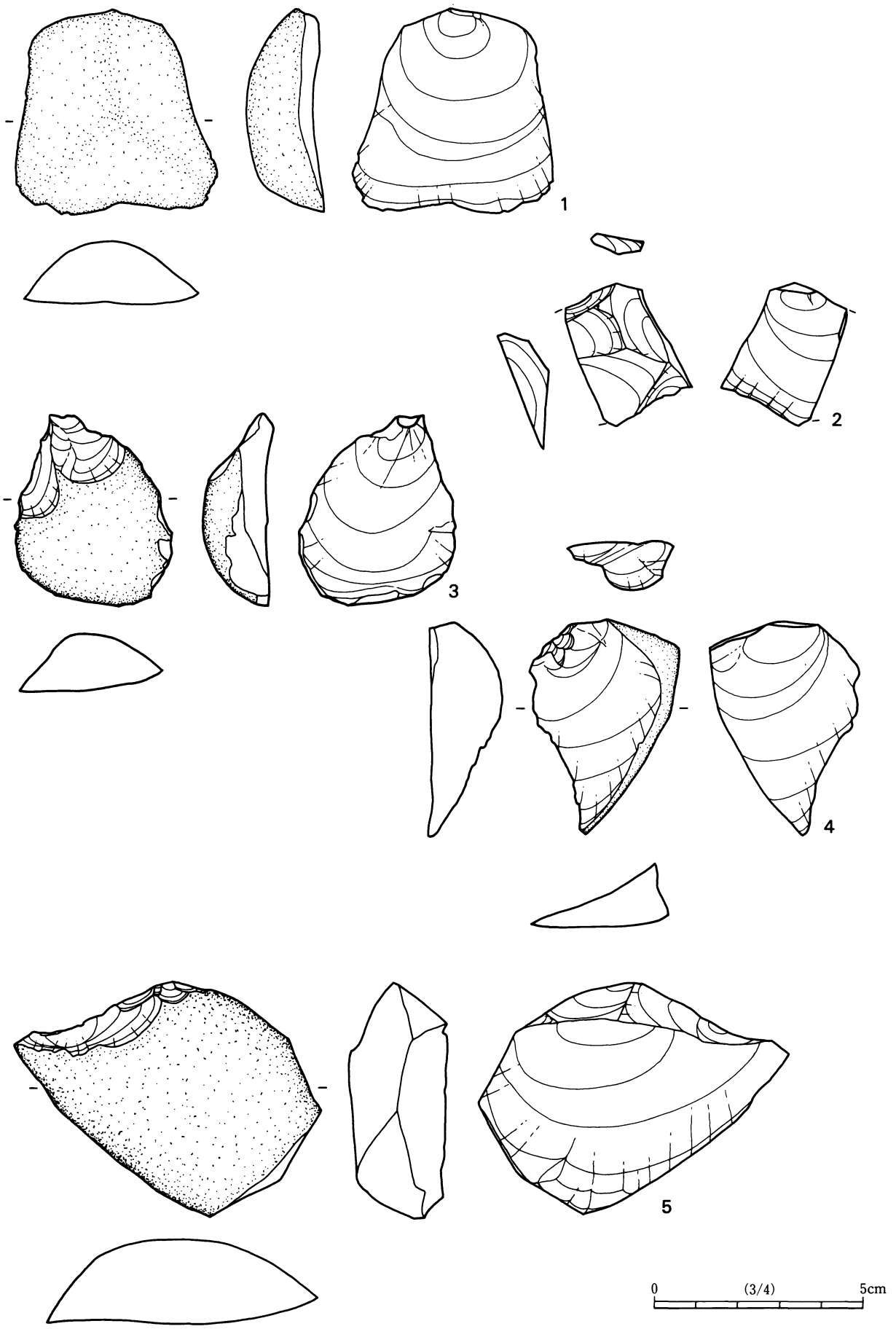


第28図　第２文化層出土石器（４）

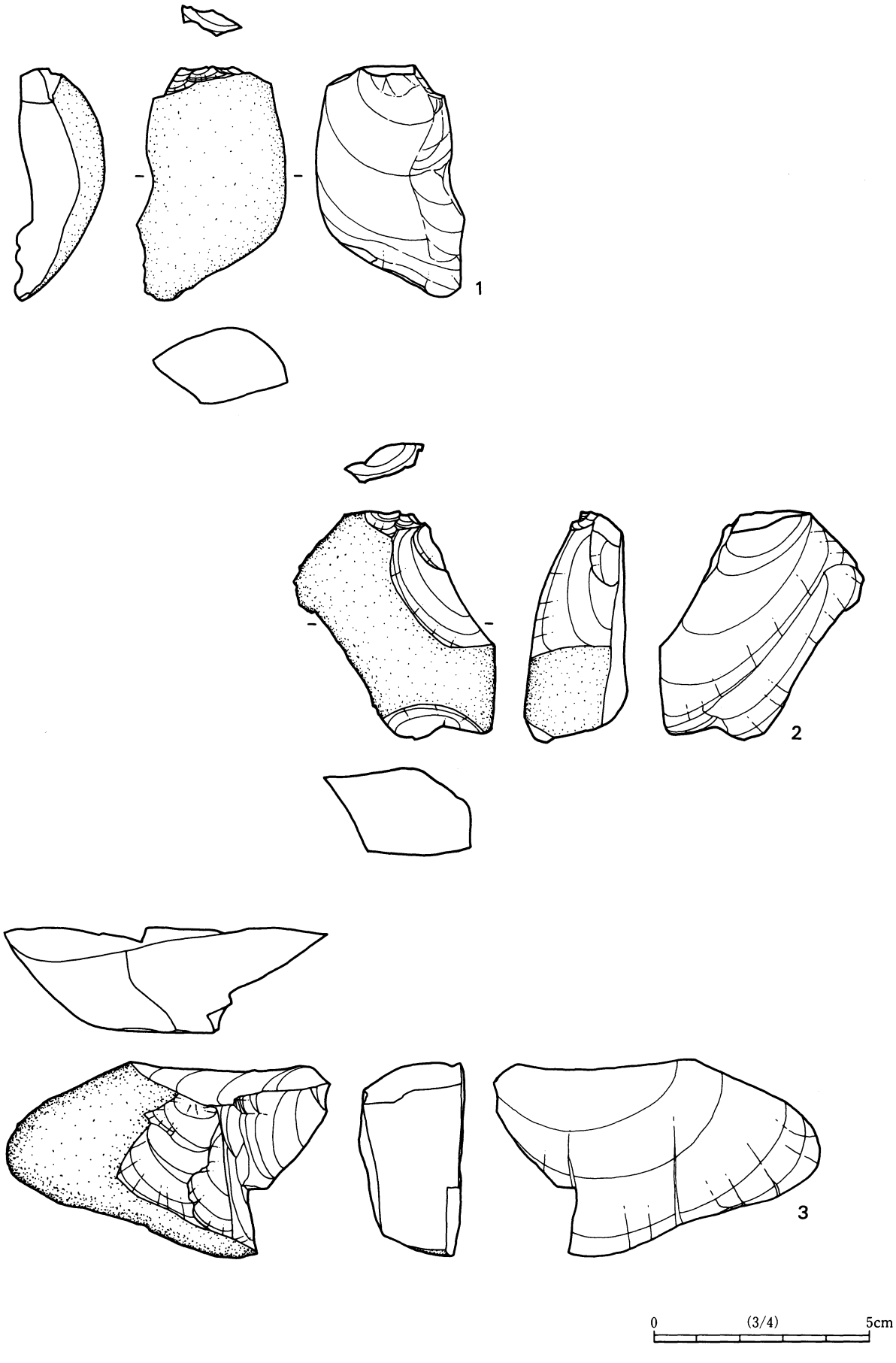
第29図　第２文化層出土石器（５）



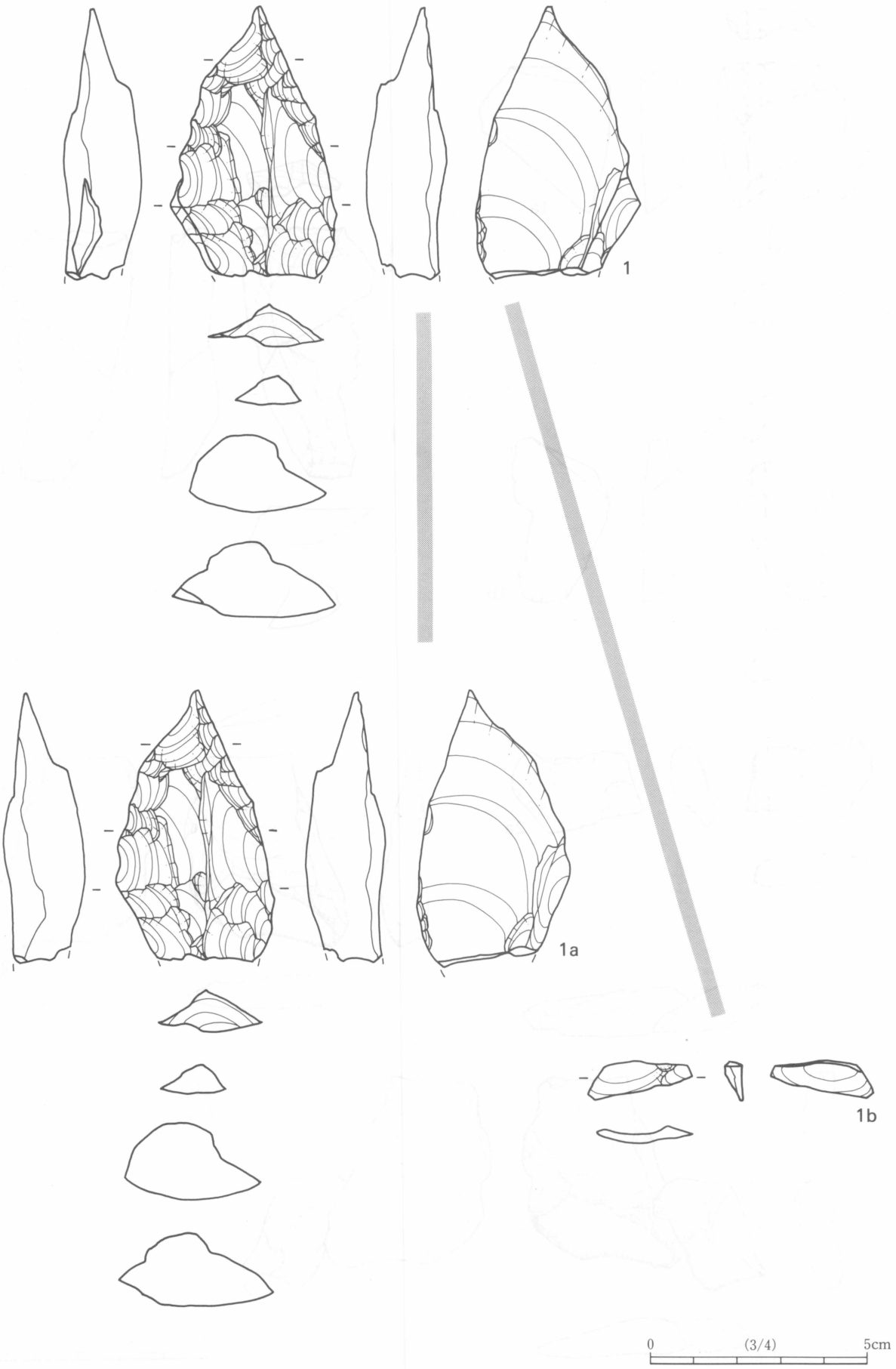
第30図　第２文化層出土石器（６）



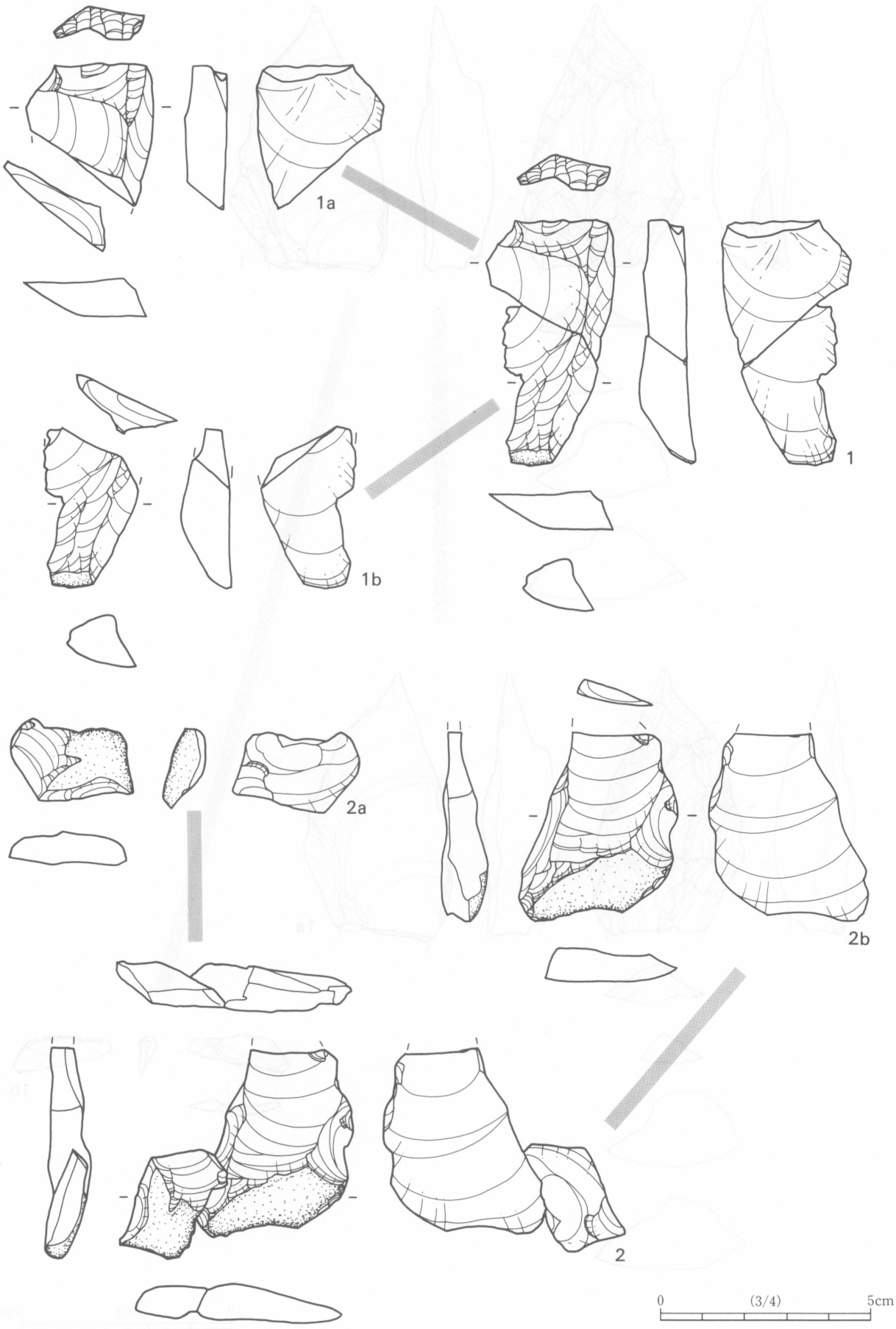
第31図　第２文化層出土石器（７）



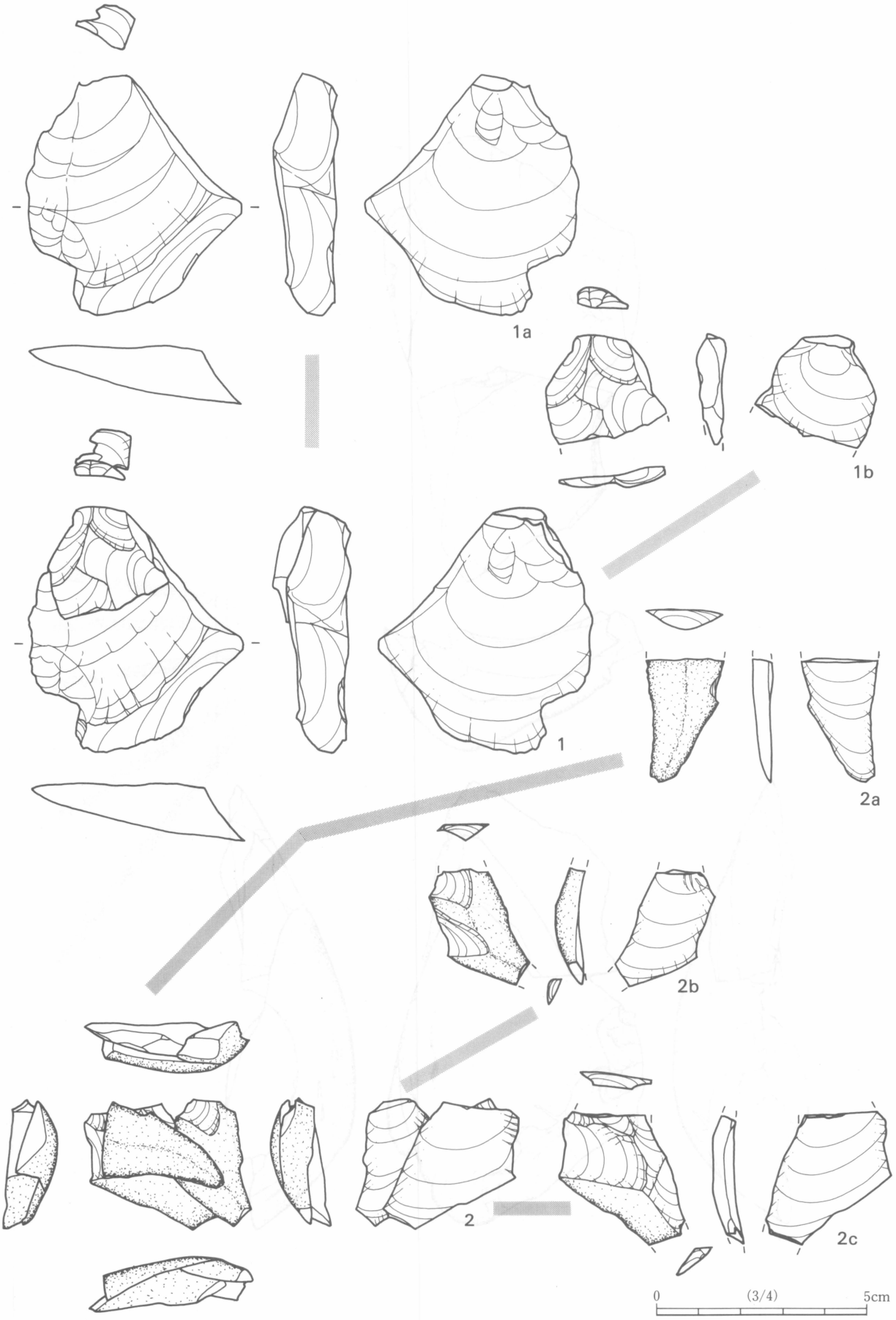
第32図　第２文化層出土石器（８）



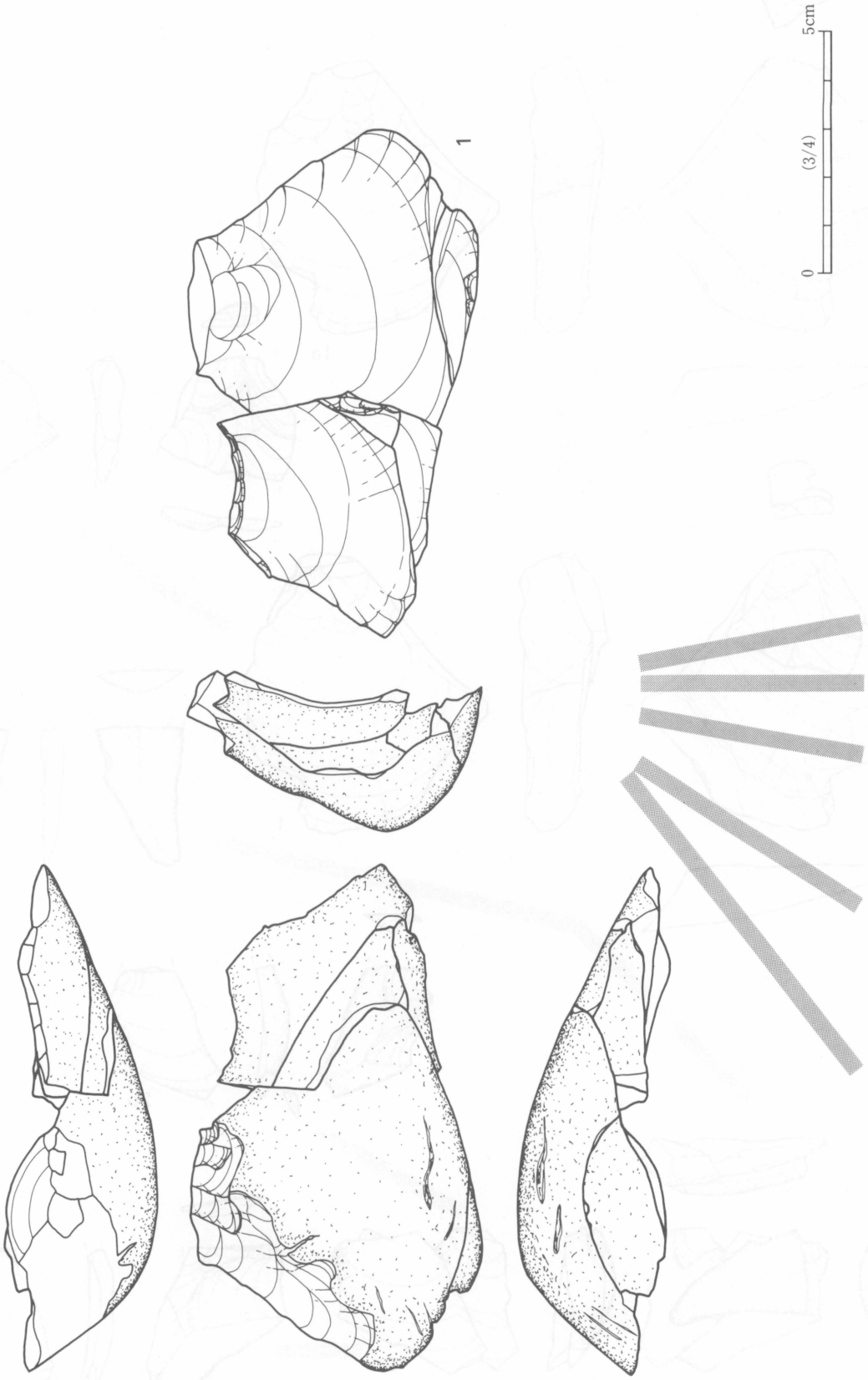
第33図　第２文化層出土石器接合図（１）



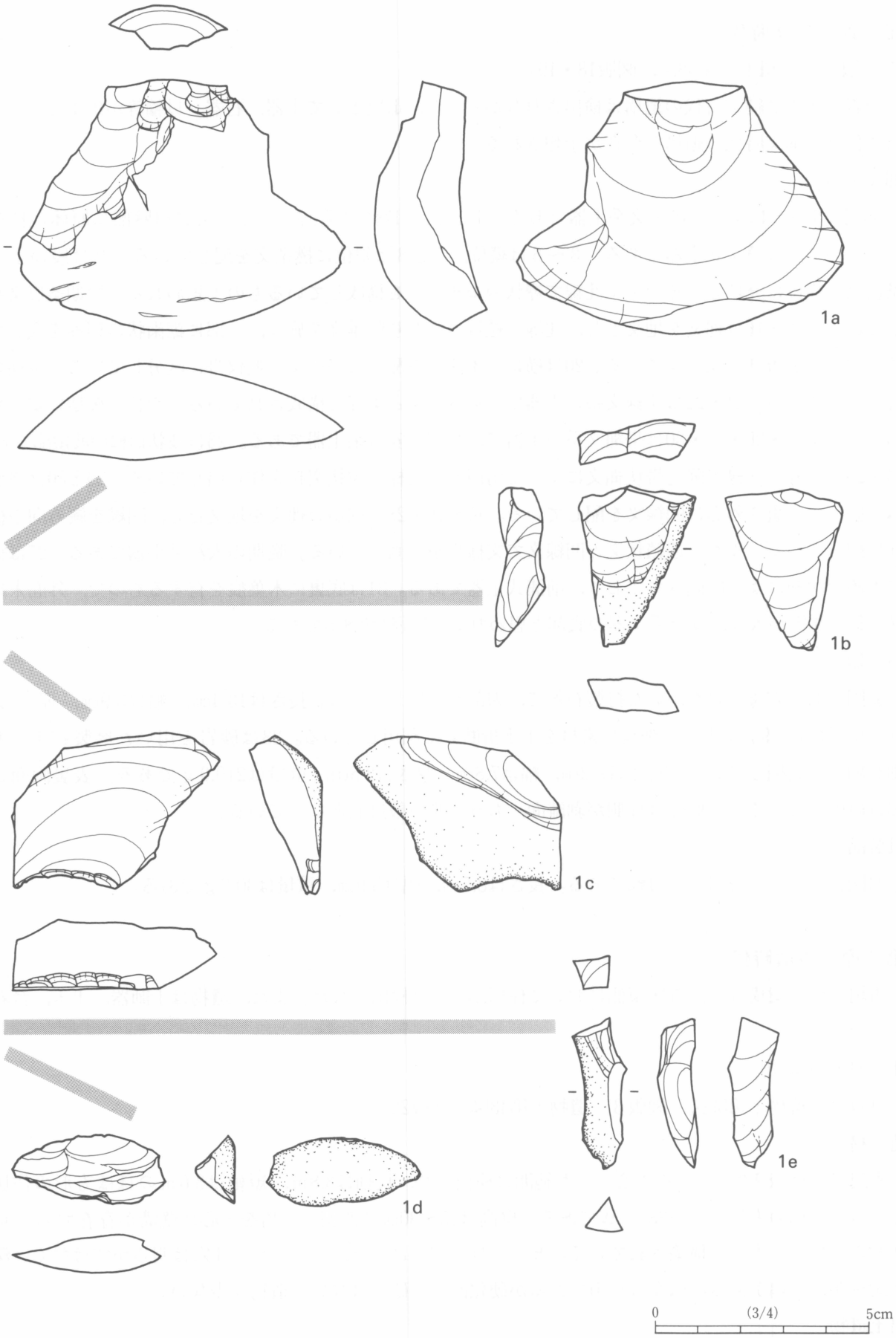
第34図　第２文化層出土石器接合図（２）



第35図　第２文化層出土石器接合図（３）



第36図　第２文化層出土石器接合図（４）



第37図　第２文化層出土石器接合図（５）

第２節　縄文時代

１　遺　物（遺物：第38図，図版18・19）

調査区域内に縄文時代の遺構は検出されなかったが，遺物として土器，石器，貝輪等が出土した。このため付近に縄文時代の遺構の存在が予想される。

縄文土器

38図の１～８は早期の撚糸文系土器である。１と２は口唇部が肥厚するとともに口唇部に原体の押捺があるもので，井草Ｉ式土器である。３～６は縦位，７と８は斜位に撚糸文を配している。９は段の上下に条痕文を横位に充填し，その上に沈線で襷状のモチーフを構成しているものと思われる。早期条痕文系土器である。10～16は縄文を地文とし，沈線で蛇行させたり懸垂文を施し，一部に鋸歯状の刻みを入れている。中期の加曽利Ｅ式土器である。20は横に一本沈線を配して帯縄文と無紋帯に区分している。後期の安行系土器である。21・22は紐線文系の土器で，刻み目文と条線で構成されている。やはり後期の安行系土器である。23～26・29・30は帯縄文系の土器で，晩期の安行系土器である。23は波状口縁の波頂部である。24～26は口縁が平縁で隆起帯状縄文によって楕円形の文様と瘤状突起を作り出している。29と30は異形土器の底部で底裏や外面に凹線文を配している。17～19・28は細かい縄文を地文とし，凹線を縦方向や横方向に配している。また，連鎖状文と凹線文で文様帯を区画している。晩期の大洞系土器である。27は縄文が太めの沈線により区画されており，前浦式土器である。31は底裏に木葉痕を有するもので，外面末端に横１条の沈線が入り，安行系土器の底部と思われる。底径は9.8cmである。

石　器

38図の32は雲母片岩を用いた打製石斧で，刃部を欠損している。長さは13.4cm，幅は3.9cm，厚さは1.5cm，重量は152.9ｇである。細長い素材を上下折断して利用している。33は砂岩を用いた磨製石斧で刃部側を約半分欠損している。長さは9.2cm，幅は7.8cm，厚さは2.5cm，重量は219.0ｇである。表裏両面と基部は研磨しているが，側面は片側が剥離面，もう片側が敲打面となっている。

貝製品

34図はアカニシを用いた貝輪である。長さは8.5cm，幅は5.9cm，重量は30.2ｇである。

第３節　古墳時代

古墳時代の遺構は，調査区東側において住居跡が３軒検出された。また，遺物は土師器，土玉，台石等が出土した。

１　遺構・遺物

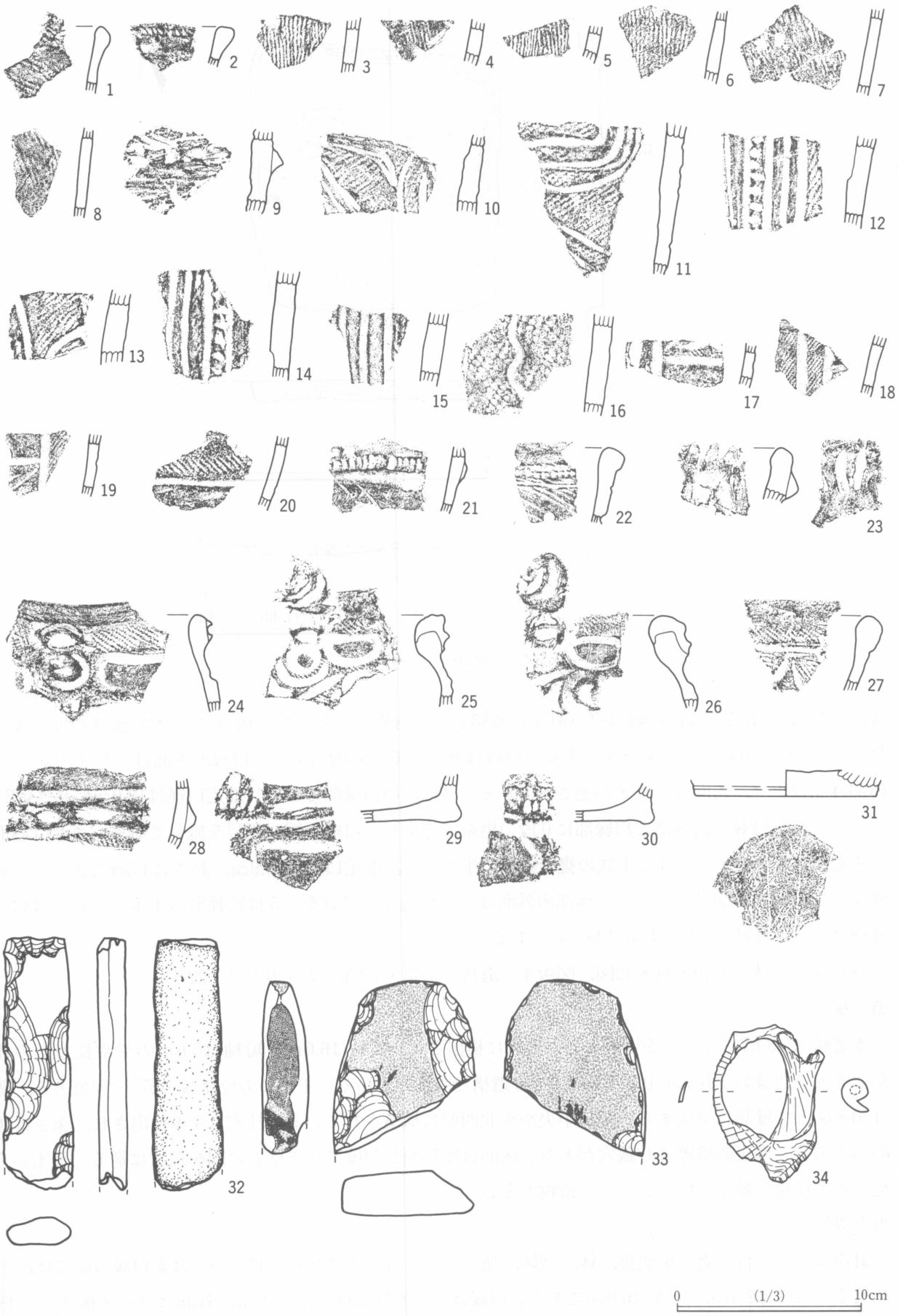
００３（遺構：第39図，図版３　遺物：第43図，図版22）

遺　構

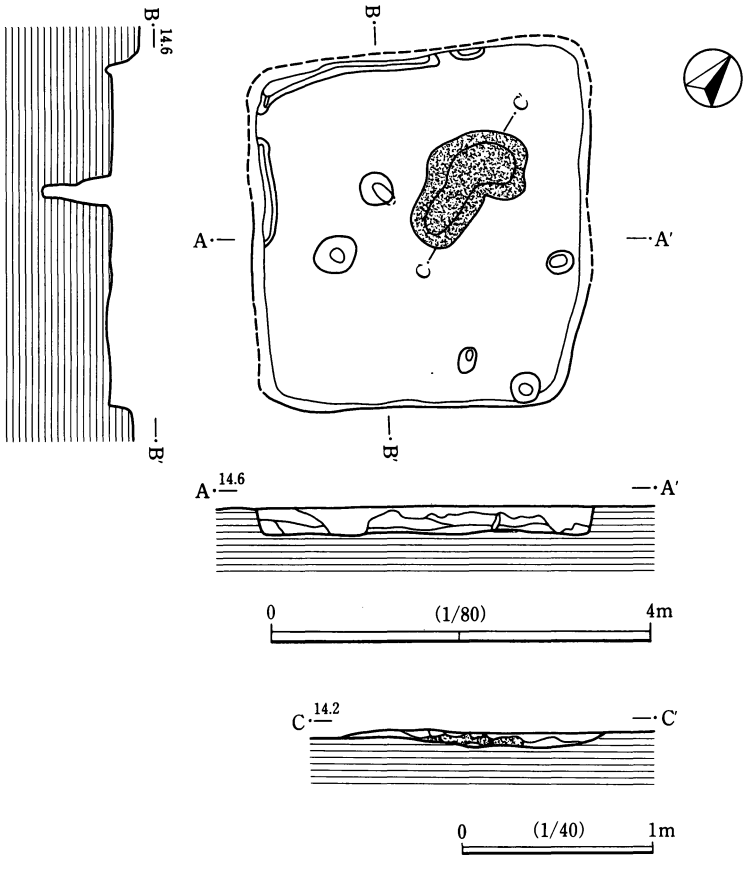
本遺構はD2-89グリッドを中心とした範囲に検出され，長軸は3.8ｍ，短軸は3.6ｍのほぼ方形の住居跡である。主軸の方位はＮ－38°－Ｗである。壁高は25～30cmで西側の一角を中心に壁溝が存在する。炉は北側の一角に片寄って構築されている。ピットは不規則に５本検出されたが柱穴は明らかではなく，深さは20～70cmと幅がある。床面は平坦であるが硬化面は明確ではない。遺物は少ない。

出土遺物

遺物は，壺，平底甕，台付甕，土玉である。43図の１と２は台付甕の口縁部である。１は推定口径は19.0



第38図　縄文時代出土遺物



第39図　００３

cm，高さは3.5cmである。口縁は真っ直ぐに外傾する。内外面ともハケメ後ヨコナデが施されている。２は推定口径は9.4cm，高さは2.8cmである。口縁は外反してから内湾する。口縁内外面はハケメ後ヨコナデ，体部外面はナデ，内面はハケメが施されている。３は壺の口縁部である。推定口径は18.0cm，高さは2.4cmである。複合口縁の口唇部と口縁部に０段の撚糸で施文し，口縁下端に刻目を施している。また，内面には赤彩が施されている。４は平底の甕で胴部下半を欠く。推定口径は10.9cm，高さは4.5cmである。口縁は外反し，口縁内外面はヨコナデ，体部内外面はナデが施されている。５は紡錘形の土玉で，長さは44mm，外径は35mm，孔径は6mm，重量は48.0ｇである。

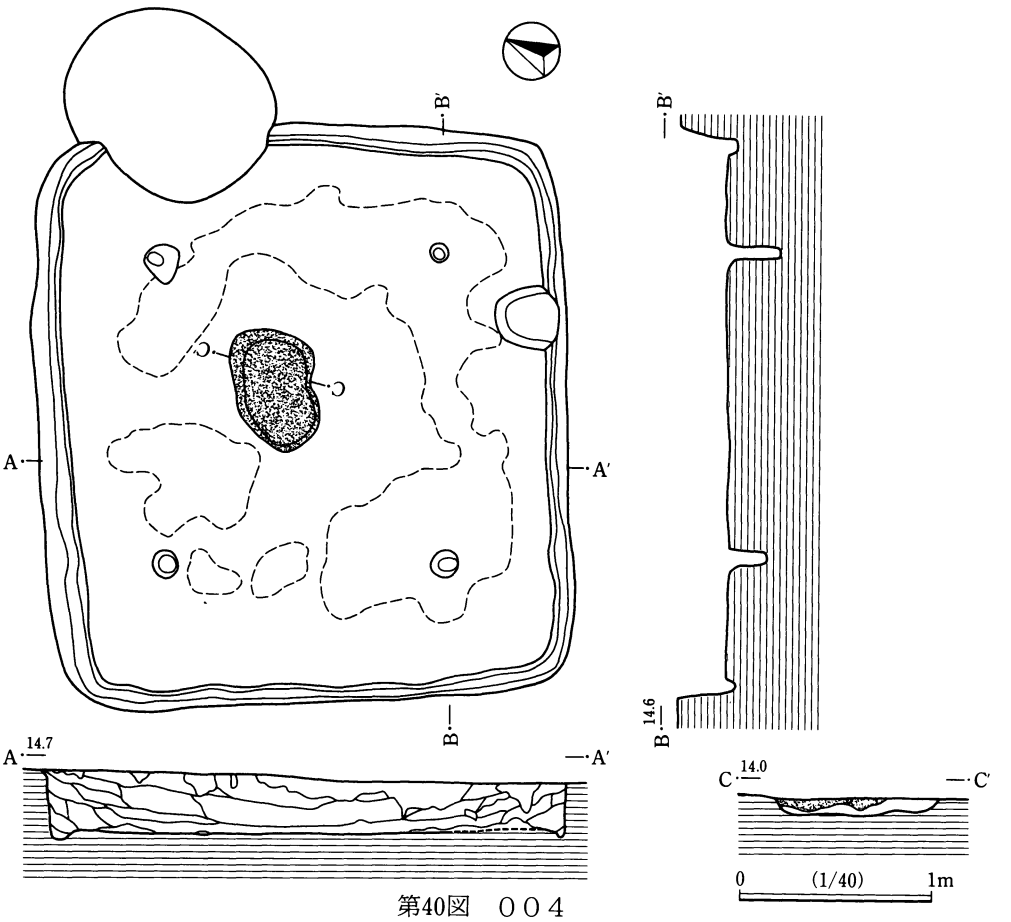
００４（遺構：第40・41・42図，図版４　遺物：第43・44図，図版20・21・22）

遺　構

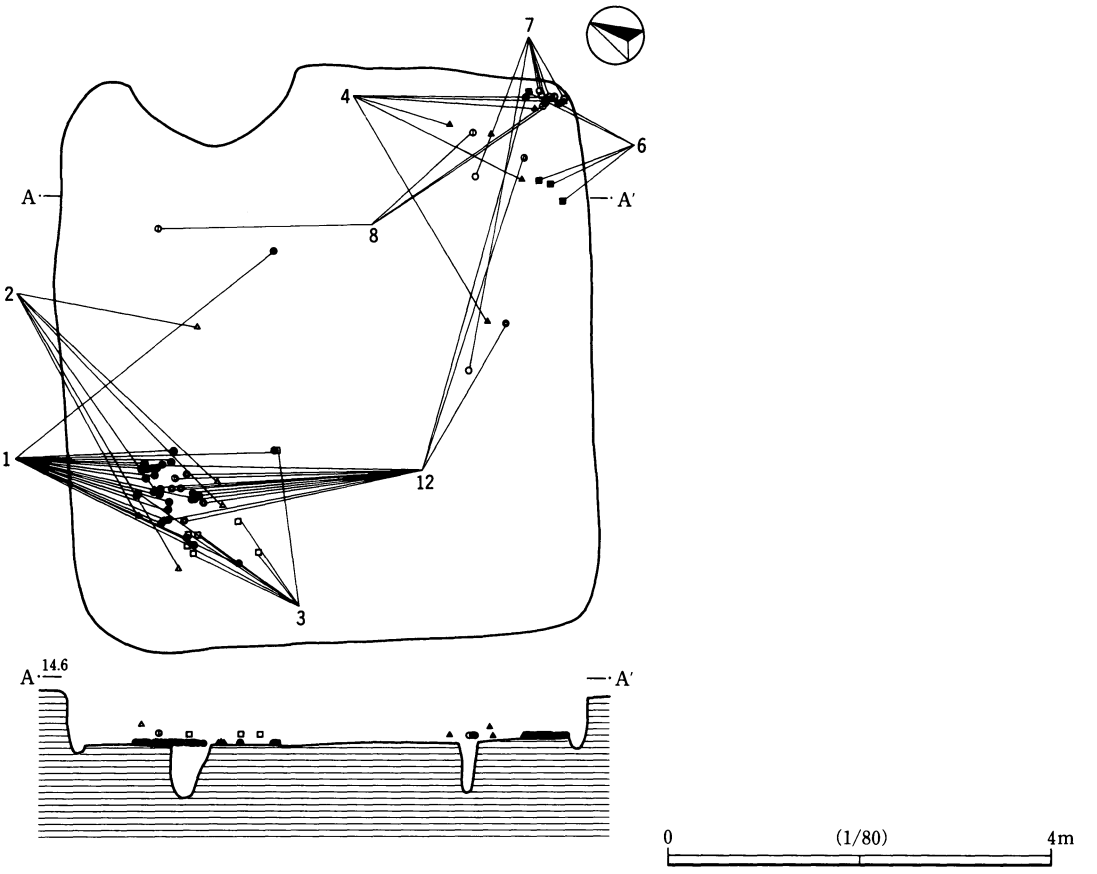
本遺構はD3-07グリッドを中心とした範囲に検出され，長軸は6.0m，短軸は5.6ｍのやや長方形の住居跡である。北東の一角は００８遺構や０１０遺構と重複している。主軸の方位はＮ－27°－Ｗである。壁高は50～60cmで壁溝は全周する。炉は中央やや北西側に構築されている。柱穴は４本検出され，深さは40～60cmである。南東側壁際に貯蔵穴がある。床面は硬化面が明確で炉と壁との間を環状に巡る。覆土からは焼土や炭化材が多量に検出された。遺物も多い。

出土遺物

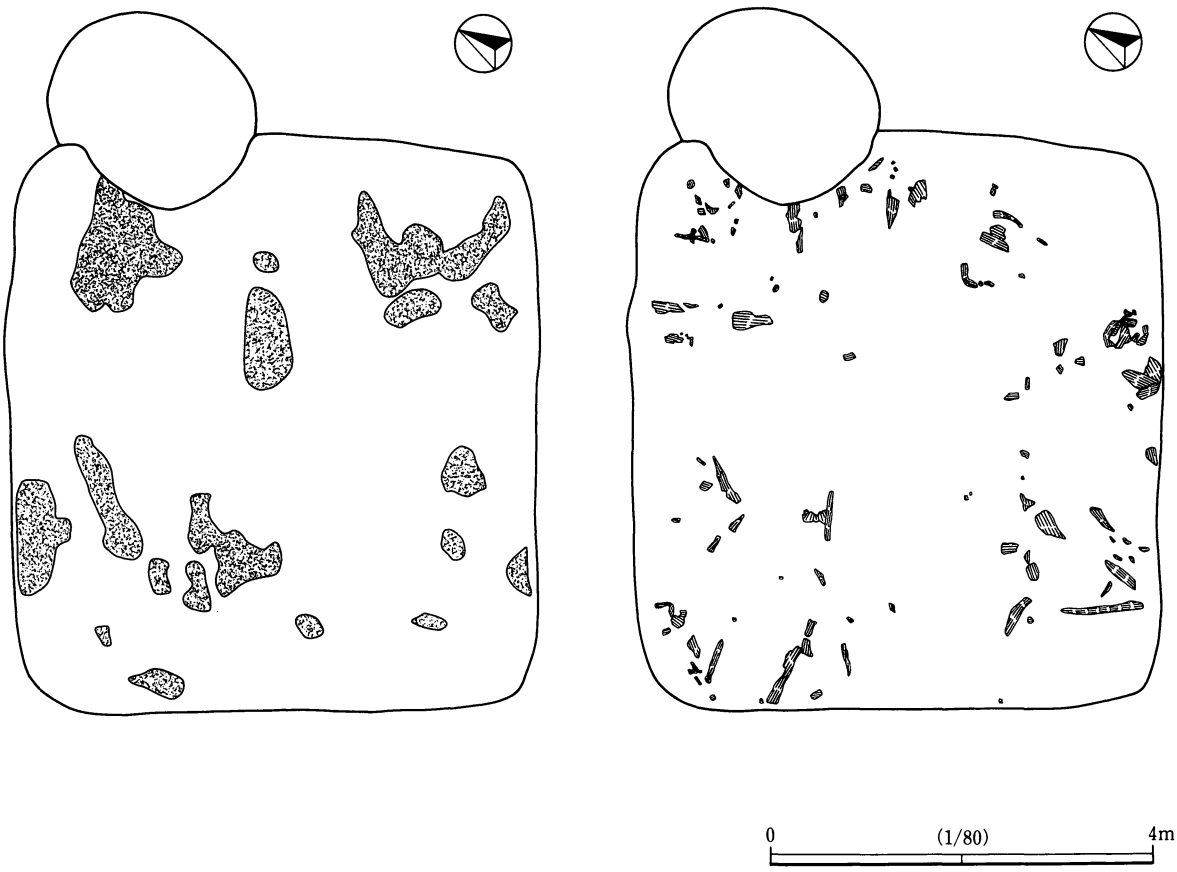
遺物は，壺，台付甕，平底甕，鉢，高坏，甑，土玉，台石等である。44図の７は素口縁の壺で体部下半を欠く。口径は9.4cm，高さは6.9cmである。口縁はゆるく外反後に内湾する。外面はハケメ後ナデ，内面はナデが施されている。１～５は台付甕である。１は胴部下半を欠く。口径は16.9cm，高さは12.0cmであ



第40図　００４

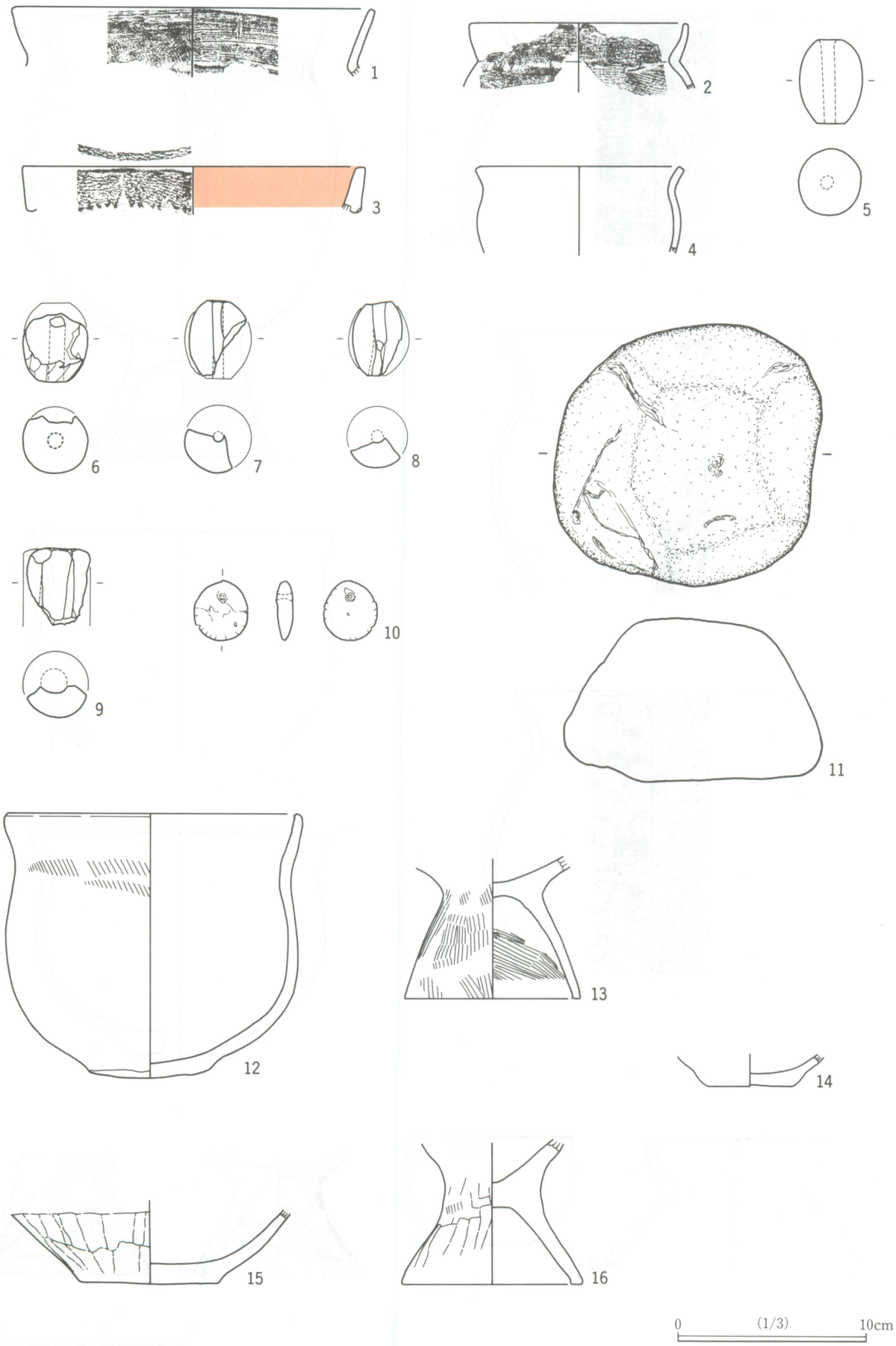


第41図　００４遺物分布図

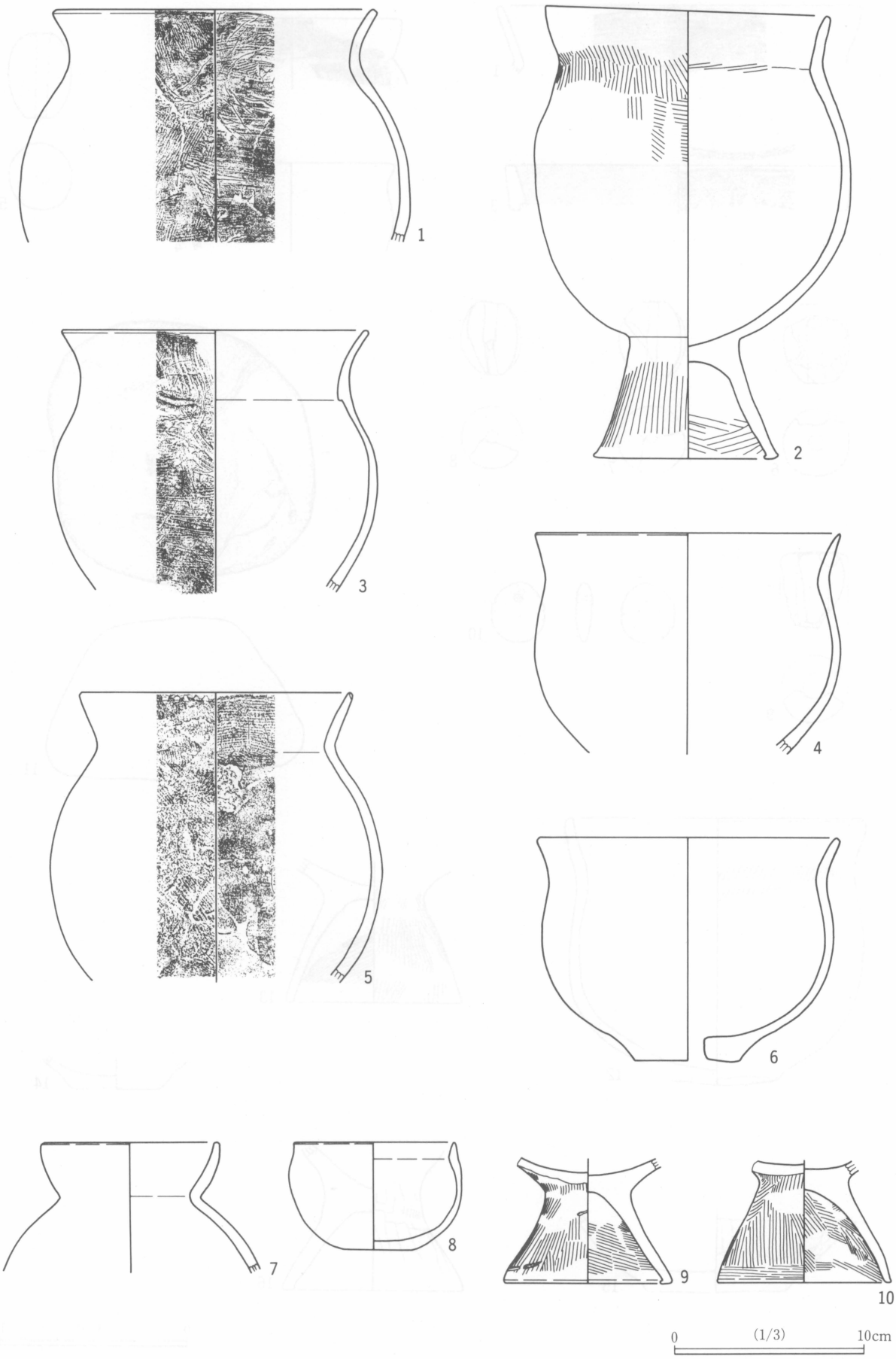


第42図　００４焼土及び炭化物分布図

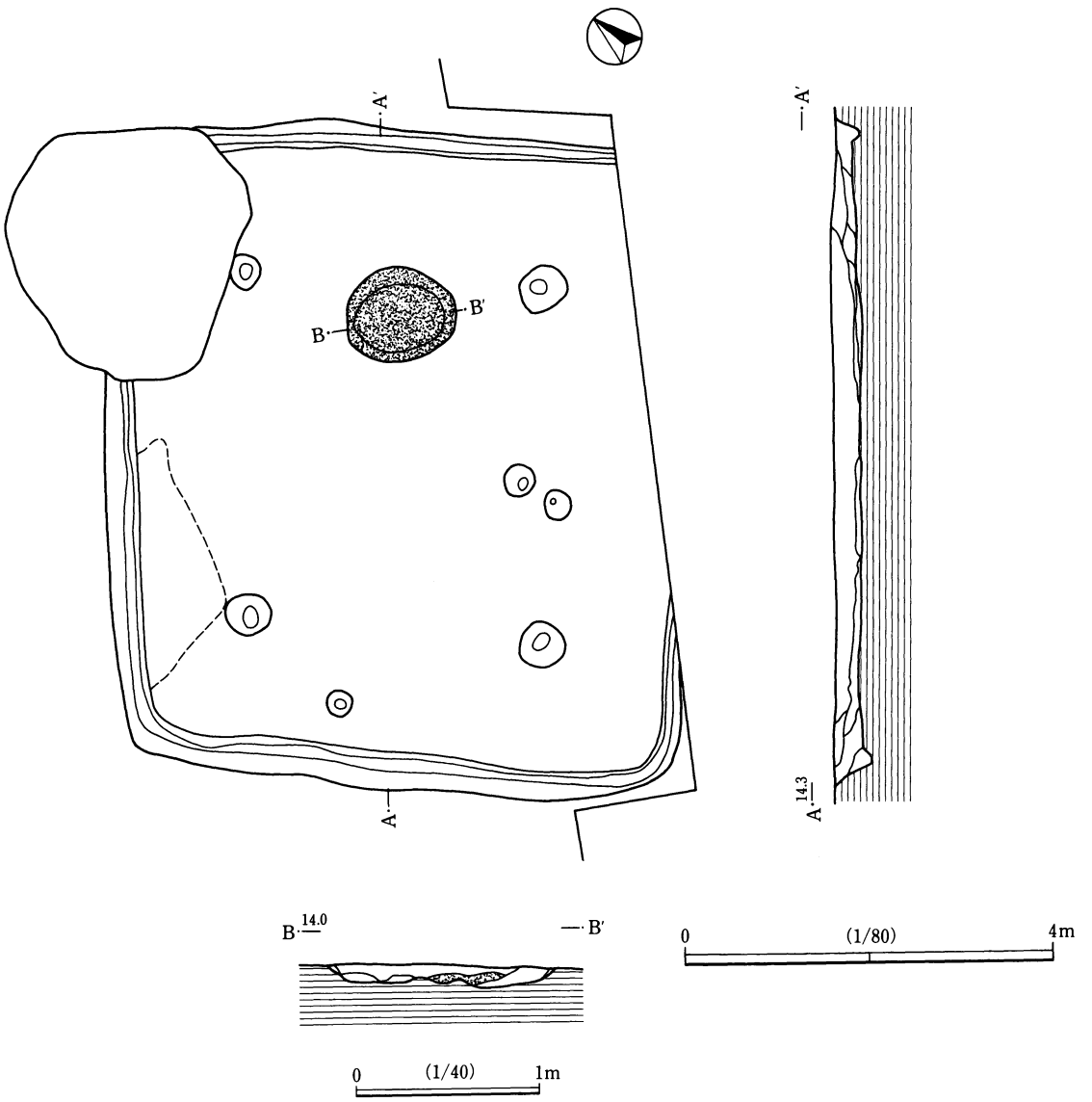
る。口縁はゆるく外反する。外面ハケメ，内面ハケメ後ヨコナデ，体部は外面ハケメ，内面ハケメ後ナデが施されている。２はほぼ完形。口径は14.8cm，高さは23.3cmである。口縁は弱く外反する。口縁は内外面ハケメ後ヨコナデ，体部は内外面ハケメ後ナデ，脚台部は内外面ハケメが施されている。３は脚台部を欠く。推定口径は16.0cm，高さは13.7cmである。口縁はゆるく外反し，頸部内面に段をもつ。口縁は外面ナデ，内面ヨコナデ，体部は外面ハケメ，内面ナデが施されている。４は脚台部を欠く。推定口径は15.8cm，高さは11.4cmである。口縁はゆるく外反し，口唇部は尖る。口縁，体部とも内外面ナデが施されている。５は脚台部を欠く。推定口径は14.2cm，高さは14.9cmである。口縁はゆるく外反し，口唇部に刻目を施している。口縁部は外面ヨコナデ，内面ハケメ，体部は外面ハケメ，内面ナデが施されている。第43図の12はほぼ完形の平底の甕である。口径は15.6cm，高さは13.8cmである。口縁は弱く外反後に少し内湾する。口縁は外面ハケメ後ヨコナデ，内面ヨコナデ，体部は外面ハケメ後ナデが施されている。第44図の８は鉢でほぼ完形である。推定口径は8.5cm，高さは6.7cmである。口縁は少し内湾する。外面はハケメ後ナデ，内面はナデが施されている。９と10は台付甕の脚台部である。９は外反する。底径は8.7cm，高さは6.6cmである。内外面ハケメ，末端はハケメ後ヨコナデが施されている。10は内湾する。底径は9.0cm，高さは6.4cmである。内外面ハケメ，末端はハケメ後ヨコナデが施されている。６は甑で推定口径は15.7cm，高さは11.6cm，底部の孔径は2.0cmである。口縁はゆるく外反する。内外面ナデが施されている。底部の穿孔は焼成後に行われている。第43図の６～８は紡錘形の土玉である。６は推定長は41mm，外径は35mm，孔径は8mm，重量は35.3ｇである。外面ヘラケズリ，孔口付近はハケメを施している。穿孔は一方向から行われている。７は推定長は40mm，推定径は35mm，孔径は5mm，重量は20.4ｇ。孔口付近はハケメを施して



第43図　古墳時代出土遺物（1）



第44図　古墳時代出土遺物（２）



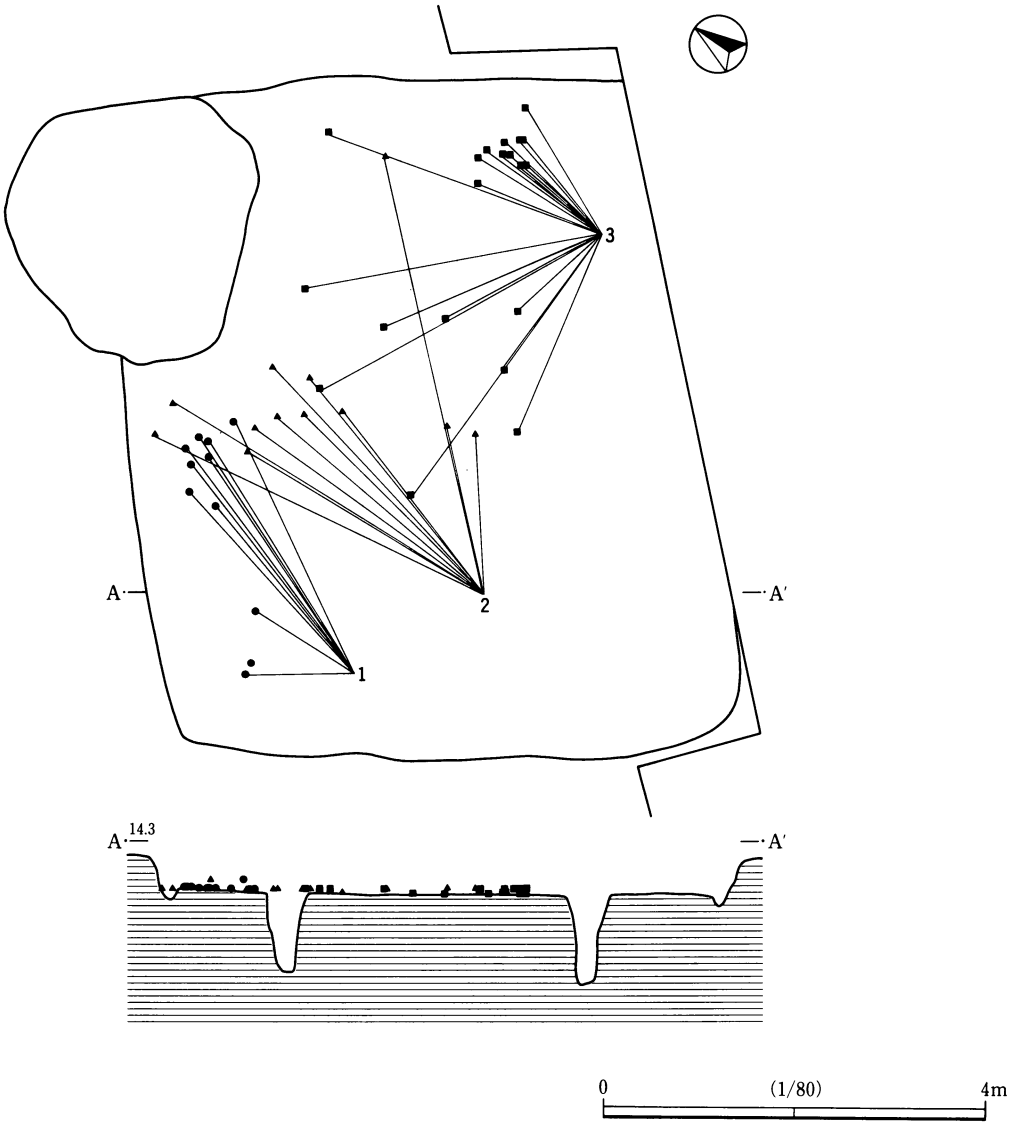
第45図　００６

いる。穿孔は一方向から行われている。８は長さは38㎜，推定径は32㎜，孔径は7㎜，重量は12.8ｇである。孔口付近はハケメを施している。両端からの穿孔が行われ，中央部の交差部に掘り残された土の固まりがある。９は管状を呈し，６～８とは形状を異にする土玉である。現存長は40㎜，推定径は35㎜，推定孔は14㎜，重量は18.9ｇである。10は土製の垂飾品である。上部に１孔が両面から穿たれている。また縁辺にはヒビ割れがみられるほか，一部には手捏ねのためか指紋の痕跡がみられる。長径は31㎜，短径は28㎜，厚さは９㎜，孔径は２～４㎜，重量は6.9ｇである。11は表裏両面に平坦な面をもつ台石と思われるもので，片面の一部に敲打痕らしきものがあるほかは明確な作業痕は見当たらない。石英斑岩を用いて長さは13.6㎝，幅は13.5㎝，厚さは8.4㎝，重量は2401ｇである。

００６（遺構：第45・46図，図版５　遺物：第47図，図版20・22）

遺　構

本遺構は調査区東端のE2-93グリッドを中心とした範囲に検出された住居跡である。調査区の境界に当たるため南東側の一部は未掘で，北東の一角は００７遺構と重複している。長軸は7.2ｍ，短軸は6.3ｍの長方形である。主軸の方位はＮ－51°－Ｅである。壁高は25～30㎝で壁溝は一部未確認であるが全周する

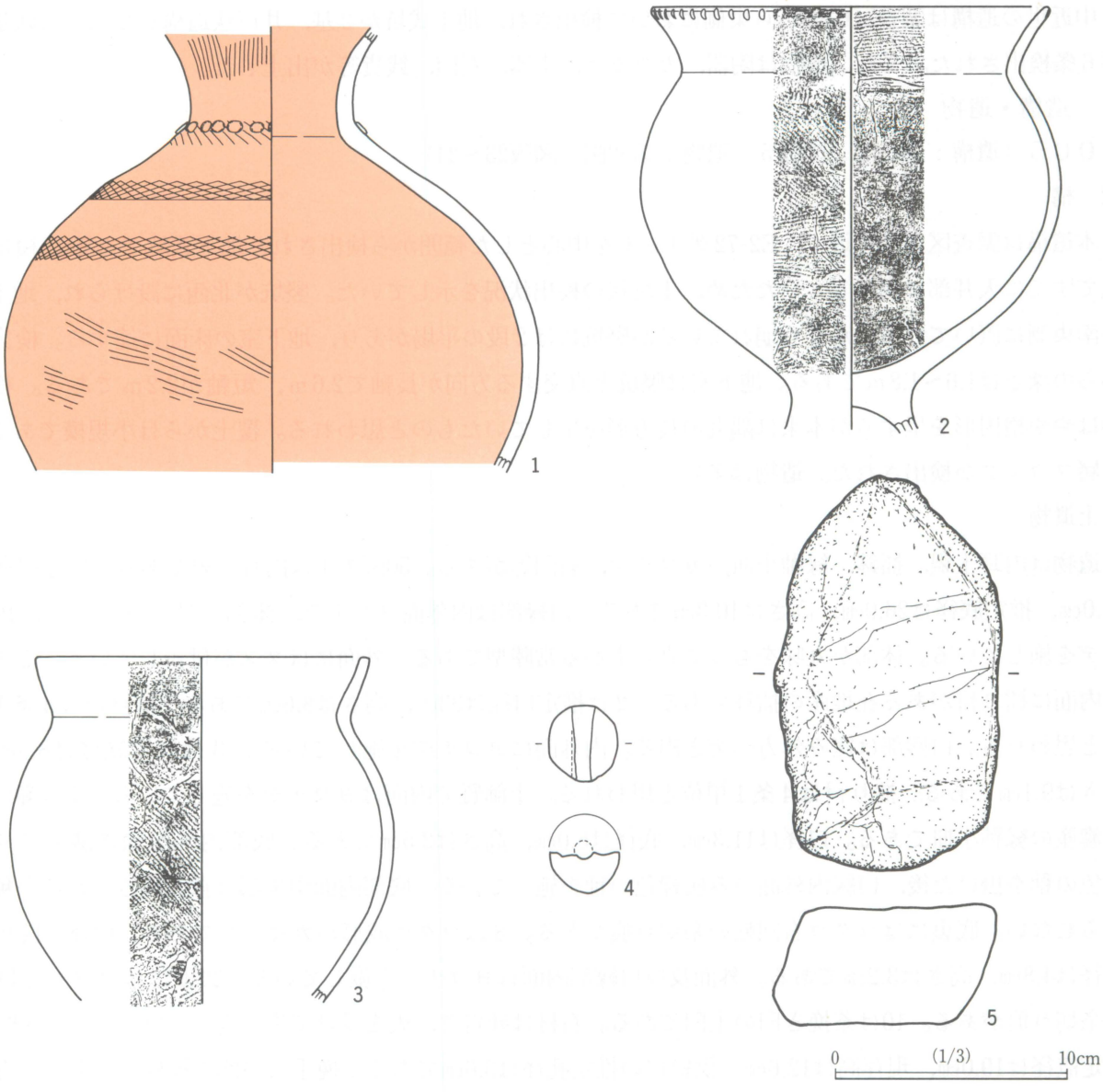


第46図　００６遺物分布図

と思われる。炉は北東側の壁寄りに構築されている。主柱穴は４本で80～100cmと深い。このほかにピットが３本ある。床面の硬化面は北西側の壁寄りに確認されたのみである。遺物やや少ない。

遺　物

遺物は壺，台付甕，土玉，台石等である。47図の１は壺で口縁と底部を欠く。口縁は複合口縁になると思われる。胴部最大径は下半部にあって22.6cm，高さは19.0cmである。内外面赤彩。口縁は強く外反して複合口縁に繋がるなると思われる。頸部外面は上部にハケメが残り，下部に縄文押捺後円形浮文を貼り付けている。体部は上部に網目状撚糸文を２段巡らし，下部にハケメが疎らに残っている。２は台付甕で脚台部の下半部を欠く。推定口径は16.9cm，高さは18.2cmである。口縁はくの字に外反し，口端に刻目を施している。口縁は外面ハケメ後ヨコナデ，内面ハケメ，体部は外面ハケメ，内面ナデ，脚台部は内外面ハケメを施している。３は脚台部を欠く台付甕で，口径は14.2cm，高さは14.6cmである。口縁は外反後に弱く内湾する。口縁は内外面ヨコナデ，体部は外面ハケメ，内面ナデを施している。４はほぼ球径の土玉で，長径は33mm，短径は30mm，孔径は8mmである。穿孔は一方向から行われている。５は台石と思われるが作



第47図　古墳時代出土遺物（3）

業痕等は明確ではない。チャートを用いており，長さは16.7㎝，幅は9.7㎝，厚さは5.1㎝，重量は1309ｇである。

その他の遺構出土遺物

古墳時代の遺物は中近世の遺構の覆土からも少量ながら検出されている。43図の13・16は台付甕の脚台部である。15は底径は7.5㎝，高さは7.4㎝である。内湾する。内外面ハケメ，内面末端はハケメ後ヨコナデが施されている。16は口径は7.7㎝，高さは7.6㎝である。やや外反する。外面はハケメ後ヘラケズリ，内面はナデ，内外面末端はヨコナデが施されている。14は小型の甕の底部破片である。底径は4.4㎝，高さは1.6㎝である。底裏中央は上げ底を呈する。内外面ナデ，底面ハケメが施されている。15は甕の底部破片である。底径は7.2㎝，高さは3.9㎝である。外面ヘラケズリ，内面ナデが施されている。

第４節　中近世

中近世の遺構は調査区中央から東側において検出され，地下式坑が２基，井戸状遺構が２基，溝状遺構が６条検出された。また，遺物は陶器，カワラケ，土器，石臼，銭貨等が出土した。

１　遺構・遺物

００５（遺構：第48図　図版５　遺物：第52図　図版23～24）

遺　構

本遺構は調査区東端に近く，E2-72グリッドを中心とした範囲から検出された地下式坑である。検出時点ですでに天井部は崩落していたため，土坑状の検出状況を示していた。竪坑が北西に設けられ，地下室を南東側に置いている。かなり崩れているが竪坑には２段の平場があり，地下室の床面に達する。検出面からの深さは1.6～1.8ｍである。地下室は竪坑と直交する方向が長軸で2.6ｍ，短軸が2.2ｍである。検出時はやや楕円形を呈するが本来は隅丸の長方形を呈していたものと思われる。覆土からは小規模であるが貝層ブロックが検出された。遺物は多い。

出土遺物

遺物は内耳土鍋，擂鉢，縁釉小皿，カワラケ，石臼等がある。50図の１は内耳土鍋である。推定口径は37.0㎝，推定底径は26.0㎝，高さは10.3㎝である。口縁部は内外面ヨコナデ，体部は外面ヨコナデ，内面ナデを施している。体部が丸味をもって立ち上がる常陸型である。外面にはススが付着している。２と３は内面に擂り目がある在地産の擂鉢である。２は推定口径は33㎝，高さは8.6㎝である。擂り目は４条１単位と思われる。口唇部は窪み外方へ突き出る。内外面にヨコナデを施している。３は推定底径は8.0㎝，高さは9.1㎝である。擂り目は４条１単位と思われる。土師質で内面はヨコナデを施している。７は瀬戸・美濃産の縁釉小皿である。口径は11.3㎝，底径は5.0㎝，高さは2.5㎝である。底部内外を除き薄くクリーム色の釉を掛けた後，口縁内外面のみ灰緑色の釉を施している。底部内面中央部は重ね焼きのためか釉がみられない。底裏にはロクロ右回転の糸切り痕がある。８はロクロ成形のカワラケである。口径は11.0㎝，底径は4.8㎝，高さは3.2㎝である。外面及び口縁部内面はヨコナデを施している。底裏にはロクロ左回転の糸切り痕がある。10は茶挽き臼の上臼である。石材は砂岩で，火を受けて黒くなっているところがある。推定直径は19.0㎝，現存高は12.6㎝，供給口の推定孔径は3.6㎝である。挽手穴の飾り模様は二重の正方形で，外側は約7.5㎝，内側は約5.5㎝，孔径は約3.0㎝である。臼の目は８分画で溝は７本であり，溝は周縁まで達している。遺存度は約１/３で，重量は2030ｇである。11は寛永通寶である。外径は24.38㎜×24.38㎜，表面内径は19.60㎜×19.49㎜，背面内径は17.20㎜×17.20㎜，穿径は5.59㎜×5.78㎜，厚さは1.35㎜×1.42㎜，重量は3.1ｇである。古寛永である。

００７（遺構：第49図，図版６・25）

遺　構

本遺構は調査区東端のE2-83グリッドを中心とした範囲から００６遺構と重複して検出された地下式坑である。００５同様検出時点ですでに天井部は崩落していたため，土坑状の検出状況を示していた。竪坑が南西に設けられ，地下室を北東側に置いている。００５に比べて竪坑の張り出しは短く，竪坑にある平場は１段で地下室の床面に達する。検出面からの深さは1.5～1.8ｍである。地下室は竪坑と直交する方向が長軸で2.4ｍ，短軸が1.7ｍである。検出時はやや楕円形を呈するが本来は隅丸の長方形を呈していたものと思われる。覆土からは００５同様小規模であるが貝層ブロックが検出された。遺物の出土はない。

００８（遺構：第49図，図版６　遺物：第52図，図版23）

遺　構

本遺構は調査区東端近くのD2-98グリッドを中心とした範囲から検出された井戸状遺構である。００４遺構や０１０遺構と重複している。確認面での規模は2.2×1.8ｍであるが，途中からは径が0.8ｍほどになる。深さは3.0ｍ以上あり，安全面から完掘できなかった。出土遺物は僅少である。

出土遺物

52図の４の００４遺構出土擂鉢と接合した擂鉢がある。擂り目のある在地産で，擂り目は８条１単位と思われる。推定底径11.0㎝，高さは4.7㎝，底部にススが付着している。

００９（遺構：第49図）

遺　構

本遺構は調査区中央部のC2-15グリッドを中心とした範囲から検出された井戸状遺構である。確認面での規模は径1.7ｍほどであるが，途中から径1.0ｍほどになる。また開口部では南東側に1.8×1.2ｍの張り出し部分がある。深さは3.0ｍ以上あり，００８同様安全面から完掘できなかった。遺物の出土はない。

００１（遺構：第50図　遺物：第52図，図版24）

遺　構

本遺構は調査区中央のC2-36グリッドからD2-91グリッドまで北西から南東に方向をとる。上幅は北西方向で約160～180㎝，南東方向で約60～70㎝と差がある。底面幅は北西方向で約100～120㎝，南東方向で約50㎝である。深さは約30㎝で断面の形状は皿状を呈する。覆土は黒色土層～黒褐色土層を主体とする。

出土遺物

第52図の９の管状の土錘が出土している。長さは44㎜，外径は17㎜，孔径は5㎜，重量は13.3ｇである。

００２（遺構：第50図）

遺　構

本遺構は調査区中央部のC2-75グリッド付近で検出された。上幅は約70～80㎝，底面幅は約30㎝，深さは約10㎝である。断面の形状は皿状である。覆土は黒色土層を主体とする。

出土遺物

遺物は縄文土器と土師器が少量出土した。

０１０（遺構：第51図）

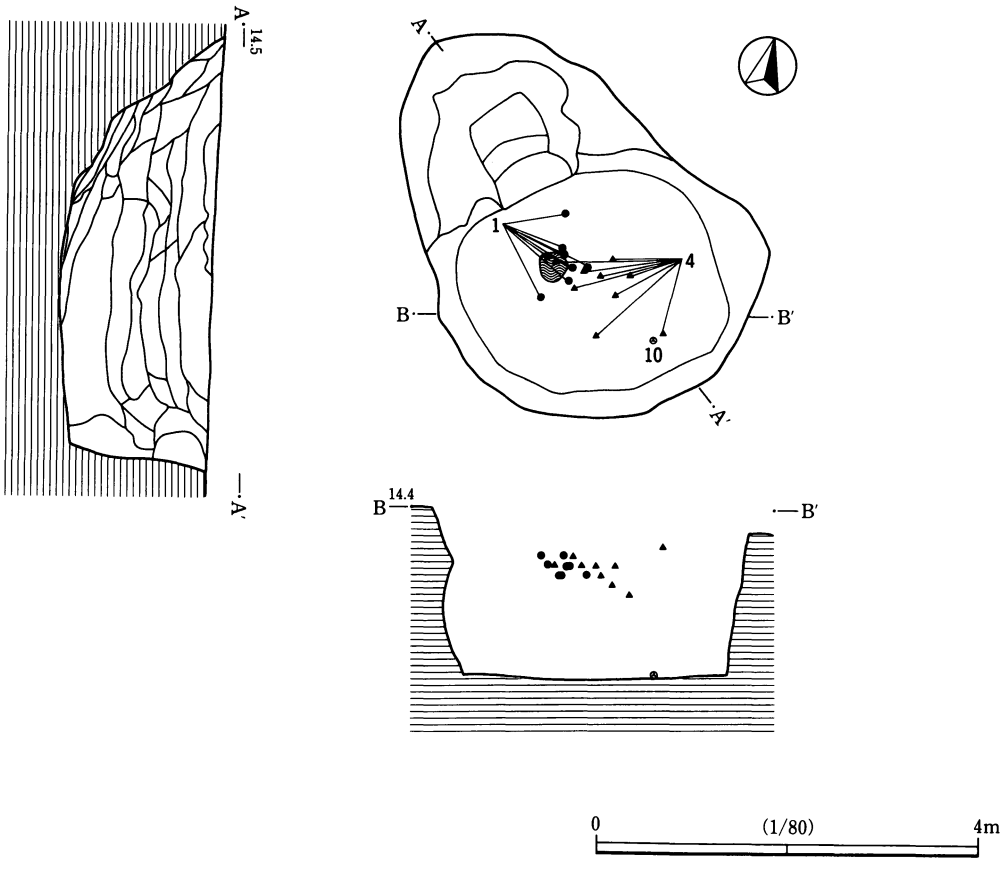
遺　構

本遺構は調査区東側のD2-98グリッドからE2-60グリッドまで南西から北東に方向をとる。００３・００４・００８と重複する。上幅は約80～120㎝，底面幅は約50～80㎝，深さは約10㎝で断面の形状は皿状を呈する。遺物の出土はない。

０１１（遺構：第51図）

遺　構

本遺構は調査区東側のD3-09グリッドからE2-80グリッドまで南西から北東に方向をとる。０１０とほぼ平行して００３と重複する。上幅は約60～100㎝，底面幅は約50～80㎝，深さは約10～15㎝で断面の形状は皿状を呈する。



第48図　００５

出土遺物

遺物は土師器が若干出土した。

０１２（遺構：第51図）

遺　構

本遺構は調査区中央のC2-43グリッドからC2-07グリッドまで南西から北東に方向をとる。０１３とほぼ平行する。上幅は約80～160cm，底面幅は約50～80cm，深さは約15～20cmで断面の形状は皿状を呈する。遺物の出土はない。

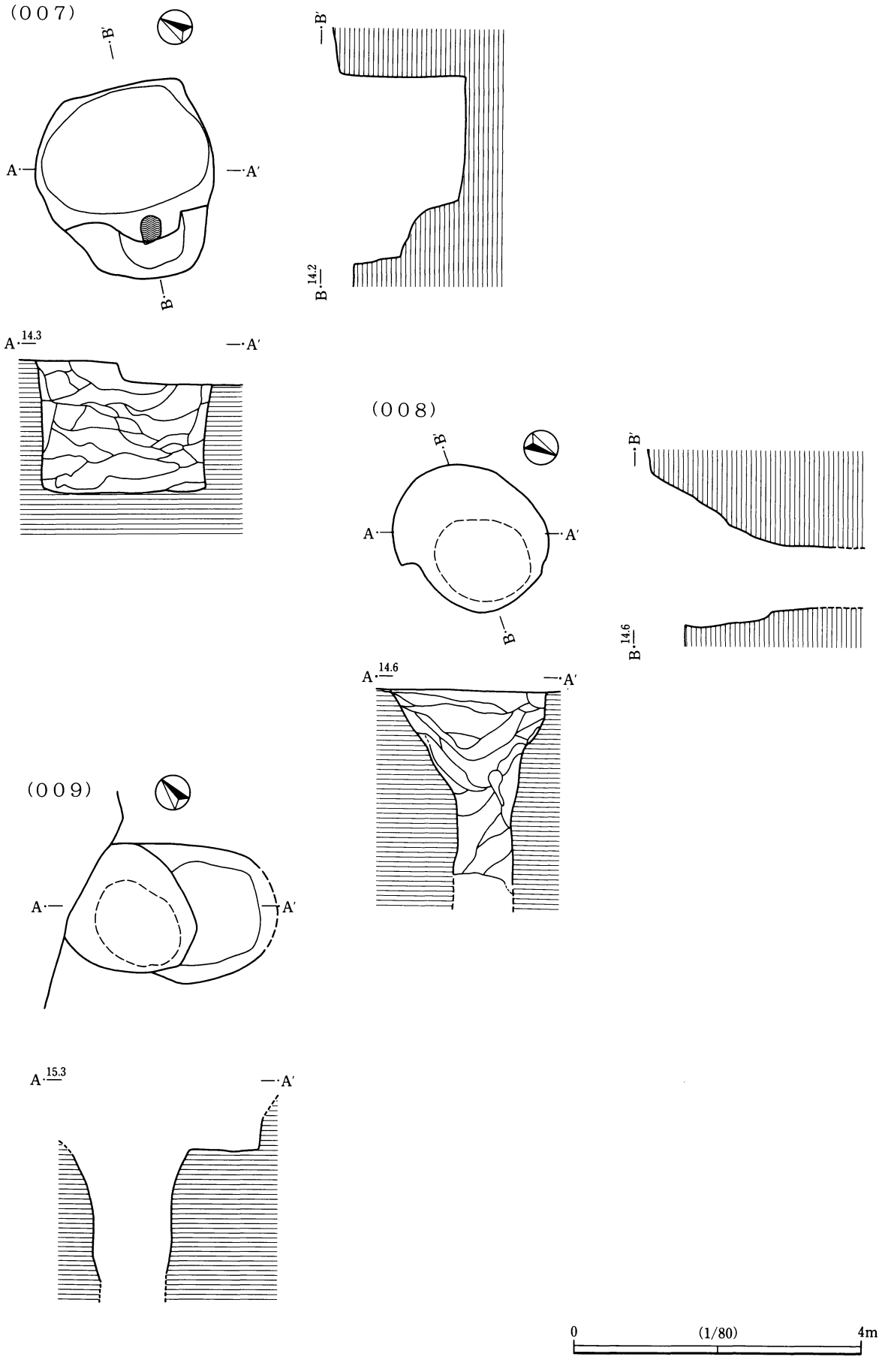
０１３（遺構：第51図）

遺　構

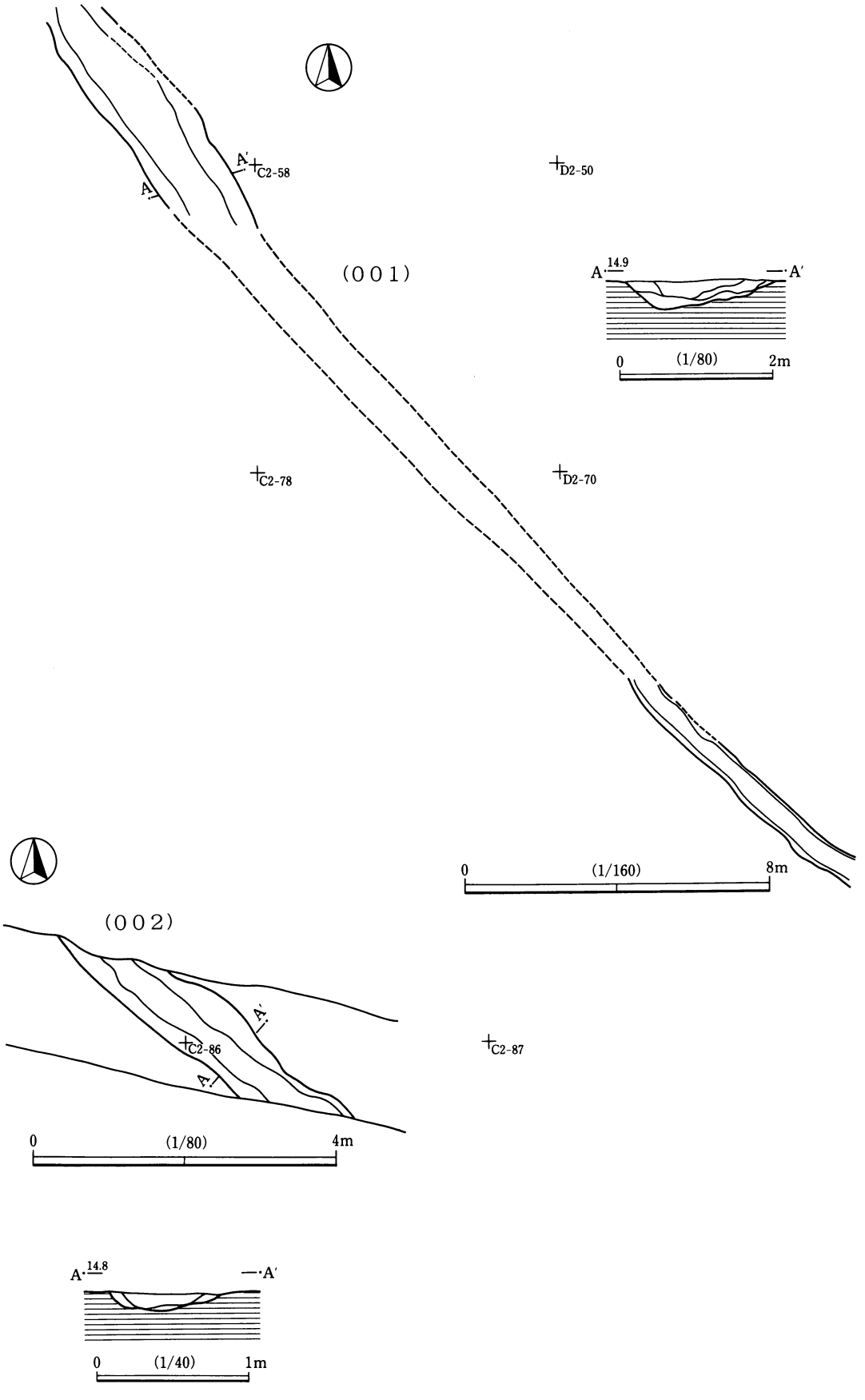
本遺構は調査区中央のC2-63グリッドからC2-45グリッドまで南西から北東に方向をとる。０１２とほぼ平行する。上幅は約70～120cm，底面幅は約50～70cm，深さは約15～20cmで断面の形状は逆台形を呈する。遺物の出土はない。

その他の遺構出土遺物

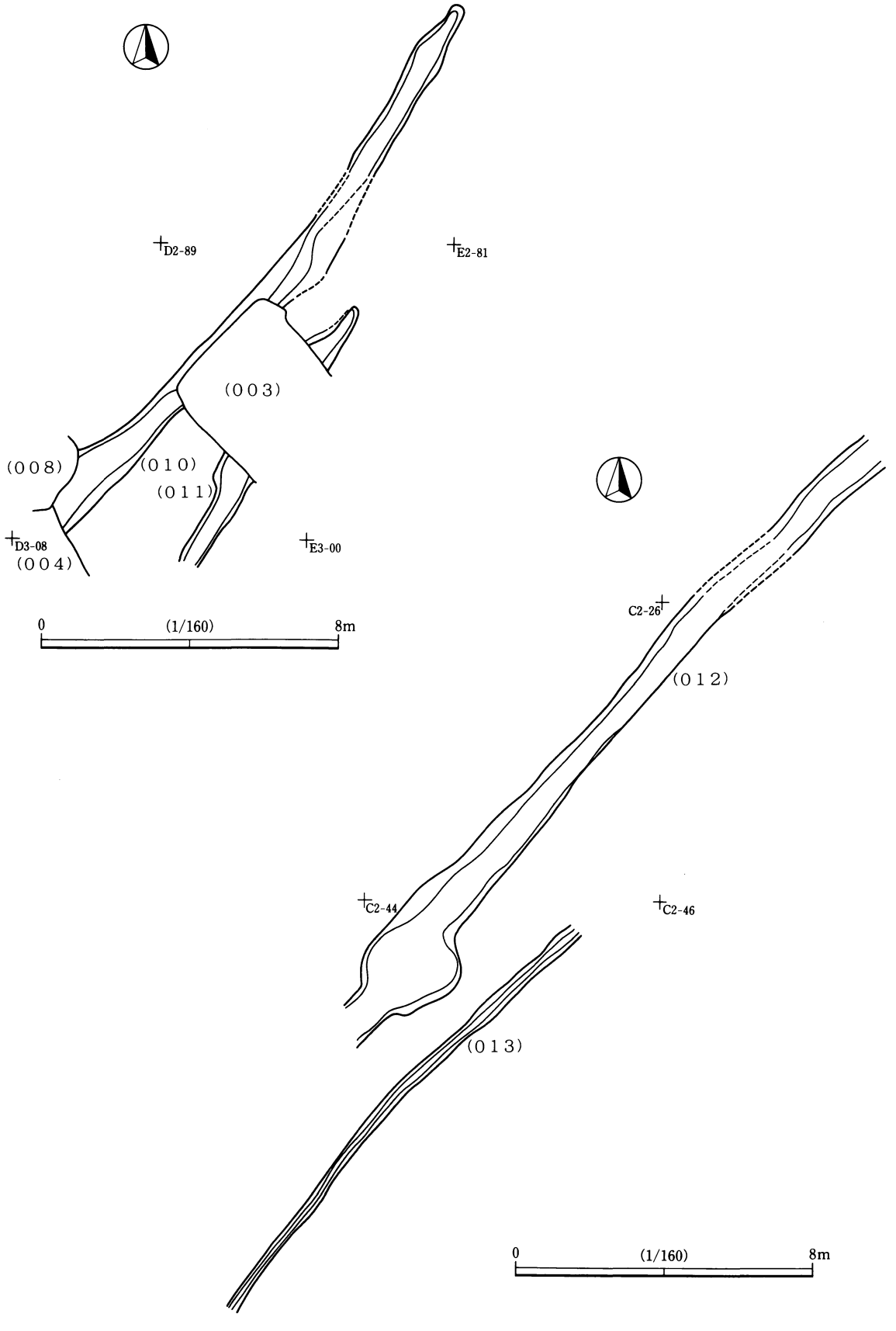
中近世の遺物はこのほか溝状遺構や古墳時代の遺構等から若干出土している。50図の５は００３遺構出土の擂り目のある在地産擂鉢である。擂り目は３条１単位と思われる。推定底径は10.0cm，高さは2.8cmである。底部にススが付着している。６は００４遺構出土の碗である。底径は4.9cm，高さは2.0cmである。削り高台が付き，内面に灰緑色の釉を施している。外面の残存部範囲は無釉である。



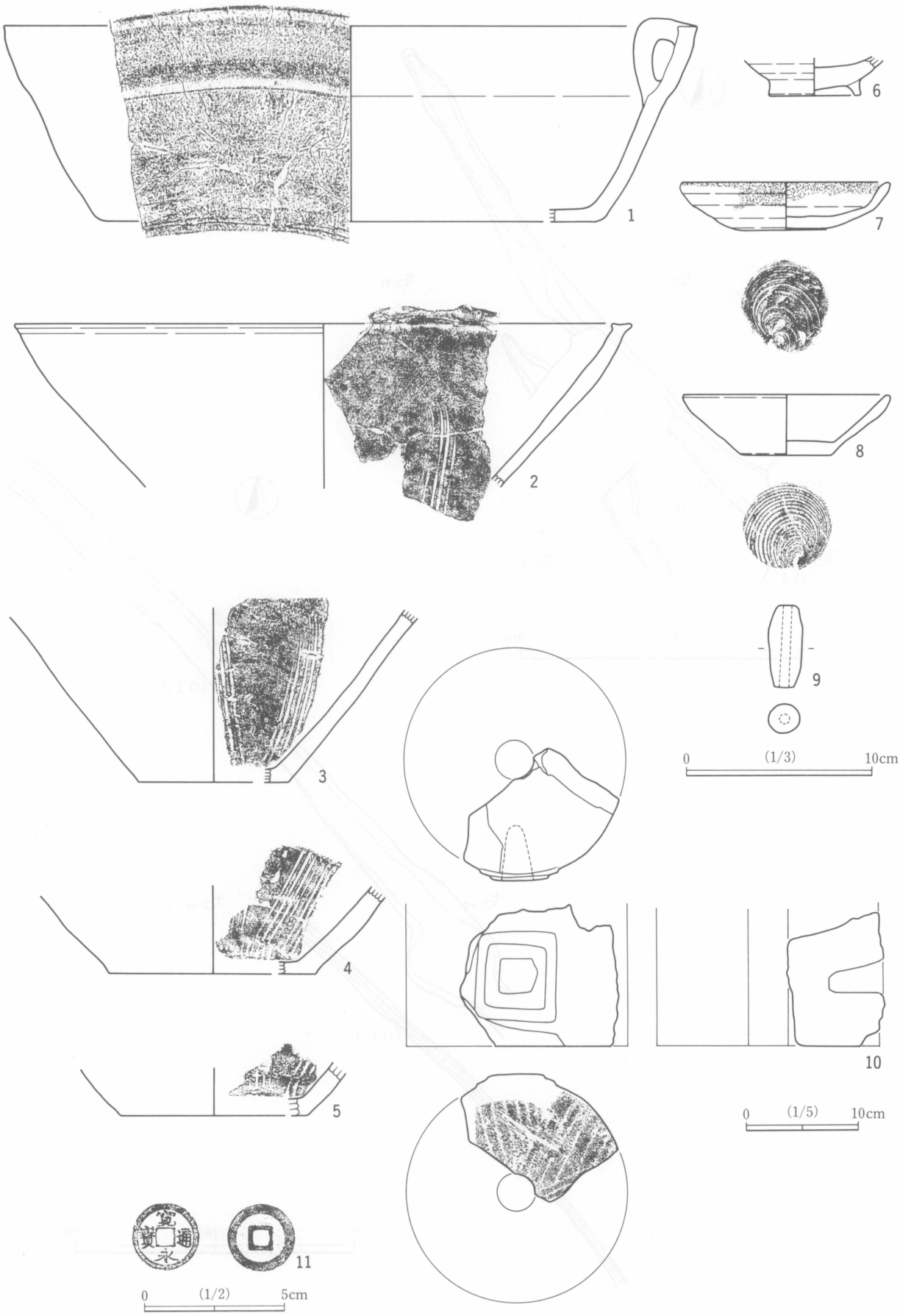
第49図　007・008・009


(001)
A
A'
C2-58
D2-50
C2-78
D2-70
14.9
0
(1/80)
2m
0
(1/160)
8m
(002)
C2-86
C2-87
0
(1/80)
4m
14.8
0
(1/40)
1m

第50図　001・002



第51図　010・011・012・013



第52図　中近世出土遺物

第3章　まとめ

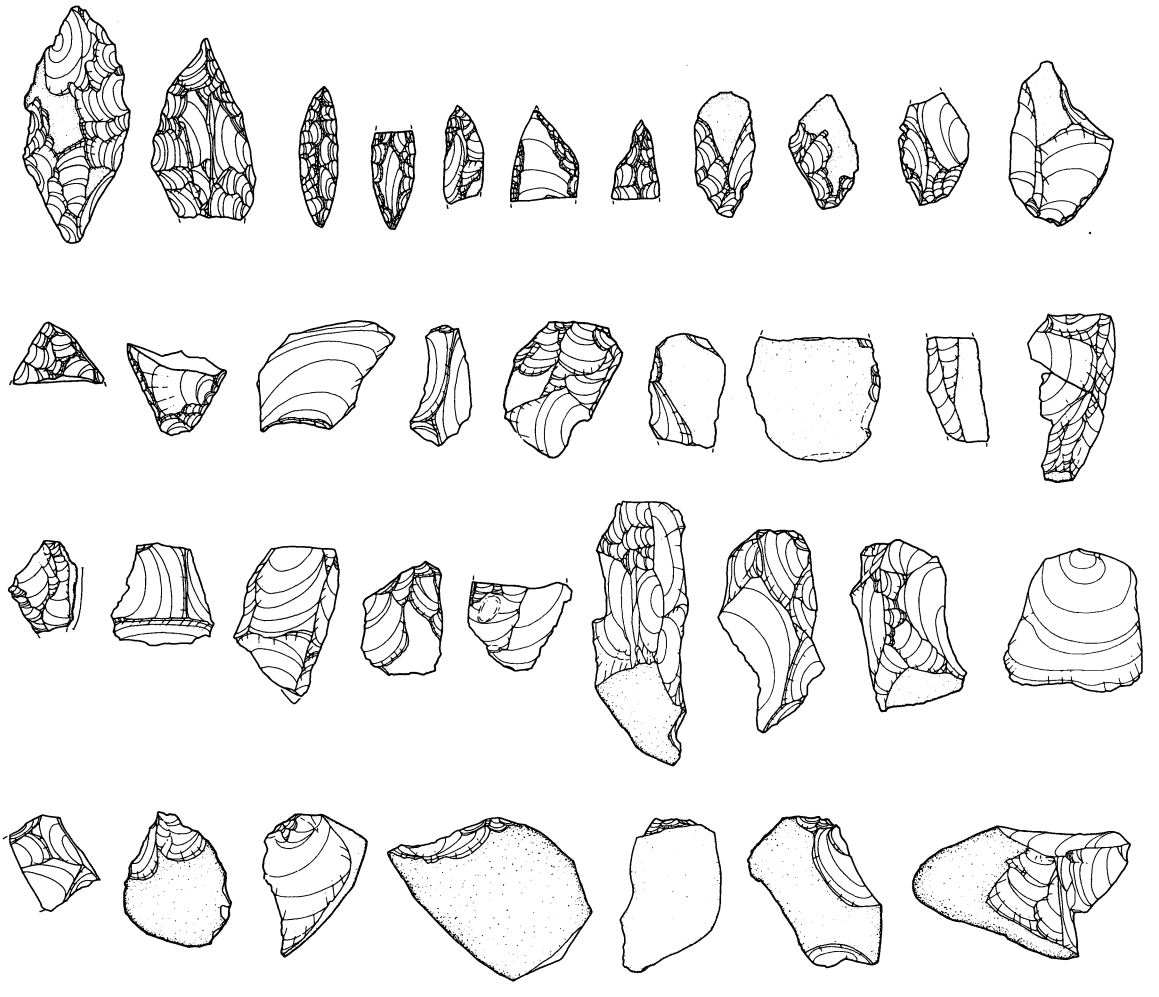
第1節　旧石器時代

既に述べたように本遺跡から検出された旧石器時代の文化層は2枚あり，第1文化層はナイフ形石器群であり，第2文化層は尖頭器石器群と位置づけられる。これら二つの文化層から検出された石器を第53図に集成したが，ここでは各石器群の特徴を述べてまとめとする。

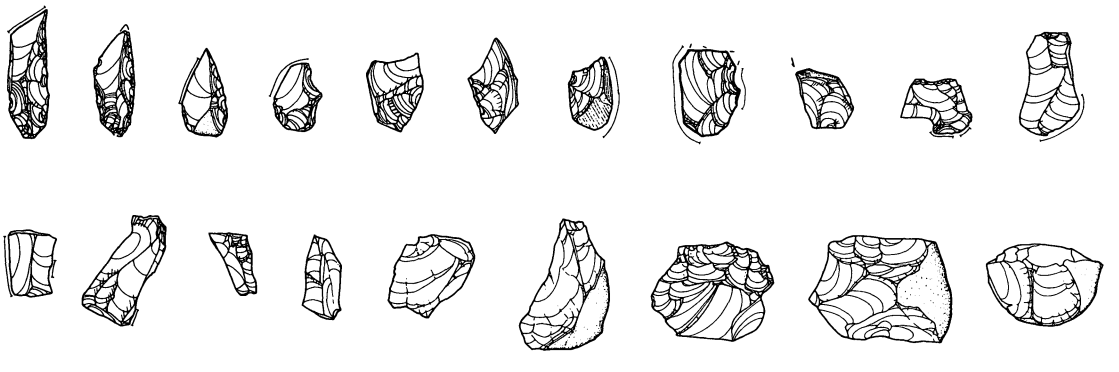
第1文化層の石器群は，立川ローム層のⅣ～Ⅴ層からの検出で，打面転移または石核の周りに打点を移しながら主に幅広の剥片を剥離し，このような剥片を素材として角錐状石器に似た分厚いナイフ形石器を主な石器とする石器群と捉えられる。また，石材は珪質頁岩を主体とし，礫群を伴っている。このような石器群を近隣に当たれば，まず同じ野田市内の岩名第14遺跡から検出された第6ブロックと第8ブロックを上げることができる。(1) 第6ブロックは立川ローム層のⅤ層からの検出で，角錐状石器があり，石材は頁岩が主体で，礫群を伴っている。第8ブロックは立川ローム層のⅣ層下部からの検出で，製品は黒曜石のナイフ形石器が1点あるのみで，主体は礫群である。また，隣接の流山市若葉台遺跡から検出された第5ブロック(2)は，立川ローム層のⅣ層下部～Ⅴ層からの検出で，角錐状石器があり，石材は黒曜石が主体で，やはり礫群を伴っている。これらの特徴をもつ石器群の編年的な位置は，田村・橋本編年(3)では下総Ⅱｂ期，諏訪間編年(4)では相模野段階Ⅴと考えられる。

第2文化層の石器群は，立川ローム層のⅢ層上部からの検出で，石材は安山岩を主体とし，大きさや形状等が異なる各種の尖頭器を主な石器とする石器群と考えられる。このような石器群として，近くでは野田市内の岩名第14遺跡から検出された第6文化層の一部の石器群を上げることができる。立川ローム層のⅢ層上部～Ⅱ層下部からの検出で，その多くは単独で出土したものである。なお，石材は黒曜石と頁岩が主体である。また，隣接の流山市の桐ヶ谷新田遺跡から検出された尖頭器石器群(5)は，立川ローム層のⅡ層下部からの検出であるが，Ⅲ層以下が調査されていないので明確な層位は捉えられない。石材は全て黒曜石である。打面を除去した二側縁加工のナイフ形石器を伴っている。また，素材となる剥片の形状や調整加工の方法等その製作技術において，尖頭器とナイフ形石器の間に大きな隔たりはなく，かえって共有している部分が多く見受けられる。このことから，桐ヶ谷新田遺跡から検出された尖頭器石器群は，尖頭器とナイフ形石器の製作技術が未分化で，尖頭器の種類もまとまっている石器群と捉えられ，本遺跡の尖頭器石器群に先行する石器群と考えられる。さらに，流山市上貝塚貝塚検出の尖頭器石器群(6)は，立川ローム層Ⅲ層からの出土で，礫群を伴い，石材は頁岩・凝灰岩・流紋岩が主体である。尖頭器のほとんどは一方に肩をもつ樋状剥離を有するものであり，ナイフ形石器を伴わない。該期は，この上貝塚貝塚の石器群のようにナイフ形石器を伴わないで尖頭器石器群を主体とする石器群が増加する段階と考えられ，先の桐ヶ谷新田遺跡の尖頭器石器群よりも後出の石器群といえる。これに対して，ナイフ形石器と製作技術の上で分化し，各種の尖頭器をもつ本遺跡検出の尖頭器石器群は，既に尖頭器が卓越した段階の石器群と考えられ，その編年的な位置は，田村・橋本編年では下総Ⅲｂ期，諏訪間編年では相模野段階Ⅷとなる。

第２文化層石器群



第１文化層石器群



第53図　旧石器時代石器群

第2節　古墳時代

本遺跡からは古墳時代前期の住居跡が3軒とそれに伴う古墳時代の遺物が検出された。ここでは出土した土器について概要を述べることにする。

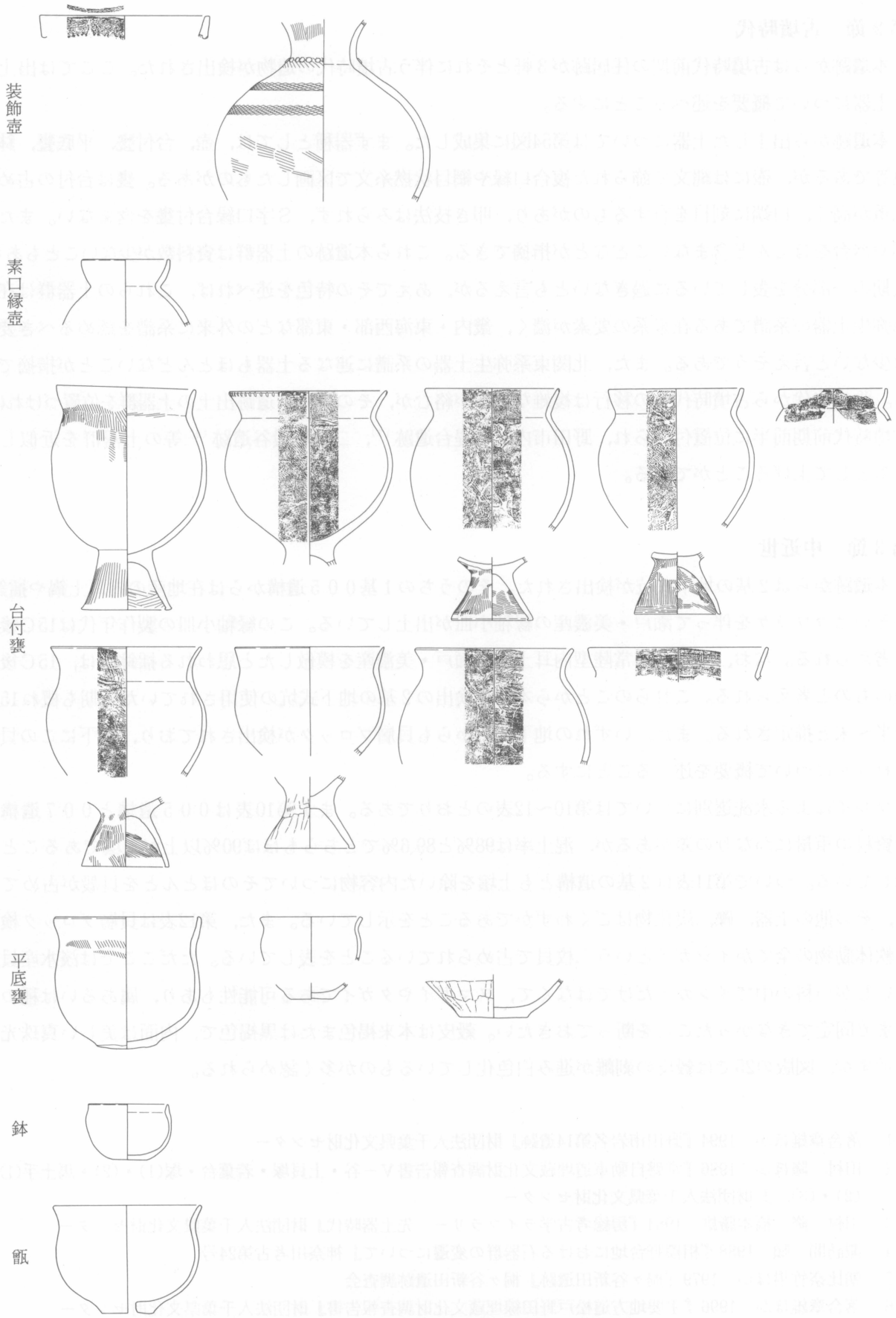
本遺跡から出土した土器については第54図に集成した。まず器種としては，壺，台付甕，平底甕，鉢，甑等であるが，壺には縄文で飾られた複合口縁や網目状撚糸文で区画したものがある。甕は台付の占める比重が高く，口端に刻目を有するものがあり，叩き技法はみられず，S字口縁台付甕を含まない。また高坏や器台をほとんど含まないことなどが指摘できる。これら本遺跡の土器群は資料数が少ないこともあり，該期の一部分を表しているに過ぎないとも言えるが，あえてその特色を述べれば，これらの土器群は在来の弥生土器の系譜である在来系の要素が濃く，畿内・東海西部・東部などの外来に系譜を認めるべき要素は少ないと言えそうである。また，北関東系弥生土器の系譜に連なる土器もほとんどないことが指摘できる。弥生時代から古墳時代への移行は複雑な要素が絡むが，その中で本遺跡出土の土器群を位置づければ，古墳時代前期前半に位置付けられ，野田市内では堤台遺跡[7]，二ツ塚殿谷遺跡[8]等の土器群を近似したものとして上げることができる。

第3節　中近世

本遺跡からは2基の地下式坑が検出された。そのうちの1基005遺構からは在地産の内耳土鍋や擂鉢，あるいはカワラケを伴って瀬戸・美濃産の縁釉小皿が出土している。この縁釉小皿の製作年代は15C後葉と考えられる。なお，在地産の常陸型内耳土鍋や瀬戸・美濃産を模倣したと思われる擂鉢等は，15C後半頃のものと考えられる。これらのことから本遺跡検出の2基の地下式坑の使用されていた時期も概ね15C後半～末と推定される。また，いずれの地下式坑からも貝層ブロックが検出されており，以下にこの貝層ブロックについて概要を述べることにする。

フルイによる水洗選別については第10～12表のとおりである。まず第10表は005遺構と007遺構とで資料の重量にかなりの差があるが，混土率は98%と89.6%でどちらもほぼ90%以上が土壌であることを示している。ついで第11表は2基の遺構とも土壌を除いた内容物についてそのほとんどを貝殻が占めており，その他の土器，礫，炭化物はごくわずかであることを示している。また，第12表は貝層ブロック検出の軟体動物の全てがイシガイという二枚貝で占められていることを表している。ただここでは淡水産貝類のいしがい科の中でイシガイだけではなくて，ヌマガイやタガイである可能性もあり，属あるいは種の段階まで同定できなかったことを断っておきたい。穀皮は本来褐色または黒褐色で，内面は美しい真珠光沢を示すが，図版の25では穀皮の剥離が進み白色化しているものが多く認められる。

注1　落合章雄ほか　1994『野田市岩名第14遺跡』財団法人千葉県文化財センター
2　田村　隆ほか　1986『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書V－谷・上貝塚・若葉台・塚(1)・(2)・馬土手(1)・(2)・(3)－』財団法人千葉県文化財センター
3　田村　隆　橋本勝雄　1984『房総考古学ライブラリー　先土器時代』財団法人千葉県文化財センター
4　諏訪間　順　1988『相模野台地における石器群の変遷について』神奈川考古第24号
5　朝比奈竹男ほか　1979『桐ヶ谷新田遺跡』桐ヶ谷新田遺跡調査会
6　落合章雄ほか　1996『主要地方道松戸野田線埋蔵文化財調査報告書』財団法人千葉県文化財センター
7　伊藤和彦ほか　1988『堤台遺跡』東葛上代文化の研究
8　下津谷達男ほか　1988『二ツ塚殿谷遺跡』東葛上代文化の研究



第54図　古墳時代前期出土土器

第10表　貝層ブロック内容物組成(1)

資料番号	遺構番号	遺構内容	時期	貝層面積（㎡）	総重量（g）	フルイ水洗後残留物重量（g）	土壌重量（g）	混土率（%）
1	005	地下式坑	中世	0.1	1,579.0	31.1	1,547.9	98.0
2	007	地下式坑	中世	0.1	14,899.0	1,555.5	13,343.5	89.6
合			計		16,478.0	1,586.6	14,891.4	90.4

第11表　貝層ブロック内容物組成(2)

資料番号	貝　殻（g）	土　器（g）	礫　（g）	炭化物（g）	合　計（g）
1	30.4	0	0.4	0.3	31.1
2	1,270.0	3.7	0.3	3.7	1,277.7
合　計	1,300.4	3.7	0.7	4.0	1,308.8

第12表　貝層ブロック軟体動物出土量（g）

資料番号	メッシュ（mm）	斧足綱（二枚貝綱）イシガイ
1	9.5	17.2
	4	5.8
	2	4.1
	1	3.3
2	9.5	1,270.0
	4	221.6
	2	32.1
	1	16.3
合計	9.5	1,287.2
	4	227.4
	2	36.2
	1	19.6

軟体動物門　Phylum Mollusca

斧足綱（二枚貝綱）　Class Pelecypoda
　いしがい科　Famili Unionidae

腹足綱　Class Gastropoda
　あくきがい科　Family Muricidae
　　アカニシ　Rapada thomasiana

写　真　図　版

南下ヶ村遺跡と周辺の地形

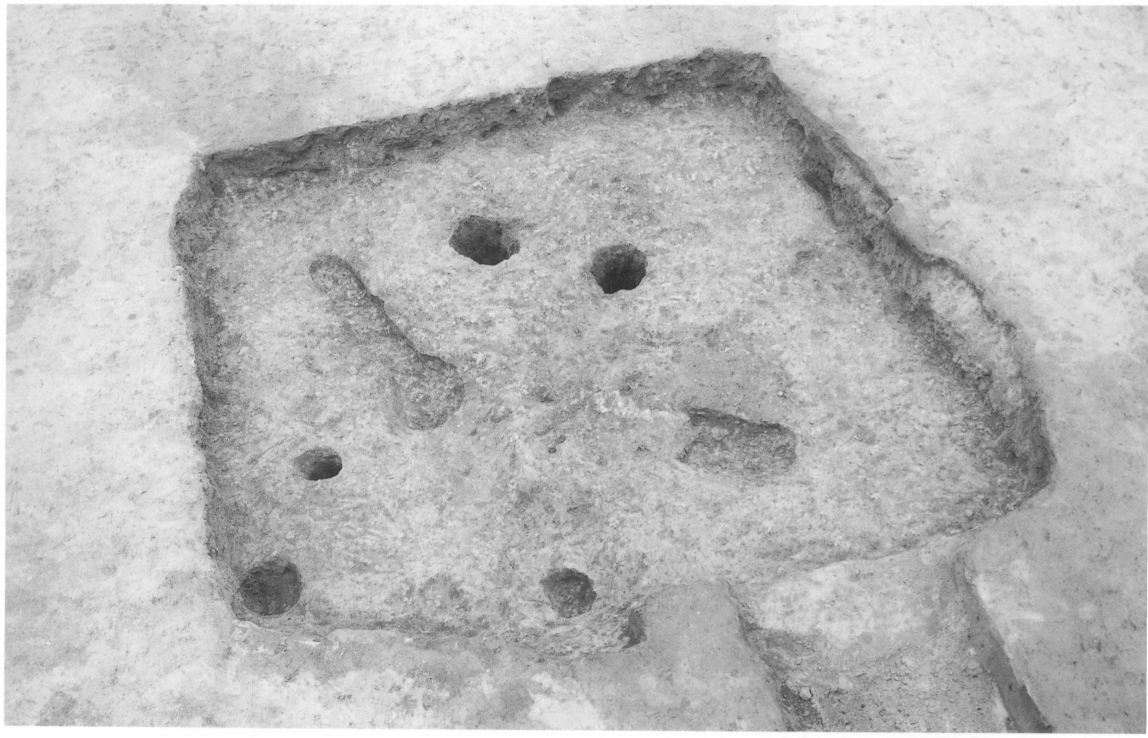
図版 2

調査前遺跡近景

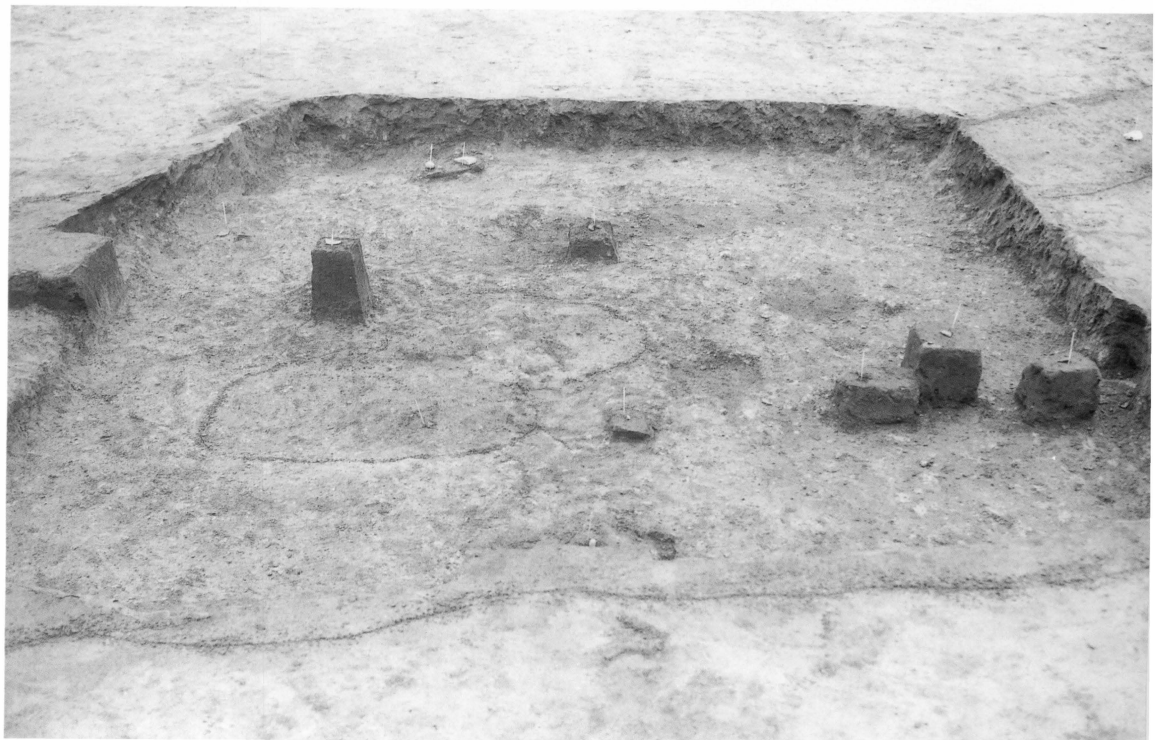
平成 9 年度調査区（北から）

平成 9 年度調査区（東から）

上層確認調査



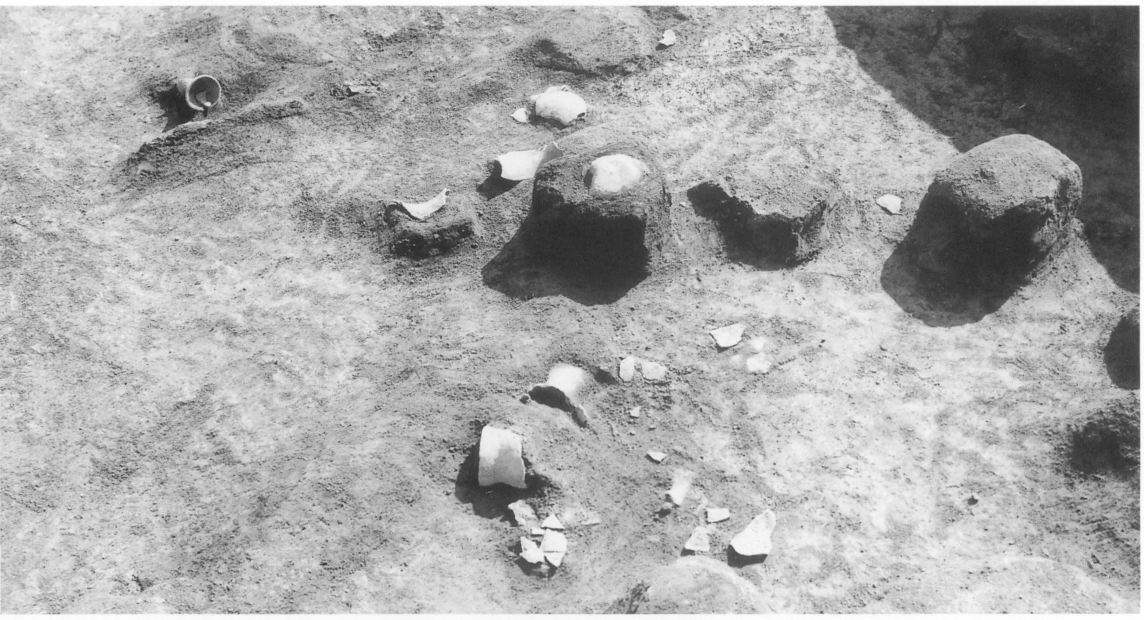
００３全景



００３遺物出土状況

図版 4

００４全景



００４遺物出土状況

００４焼土と炭化材

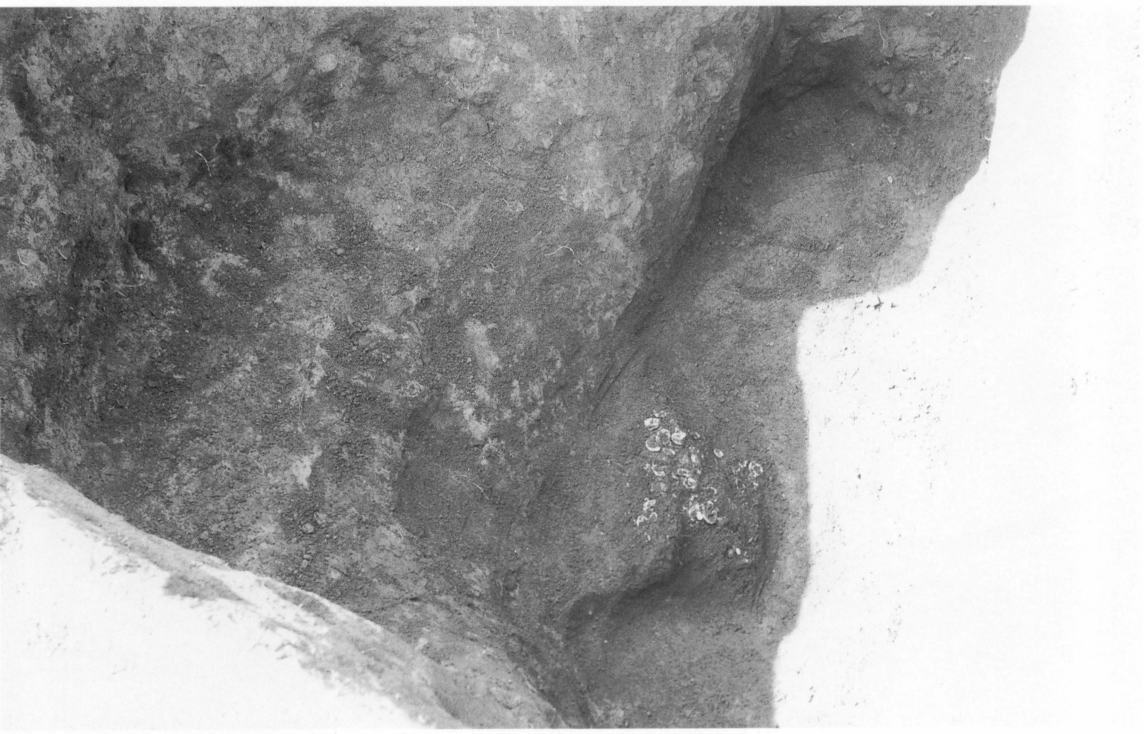
005全景

006全景

006遺物出土状況

図版 6

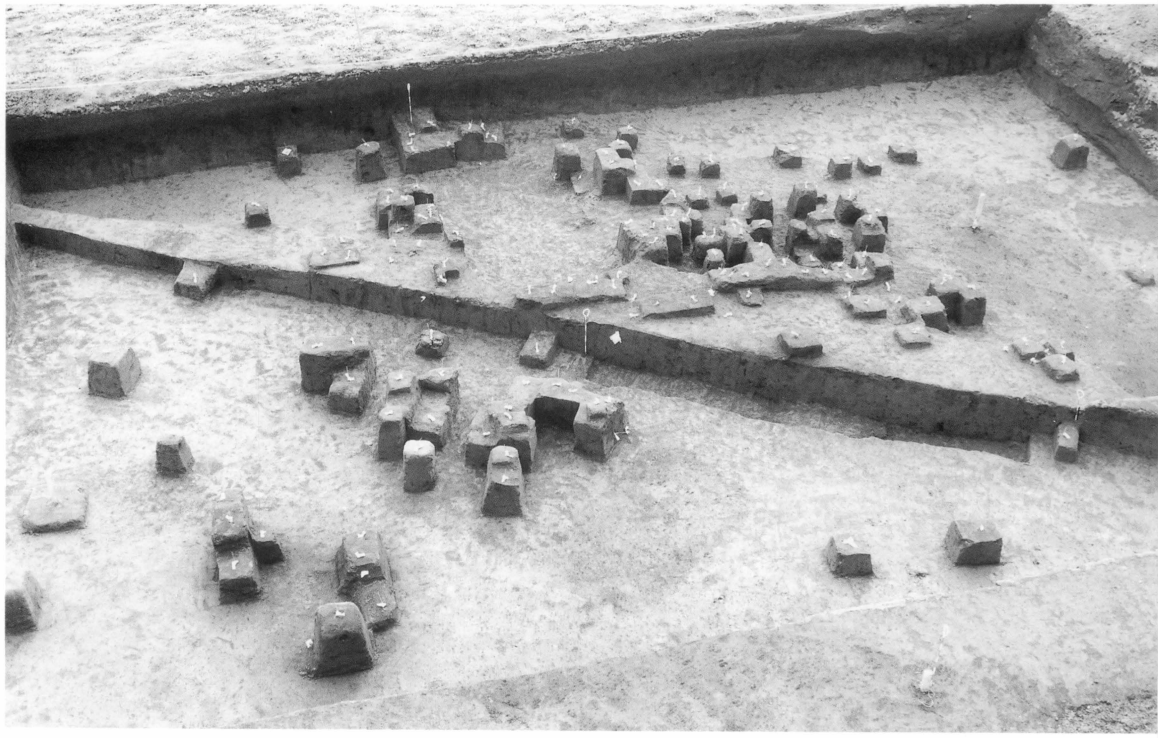
００７貝層出土状況（１）



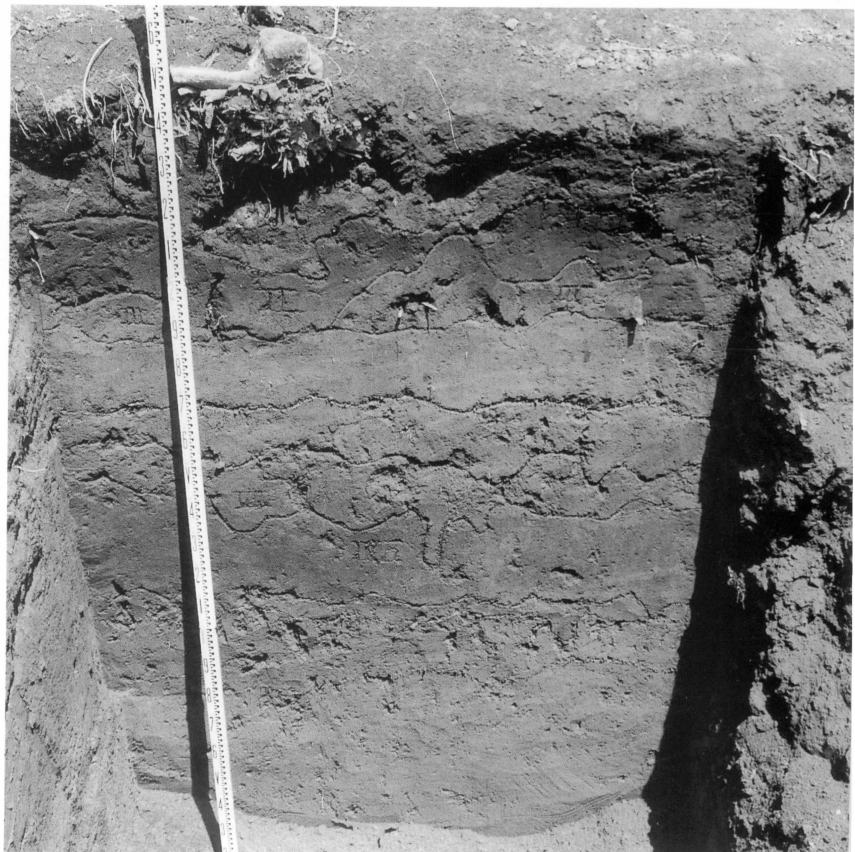
００７貝層出土状況（２）

００８全景

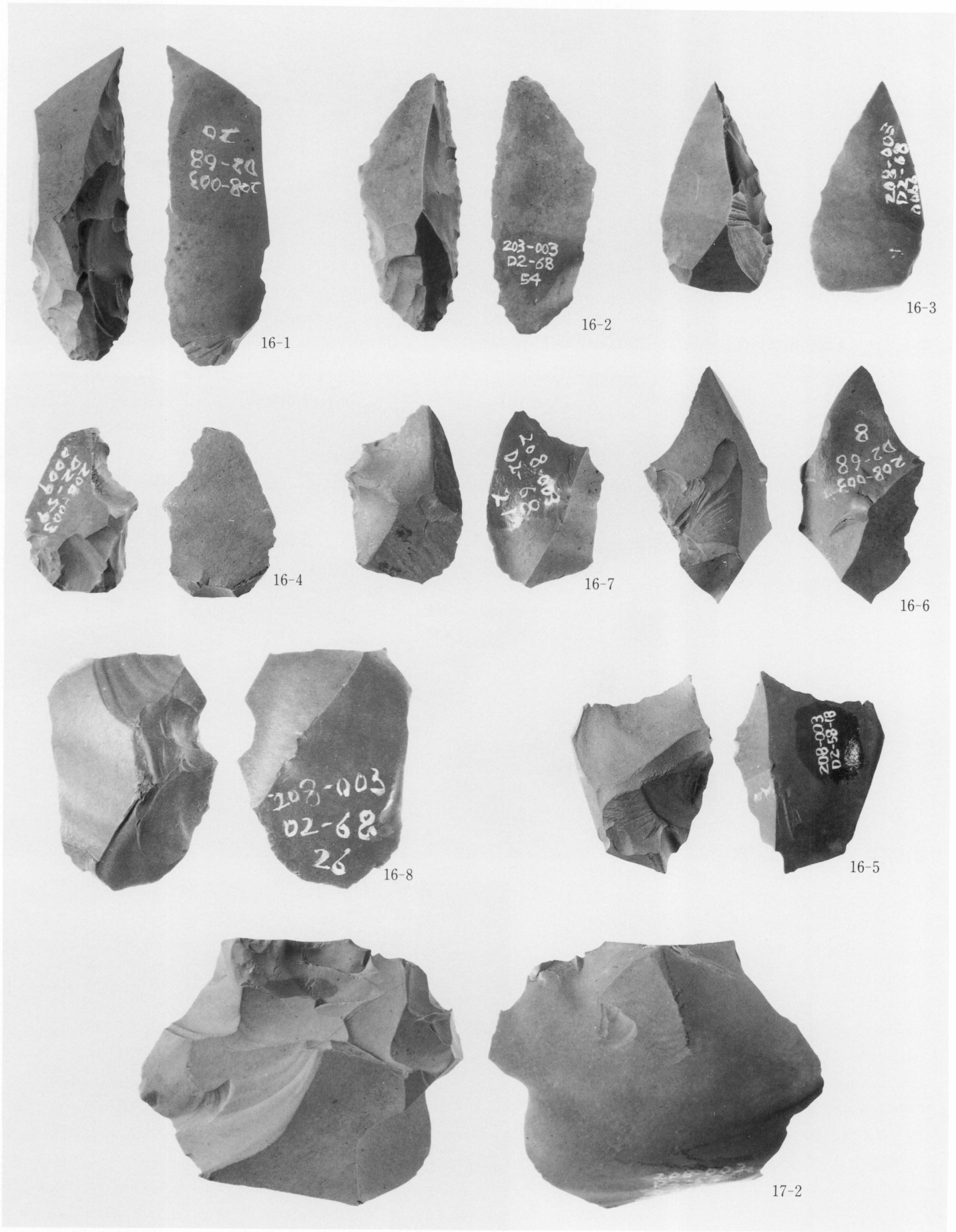
第１ブロック遺物出土状況



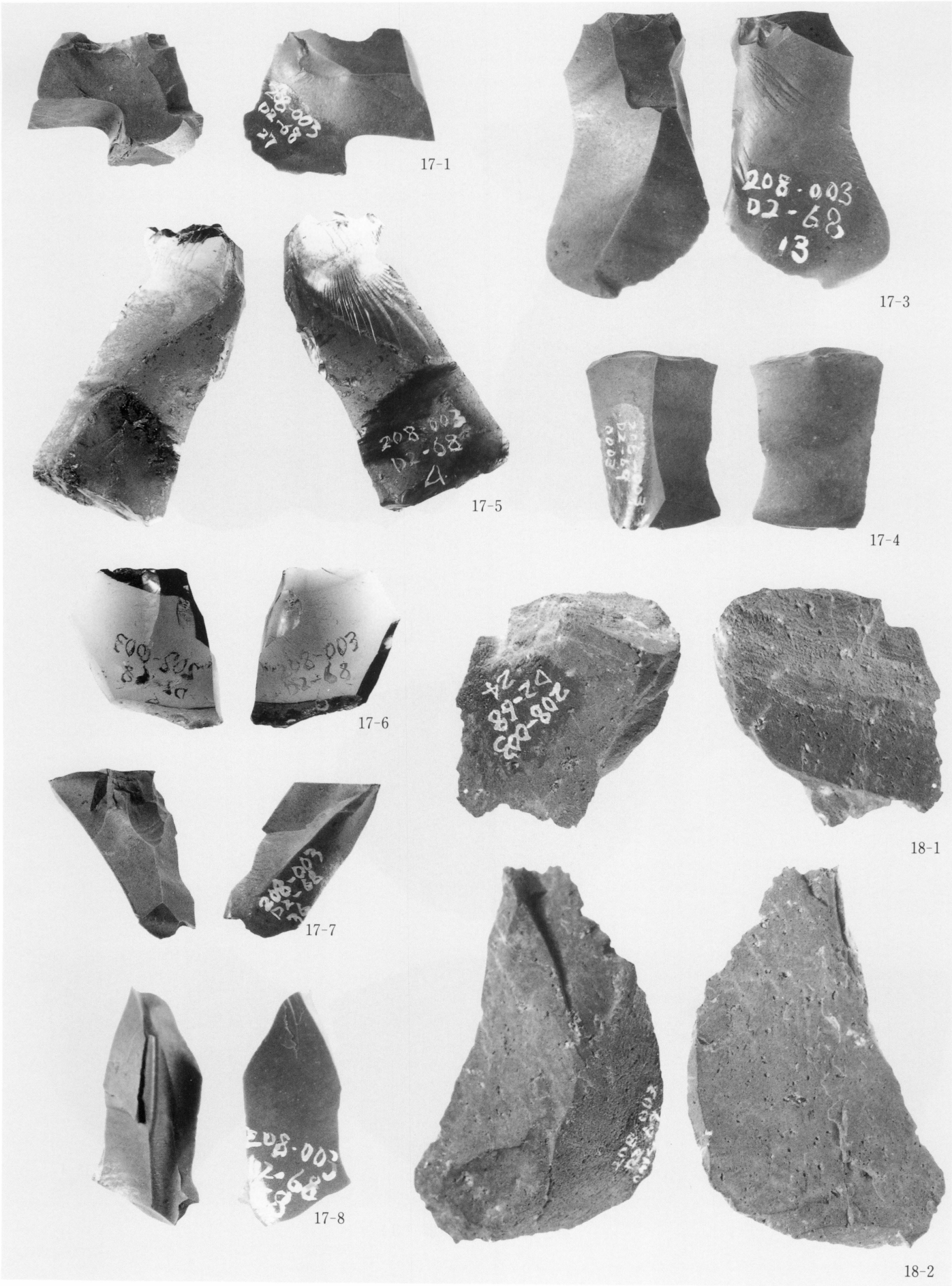
第２ブロック遺物出土状況



土層断面

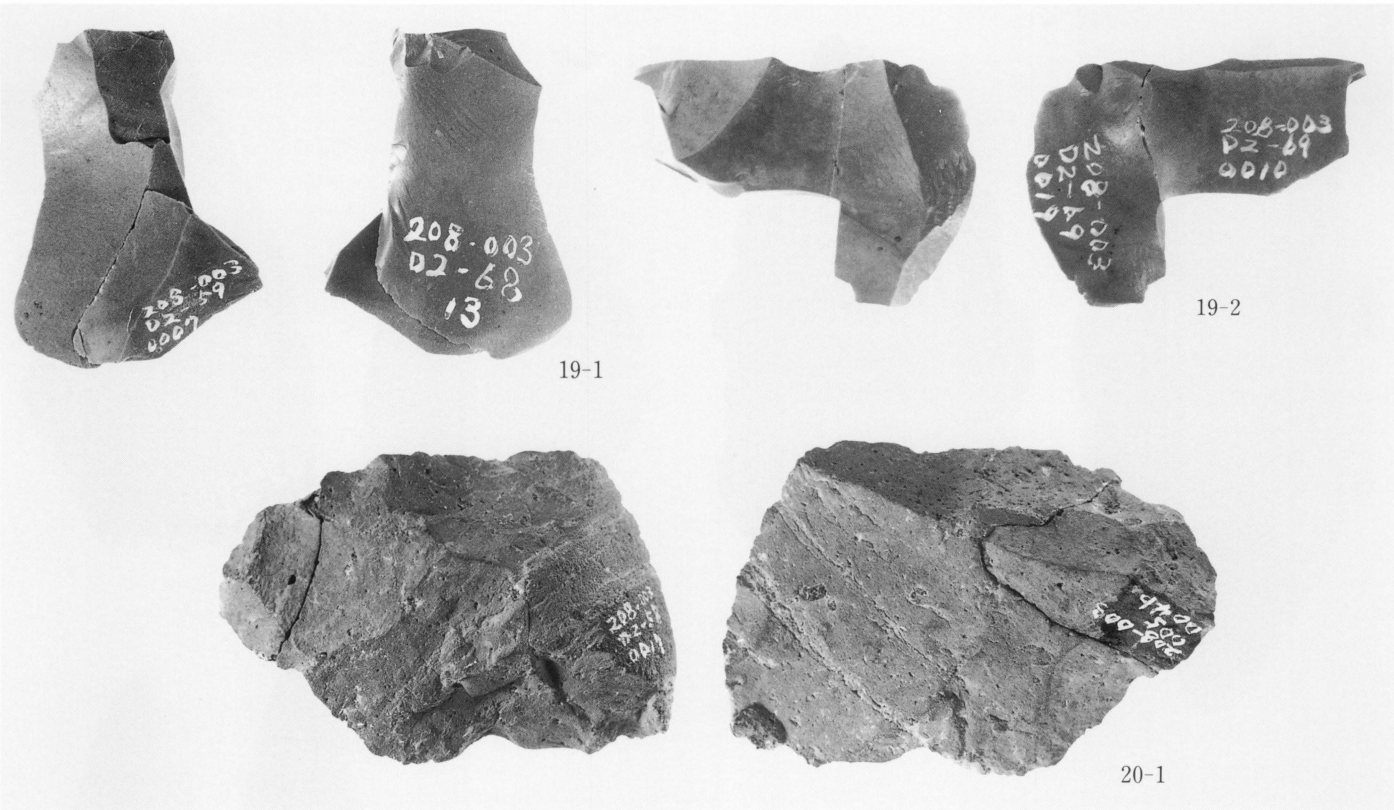

16-1
203-003
D2-68
54
16-2
16-3
16-4
16-7
16-6
203-003
D2-68
26
16-8
16-5
17-2

第１文化層出土石器（１）



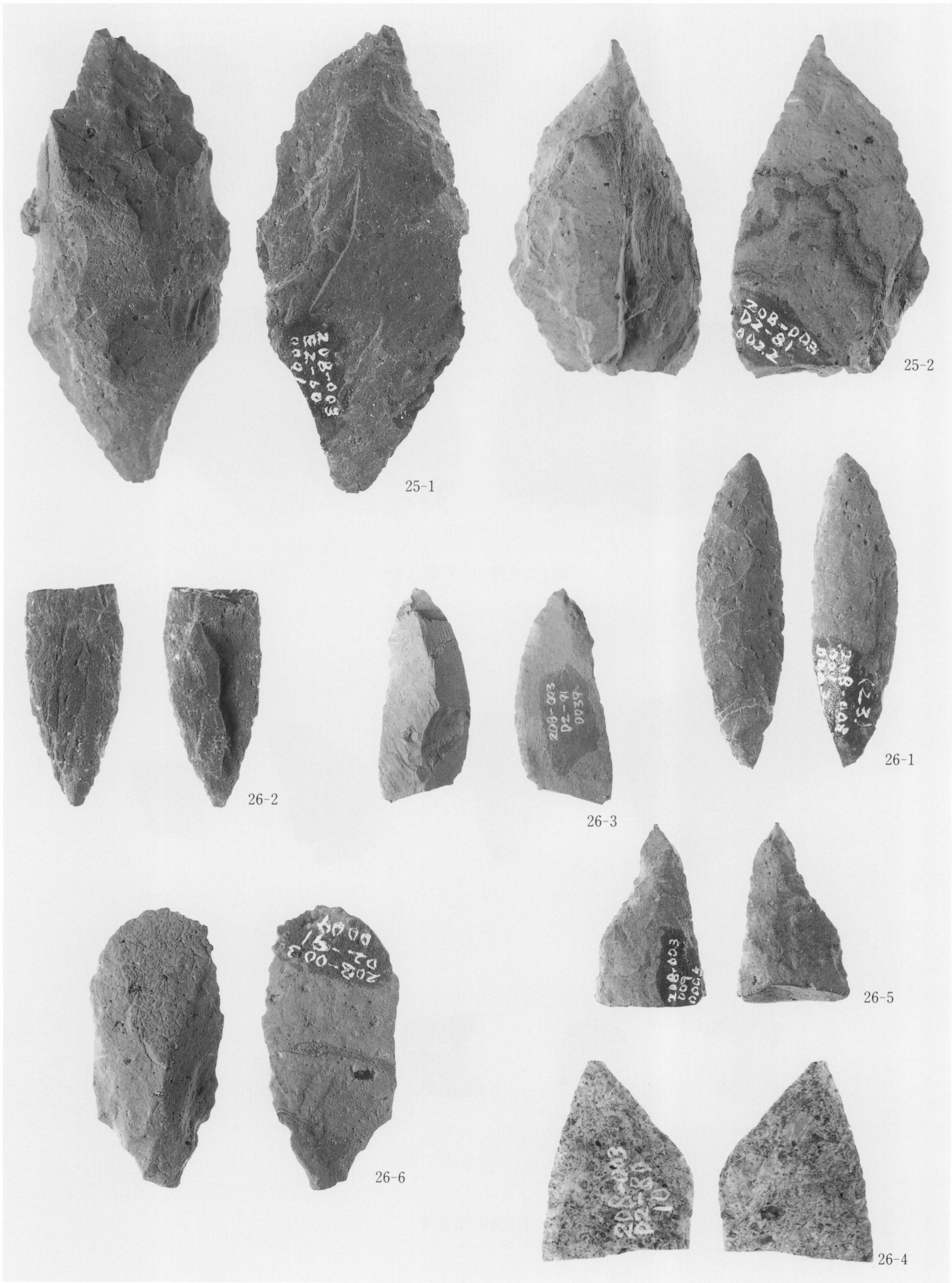
第１文化層出土石器（２）

第１文化層出土石器（３）

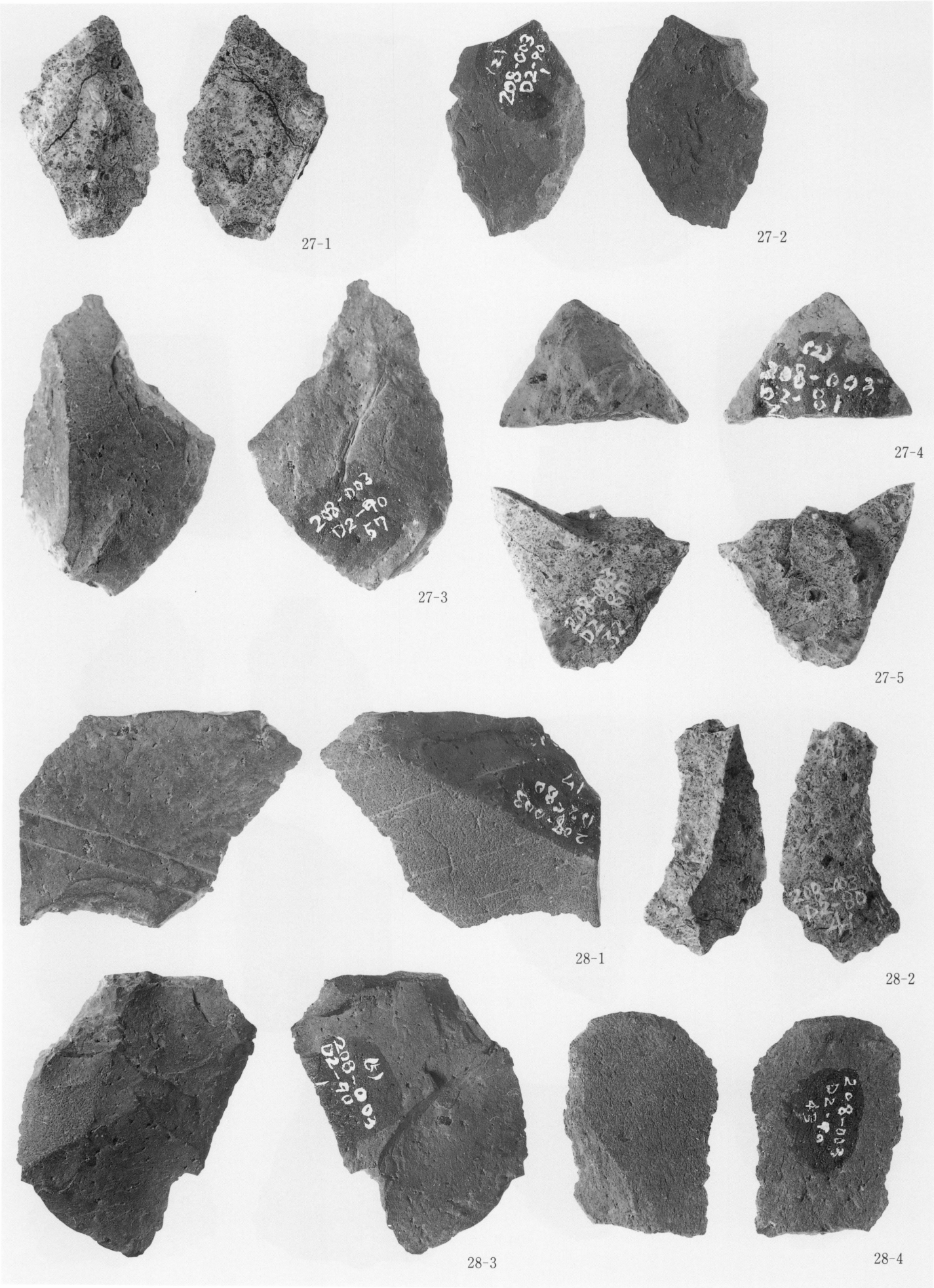


第１文化層出土石器（４）

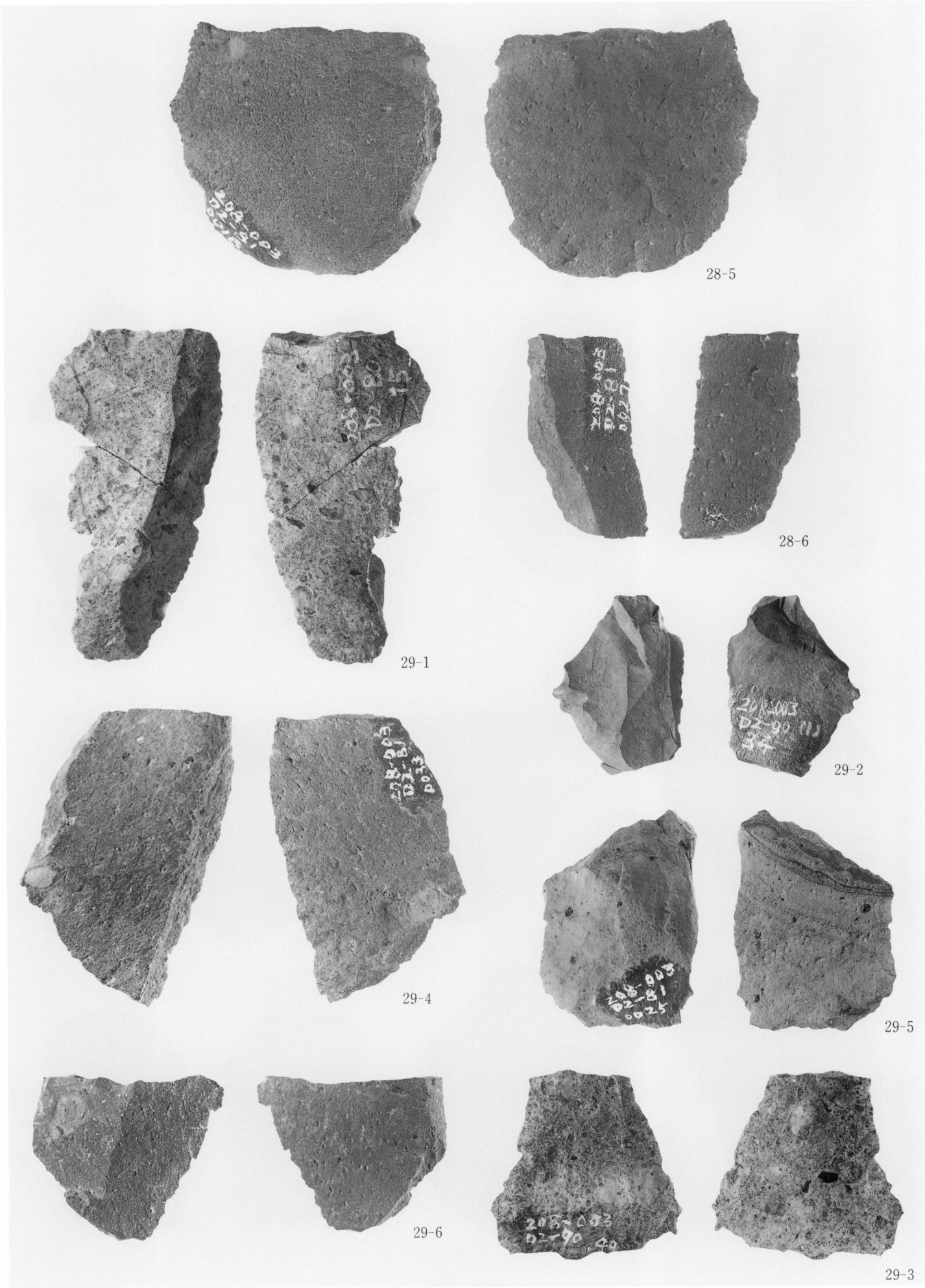
第１礫群構成礫



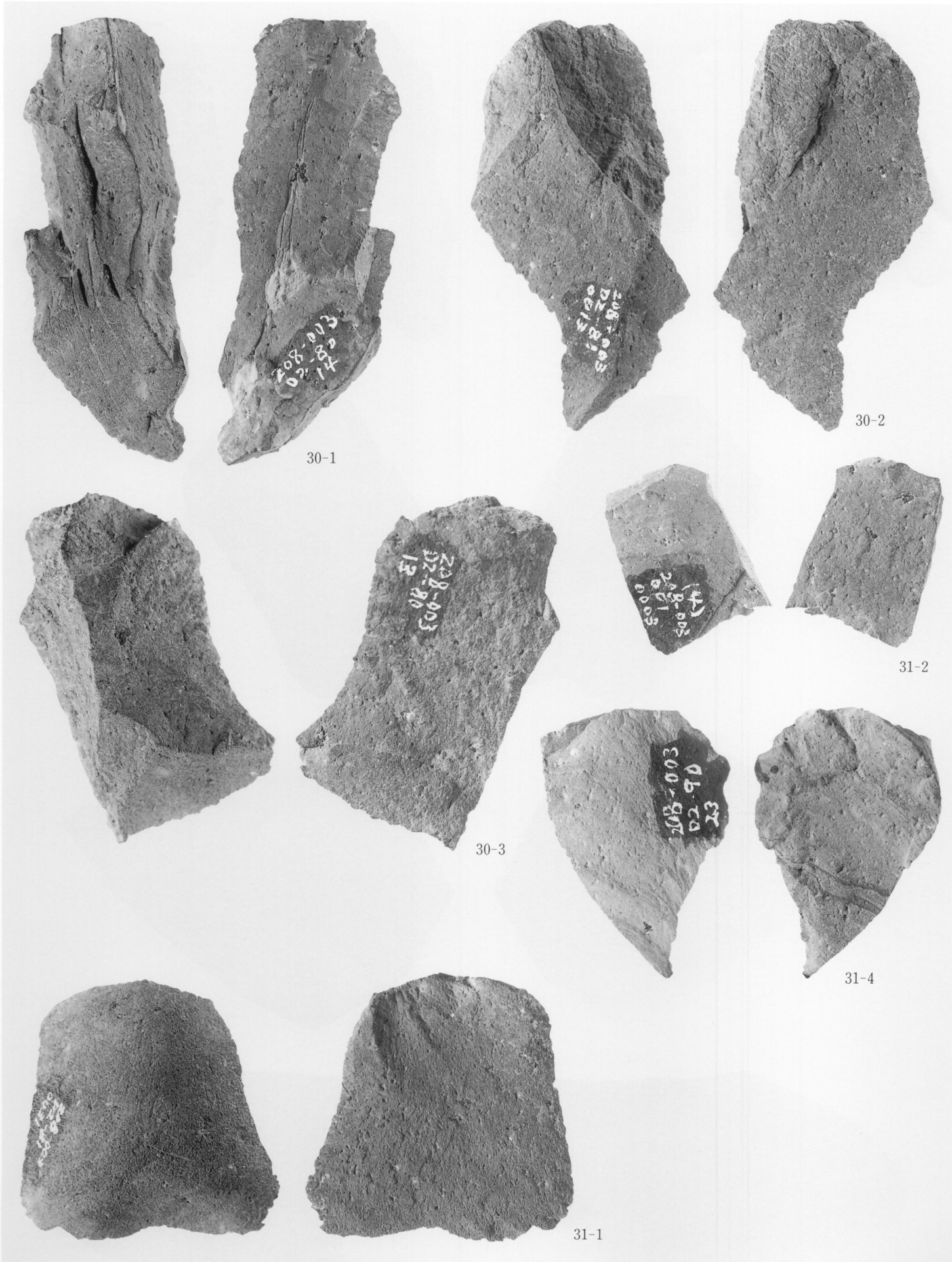
第２文化層出土石器（１）



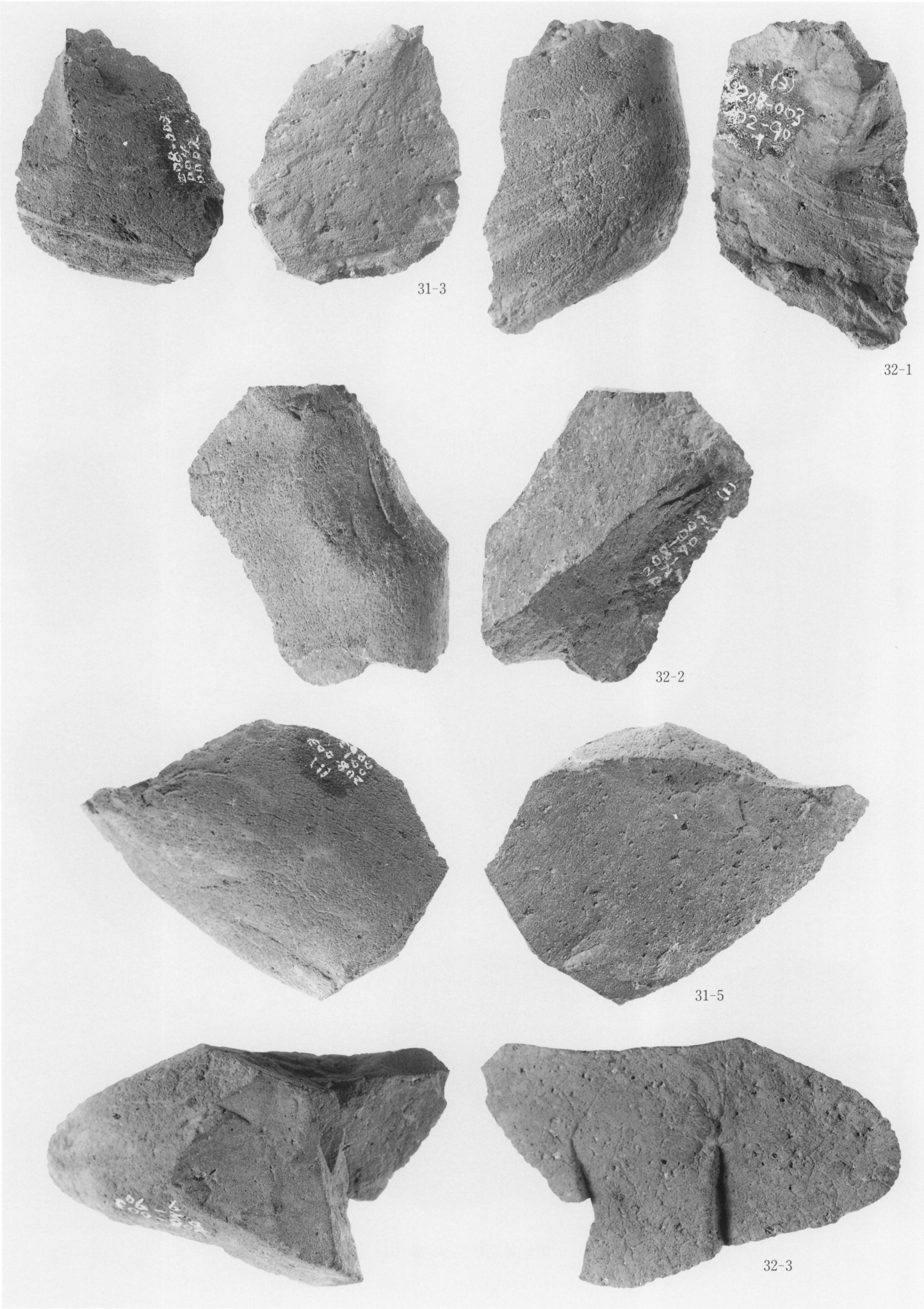
第２文化層出土石器（２）



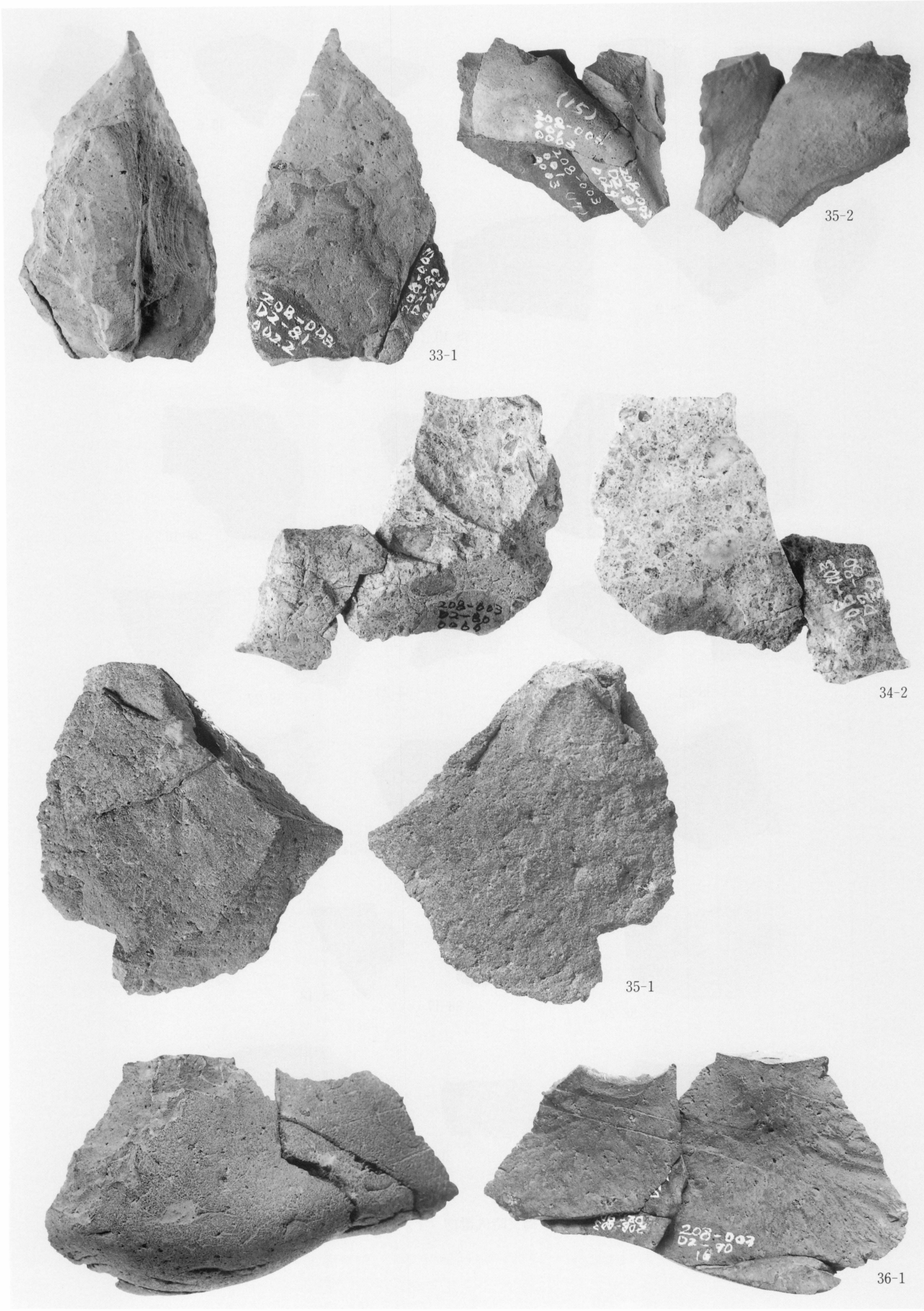
第２文化層出土石器（３）



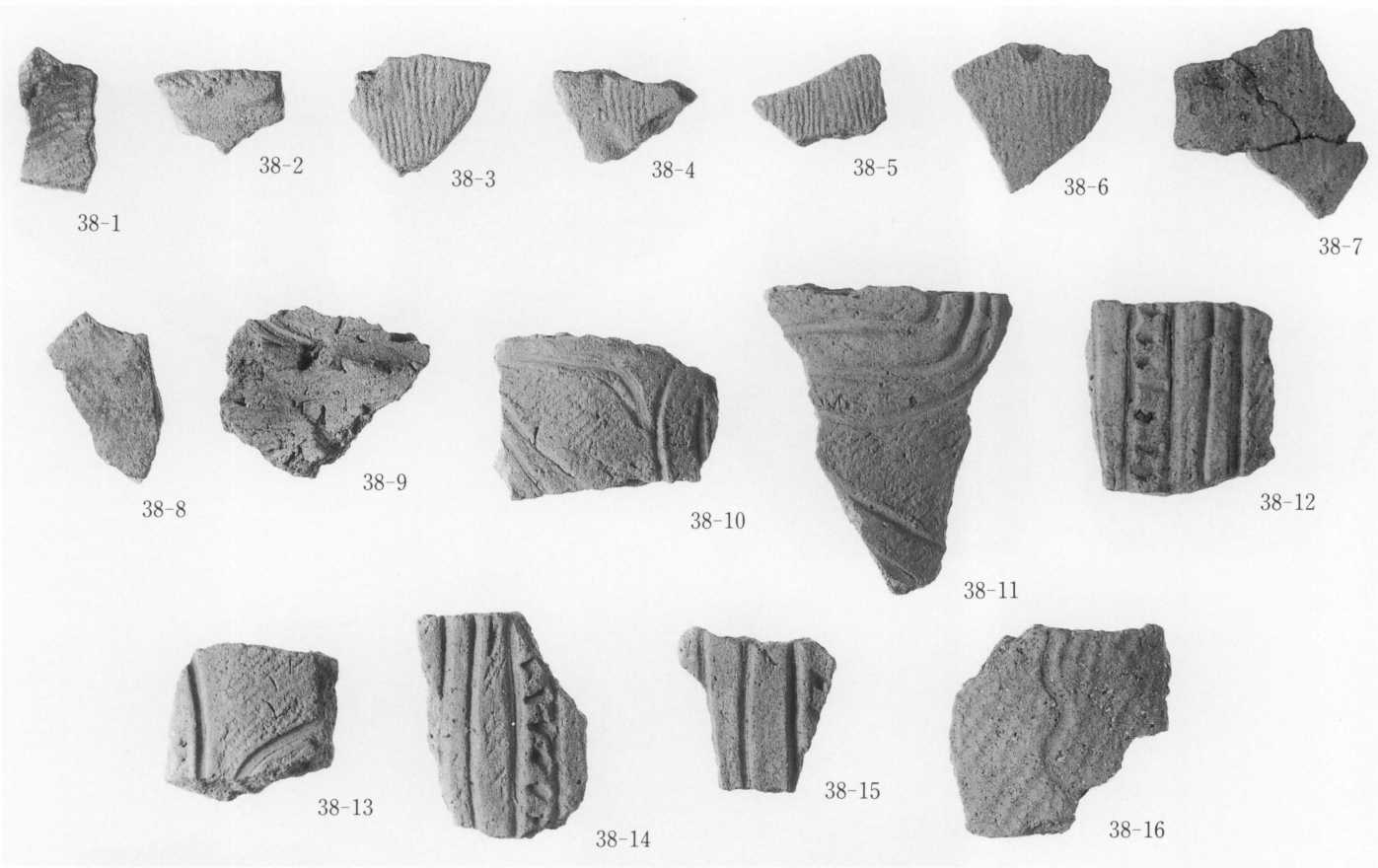
第２文化層出土石器（４）

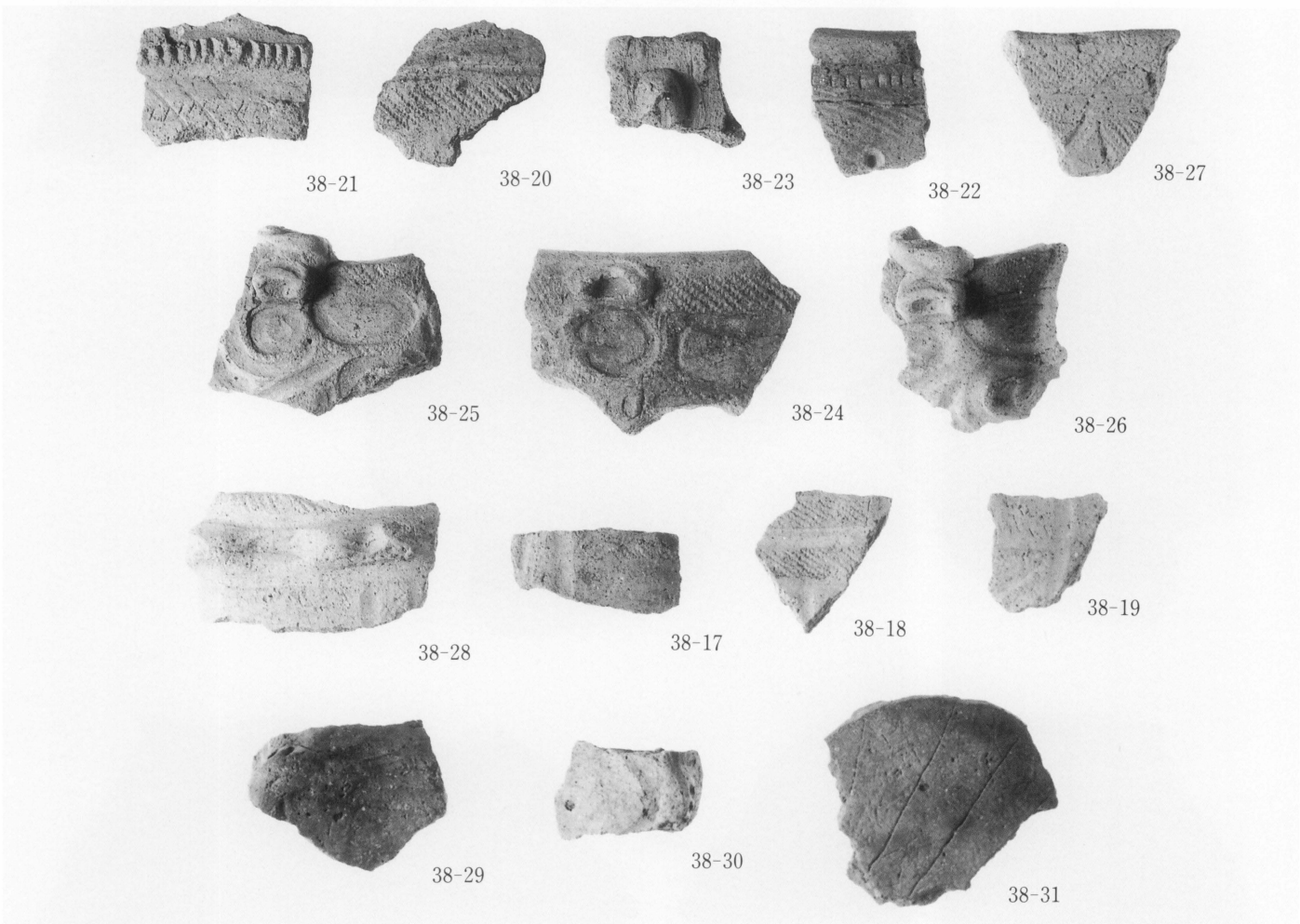


第２文化層出土石器（５）

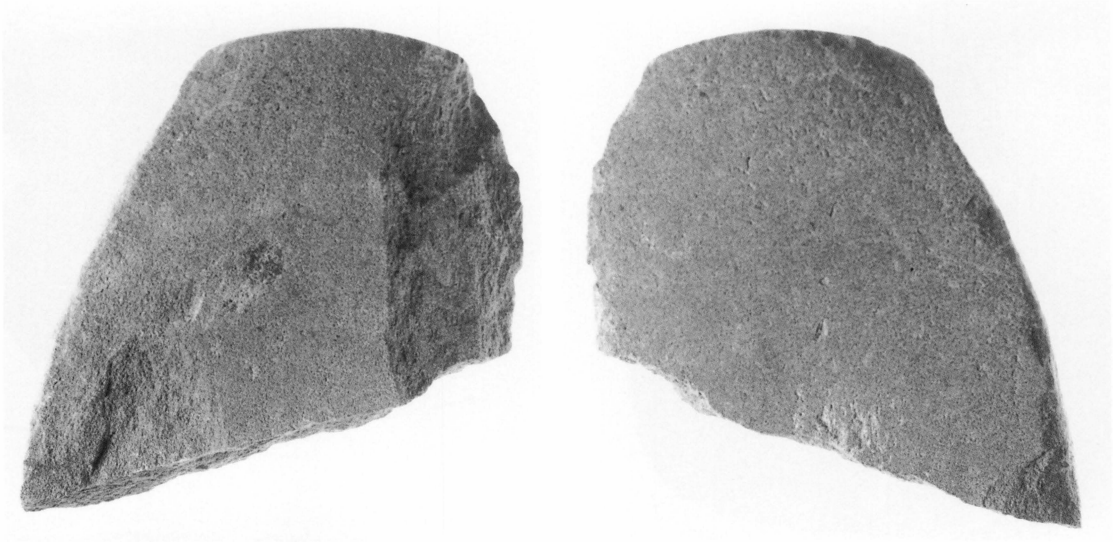


第２文化層出土石器（６）

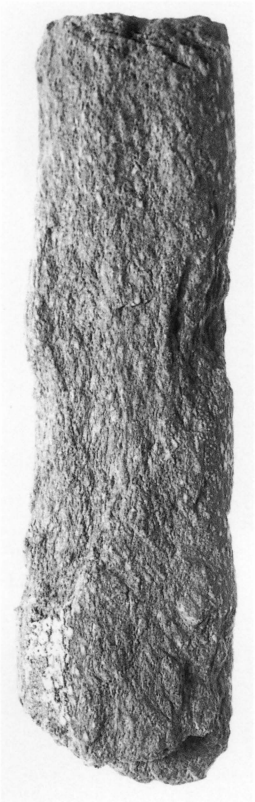

38-1
38-2
38-3
38-4
38-5
38-6
38-7
38-8
38-9
38-10
38-11
38-12
38-13
38-14
38-15
38-16

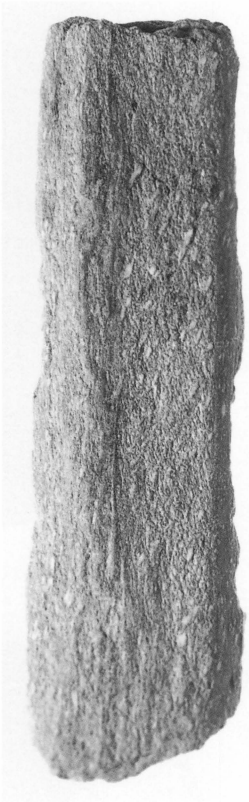

38-21
38-20
38-23
38-22
38-27
38-25
38-24
38-26
38-28
38-17
38-18
38-19
38-29
38-30
38-31

縄文時代遺物（1）

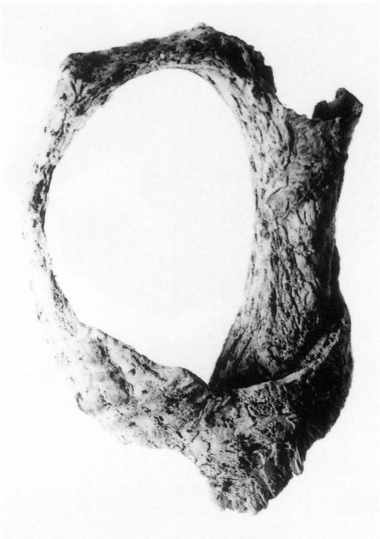


38-33





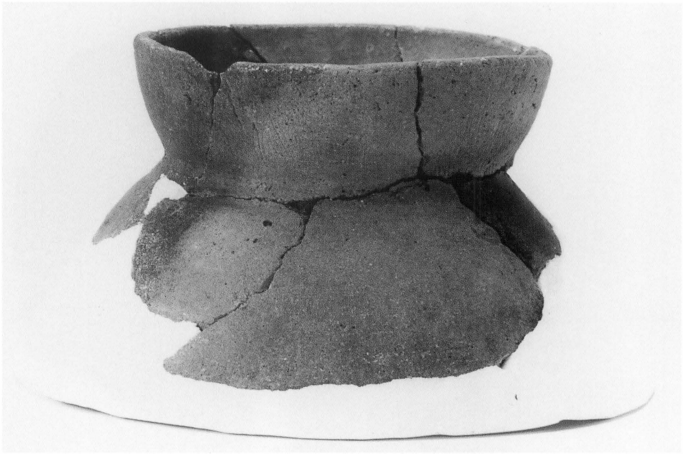
38-32



38-34

縄文時代遺物（2）

47-1



44-7

47-2

44-2

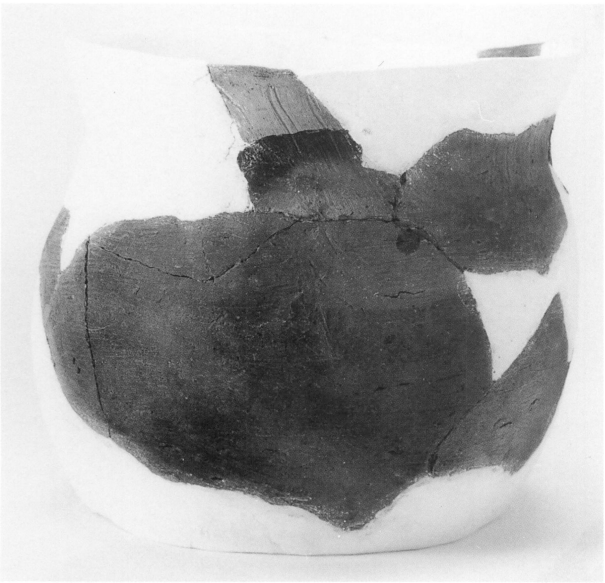
47-3

44-1

古墳時代遺物（1）

43-12

44-6



44-3

44-8

44-10

44-4

44-9

古墳時代遺物（2）

43-5

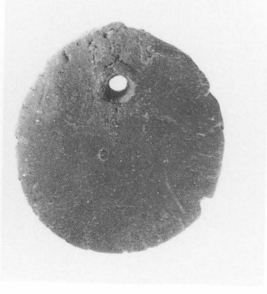
43-6

43-7

43-8

47-4

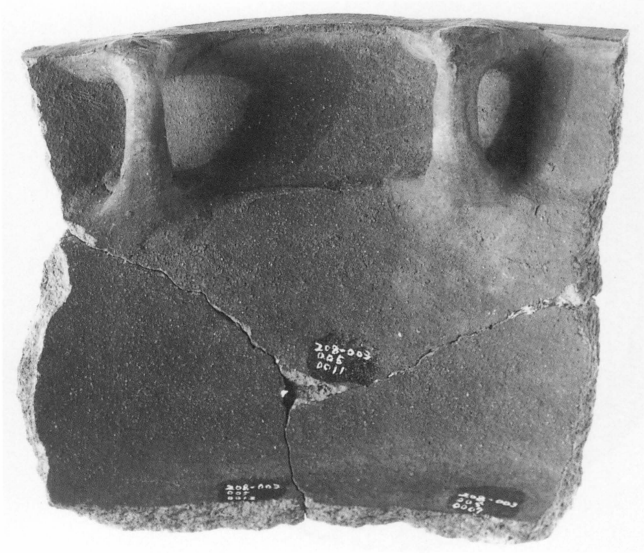
43-9


43-10

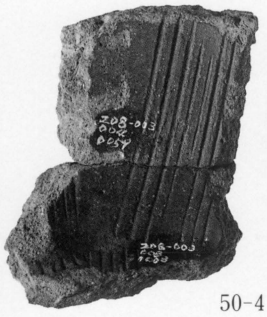
47-5

43-11

古墳時代遺物（3）



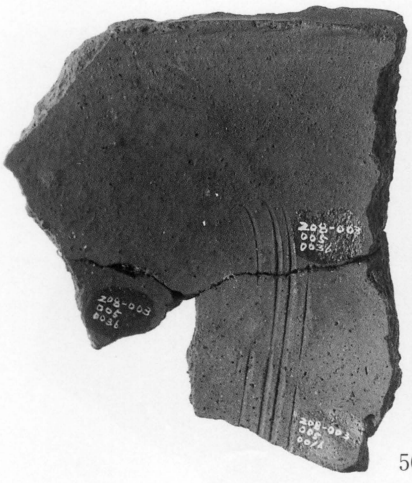
50-1



50-4

50-5

50-8



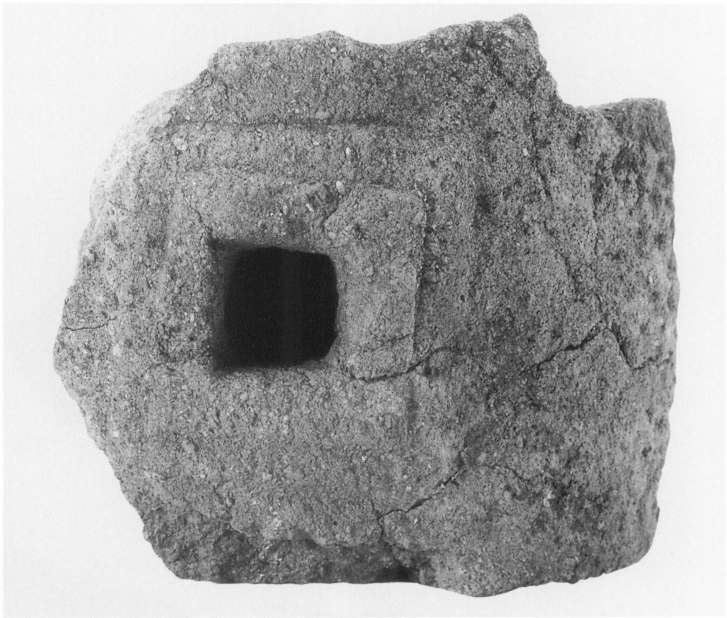
50-2

50-3

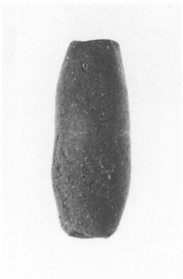
50-11

中近世遺物（1）

50-7

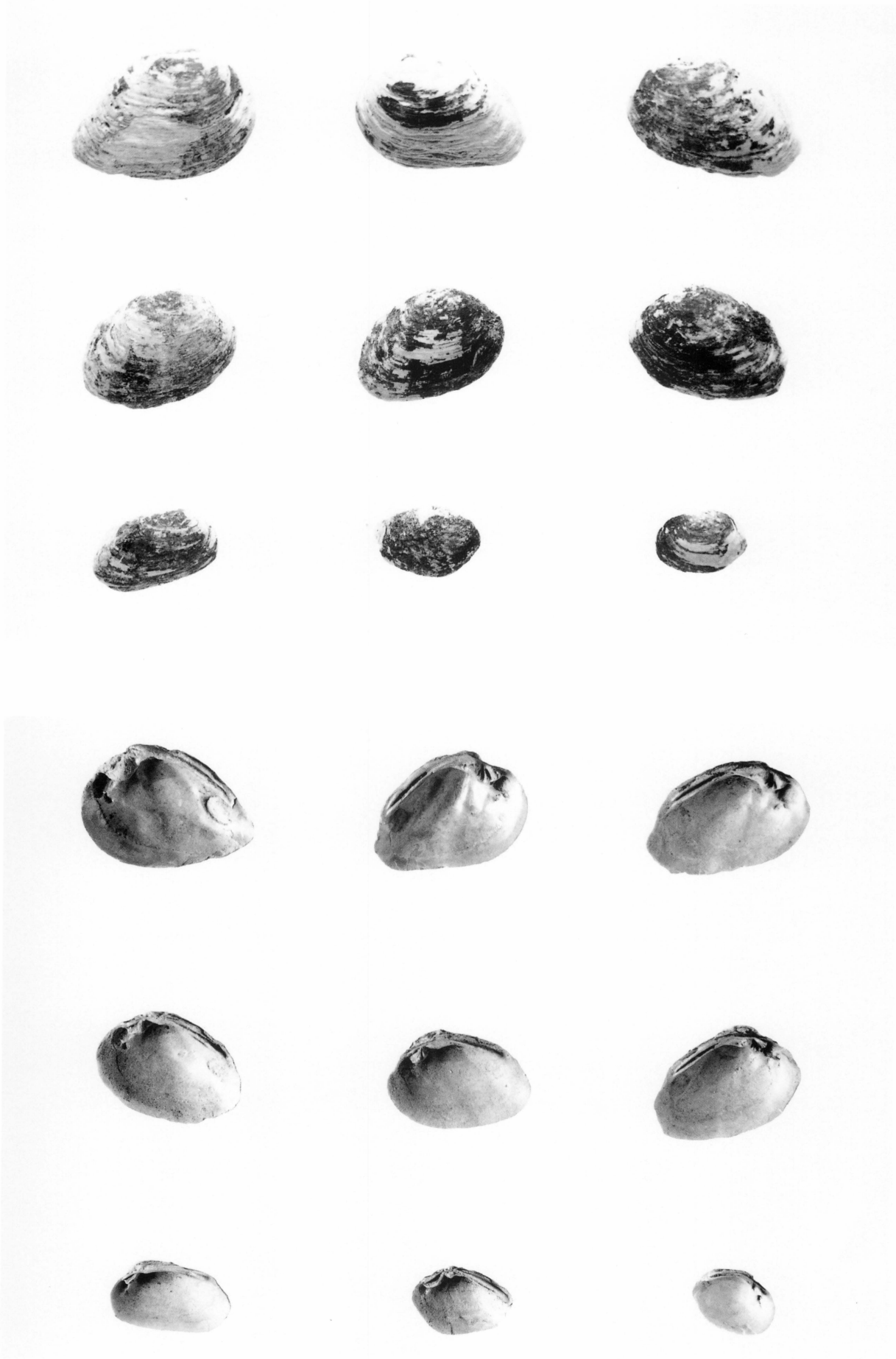


50-10



50-9

中近世遺物（2）



地下式坑出土貝類

報告書抄録

ふりがな	のだしみなみしたむらいせき
書名	野田市南下ヶ村遺跡
副書名	主要地方道我孫子関宿線埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第415集
編著者名	川島利道
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284－0003　千葉県四街道市鹿渡809－2　TEL043-422-8811
発行年月日	西暦2001年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
南下ヶ村（みなみしたむら）	千葉県野田市目吹（ちばけんのだしめぶき）1690－1ほか	12208	003	35度58分0秒	139度53分20秒	19980202～19980330 19980506～19980630	2,400 2,200	道路建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南下ヶ村	集落 墓	旧石器時代	石器集中地点　2地点	尖頭器，ナイフ形石器，スクレイパー，彫器，剥片，石核，礫	
		古墳時代	竪穴住居跡　3軒	土師器（前期），土玉，台石	
		中近世	地下式坑　2基 井戸状遺構　2基 溝状遺構　6条	縁釉小皿，土鍋，擂鉢，カワラケ，石臼，銭貨	15世紀代後葉の地下式坑から貝層ブロック検出

千葉県文化財センター調査報告第415集

野田市南下ヶ村遺跡

－主要地方道我孫子関宿線埋蔵文化財調査報告書－

平成13年3月30日発行

編　　集　　財団法人　千葉県文化財センター

発　　行　　千　葉　県　土　木　部
千葉市中央区市場町1－1

財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809－2

印　　刷　　株式会社　正　文　社
千葉市中央区都町1－10－6